

都城市文化財調査報告書 第7集

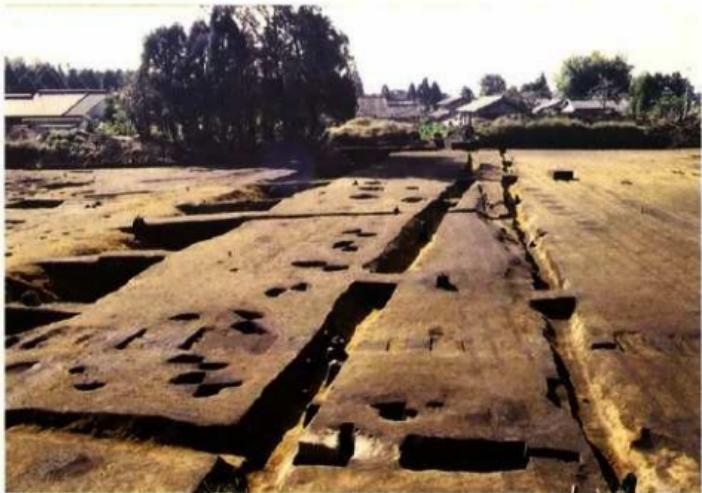
# 松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡

(祝吉・郡元地区区画整理事業に伴う発掘調査)

1989. 3

都城市教育委員会









## 序

この報告書は都市計画事業郡元・祝吉地区区画整理事業に伴い、都城市教育委員会が都城市区画整理課の依頼を受けて緊急発掘調査をおこなった遺跡の調査成果です。

当地の区画整理に係る発掘調査は昭和55・56年にひきつづき当報告書である第3次調査が昭和60年7月より12月までの約5か月間、第4次調査が昭和61年7月より10月までの約3か月間実施し、中・近世を中心とした貴重な遺構・遺物を検出し、今まで現地での第6次の発掘調査を完了したところであります。

本書が埋蔵文化財への理解と認識を深める一助になるとともに、学術研究資料として活用していただければ幸いです。

また、発掘調査から出土資料の整理・報告書作成に至るまで県文化課や出土資料指導を賜った先生方をはじめ、発掘調査に従事していただいた地元の人々に御指導・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成元年3月

教育長 久味木 福市

## 例　　言

1. 本書は、都城市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 掲載した遺跡は、都城市郡元町所在の松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡である。なお、松原地区第Ⅰ・Ⅱ遺跡については本報告であるが、松原地区第Ⅲ遺跡については概要報告である。
3. 本書の執筆は、各遺跡の調査担当者が協議分担して行ない、総編集は都城市教育委員会社会教育課主事 矢部喜多夫 があたった。

## 総　　目　　次

### 図版カラー

図版1. 空中写真	
図版2. 大溝・1号溝・2号溝(上) 東側ピット群(下)	
図版3. 大溝セクション(上) 2号井戸セクション(下)	
図版4. 松原第Ⅰ・Ⅲ遺跡出土遺物	
松原地区第Ⅰ遺跡	1
松原地区第Ⅱ遺跡	207
松原地区第Ⅲ遺跡	229
付論 松原地区の遺跡より出土した木材及び木材炭火物	257
松原地区第Ⅰ遺跡出土の鉄洋、刀鍔の金属学的調査	267

# 松原地区第Ⅰ遺跡

## 例　　言

1. 本書は都市計画事業祝賀・郡元区画整理事業に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査である。
2. 遺跡の所在地は松原地区第Ⅰ・Ⅱ遺跡が都城市郡元町字松原である。
3. 調査期間は昭和60年7月15日から昭和60年12月6日まで実施した。
4. 出土遺物（陶磁器類）に関しては佐賀県立陶磁文化館 大橋康二氏の指導を得た。  
また、炭化物及び鉄滓の同定についてそれぞれ宮崎大学農学部教授 大塚誠氏、新日本製鐵株式会社 大澤正巳氏に玉稿をいただいた。
5. 遺物の実測・トレースは、重永、矢部が行ない森畠光博氏の協力を得た。写真・編集は矢部があたった。また、本文執筆は分担しておこないそれぞれ文末に記した。
6. 出土遺物は都城市教育委員会が保管している。
7. 調査組織は下記のとおりである。

### 発掘調査の組織

発掘調査主体者　都城市教育委員会  
発掘調査責任者　都城市教育長　久味木　福市  
発掘調査事務局　都城市教育委員会  
　　都城市立図書館・郷土館長　宮田　基久  
　　同　　館長補佐　永山　勝美  
　　同　　主　事　穎川　孝生  
発掘調査担当者　都城市文化財専門員　重永　卓爾  
　　図書館・郷土館　主事補　矢部喜多夫  
発掘調査補助員　鹿児島大学考古学専攻卒　上田　耕  
　　同　　(試掘)　坪根　伸也  
　　同　　4年　吉本　正典

発掘調査指導 宮崎県教育庁文化課 面高 哲郎  
同 永友 良典  
同 長津 宗重  
同 北郷 泰道  
同 日高 孝治  
調査協力者 都城市文化財調査委員 児玉 三郎  
宮崎県教育庁文化課 谷口 武範  
鹿児島県職員 東 和幸

#### 発掘作業員

藤井良政 柿見信利 野口虎男 浜田寛 白浜兼利 柳橋秀治 下田代清海 岩切始広  
上村弘幸 坂元啓助 児玉厚郎 東憲章 田中浩志 田中健兒 森山浩 黒木鉄也  
園田耕平 池田ユキ 岩切ユキエ 岩切ユキ子 岩切ミキ 大盛祐子 蒲生ミツ子  
黒田朝子 坂元トミ子 白浜スミ子 白浜トヨ子 杉尾イツエ 高橋光子 立山ミヨ子  
立山キミ子 長友キヨミ 長友ミチ子 中村ミヤ子 野口チエ子 浜田幸子 松崎みえ子  
宮元キミエ 宮元カズ子 安丸チズ子  
重機 長友

#### 整理作業

大盛祐子 藤崎久美代

#### 昭和62年度 整理作業

#### 都城市教育委員会

社会教育課 課長 池田 正敏  
課長補佐・文化係長 藤崎 儀彰  
都城市文化財専門員 重永 卓爾  
主事 矢部 喜多夫

整理作業員 大盛祐子 児玉信子 猪俣幸千代 奥登根子

# 目 次

例 言  
本文目次  
図版目次  
写真図版目次  
表 目 次

## 本 文 目 次

I. 調査に至る経過.....	1
II. 1 遺跡の位置と環境.....	2
2 都城市の主要遺跡.....	5
III. 番 序.....	9
IV. 調査の概要.....	15
V. 遺構・遺物	
1 繩文時代 繩文土器.....	16
2 中世・近世の遺構、遺物.....	17
(1) 大溝.....	17
(2) 溝状遺構.....	33
(3) 掘立柱建物.....	51
(4) 井戸遺構.....	68
(5) 壁穴遺構.....	73
(6) 土壌.....	77
(7) その他の遺物.....	91
(8) 出土遺物観察表.....	109
VI.まとめ.....	120

## 図 版 目 次

Fig1	松原地区第I・II・III遺跡調査区グリッド図	3・4
Fig2	松原地区遺跡分布図(1/25,000)	2
Fig3	都城市内主要遺跡分布図	7・8
Fig4	松原第I遺跡東西方向土層断面図	11・12
Fig5	松原第I遺跡南北方向土層断面図	13・14
Fig6	松原第I遺跡出土繩文土器(1/3)	16
Fig7	松原第I遺跡大溝(1/100)	27・28
Fig8	松原第I遺跡大溝内出土遺物-1(1/3)	20
Fig9	松原第I遺跡大溝内出土遺物-2(1/3)	21
Fig10	松原第I遺跡大溝内出土遺物-3(1/3)	22
Fig11	松原第I遺跡大溝内出土遺物-4(1/3)	23
Fig12	松原第I遺跡大溝内出土遺物-5(1/4)	24
Fig13	松原第I遺跡大溝内出土遺物-6(1/3)	25
Fig14	松原第I遺跡大溝内出土遺物-7(1/3)	26
Fig15	松原第I遺跡大溝内出土遺物分布状況図(1/50)	29・30
Fig16	松原第I遺跡大溝セクション	31・32
Fig17	松原第I遺跡1号溝内出土遺物(1/3)	35
Fig18	松原第I遺跡2号溝(1/100)	37・38
Fig19	松原第I遺跡2・3・4・5・6・7号溝	39・40
Fig20	松原第I遺跡2号溝出土遺物(1/3)	36
Fig21	松原第I遺跡6・13号溝内出土遺物(1/3)	41
Fig22	松原第I遺跡4号溝内出土遺物(1/3)	42
Fig23	松原第I遺跡3・5号溝内出土遺物(1/3)	43
Fig24	松原第I遺跡7号溝内出土遺物(1/3)	44
Fig25	松原第I遺跡7号溝内出土遺物-2(1/4)	45
Fig26	松原第I遺跡7号溝内出土遺物-3(1/4)	46
Fig27	松原第I遺跡9号溝	47
Fig28	松原第I遺跡8・9・11号溝内出土遺物(1/3)	48
Fig29	松原第I遺跡溝セクション	49・50
Fig30	松原第I遺跡1号掘立柱建物	53・54
Fig31	松原第I遺跡2号掘立柱建物	57

Fig 32	松原第Ⅰ遺跡3・4・5号掘立柱建物	55・56
Fig 33	松原第Ⅰ遺跡6号掘立柱建物	58
Fig 34	松原第Ⅰ遺跡7号掘立柱建物	59
Fig 35	松原第Ⅰ遺跡8号掘立柱建物	60
Fig 36	松原第Ⅰ遺跡9号掘立柱建物	61
Fig 37	松原第Ⅰ遺跡9号掘立柱建物柱穴内出土遺物(1/3)	62
Fig 38	松原第Ⅰ遺跡掘立柱建物柱穴内出土遺物(1/3)	62
Fig 39	松原第Ⅰ遺跡10号掘立柱建物(1/3)	63
Fig 40	松原第Ⅰ遺跡10号掘立柱建物柱穴内出土遺物(1/3)	64
Fig 41	松原第Ⅰ遺跡東側ピット内出土遺物-1(1/3)	65
Fig 42	松原第Ⅰ遺跡東側ピット内出土遺物-2(1/3)	66
Fig 43	松原第Ⅰ遺跡東側ピット内出土遺物-3(1/3)	67
Fig 44	松原第Ⅰ遺跡1号井戸及び出土遺物(1/3)	68
Fig 45	松原第Ⅰ遺跡2号井戸(1/3)	69
Fig 46	松原第Ⅰ遺跡3号井戸(1/3)	70
Fig 47	松原第Ⅰ遺跡3号井戸内出土遺物(1/3)	71
Fig 48	松原第Ⅰ遺跡5号井戸内出土遺物(1/2)	72
Fig 49	松原第Ⅰ遺跡4号井戸(1/3)及び出土遺物(1/3)	72
Fig 50	松原第Ⅰ遺跡1号竪穴遺構(1/3)及び出土遺物(1/3)	74
Fig 51	松原第Ⅰ遺跡2号竪穴遺構(1/3)及び出土遺物(1/3)	75
Fig 52	松原第Ⅰ遺跡3号竪穴遺構(1/3)及び出土遺物(1/3)	76
Fig 53	松原第Ⅰ遺跡特殊土壤(1/3)	79・80
Fig 54	松原第Ⅰ遺跡特殊土壤内出土遺物(1/3)	78
Fig 55	松原第Ⅰ遺跡1号土壤(1/2)	81
Fig 56	松原第Ⅰ遺跡1号土壤内出土遺物(1/4)	82
Fig 57	松原第Ⅰ遺跡20(下)・23(上)号土壤(1/3)	84
Fig 58	松原第Ⅰ遺跡18(地下式)・19号土壤(1/3)及び出土遺物	85
Fig 59	松原第Ⅰ遺跡29号土壤(1/3)	86
Fig 60	松原第Ⅰ遺跡30号土壤及び出土遺物(1/3)	87
Fig 61	松原第Ⅰ遺跡31(下)・32(上)号土壤(1/3)	88
Fig 62	松原第Ⅰ遺跡土壤内出土遺物(1/3)	89
Fig 63	松原第Ⅰ遺跡出土遺物-青磁1(1/3)	91
Fig 64	松原第Ⅰ遺跡出土遺物-青磁2(1/3)	92
Fig 65	松原第Ⅰ遺跡出土遺物-青磁3(1/3)	93

Fig 66	松原第 I 遺跡出土遺物—青磁 4 (1/3) .....	94
Fig 67	松原第 I 遺跡出土遺物—白磁 (1/3) .....	95
Fig 68	松原第 I 遺跡出土遺物—青花・染付 (1/3) .....	96
Fig 69	松原第 I 遺跡出土遺物—染付 (1/3) .....	97
Fig 70	松原第 I 遺跡出土遺物—瀬戸・常滑・東播系 (1/3) .....	98
Fig 71	松原第 I 遺跡出土遺物—備前 (1/4) .....	99
Fig 72	松原第 I 遺跡出土遺物—土師器 1 (1/3) .....	100
Fig 73	松原第 I 遺跡出土遺物—土師器 2 (1/3) .....	101
Fig 74	松原第 I 遺跡出土遺物—在地系土器 1 (1/4) .....	102
Fig 75	松原第 I 遺跡出土遺物—在地系土器 2 (1/4) .....	103
Fig 76	松原第 I 遺跡出土遺物—金属製品 (1/3) .....	104
Fig 77	松原第 I 遺跡出土遺物—石製品 1 (1/3) .....	105
Fig 78	松原第 I 遺跡出土遺物—石製品 2 (1/3) .....	106
Fig 79	松原第 I 遺跡出土遺物—石製品 3 (1/3) .....	107
Fig 80	松原第 I 遺跡出土遺物—古錢 (1/2) .....	108

## 写真図版目次

P.L. 1	松原第I遺跡土層断面図(カラー) .....	9
P.L. 2	松原第I遺跡出土繩文土器 .....	16
P.L. 3	松原第I・II遺跡航空写真(1/3000) .....	135
P.L. 4	松原第I・II遺跡航空写真(1/750) .....	136
P.L. 5	松原第I遺跡大溝全景及び側壁落込み .....	137
P.L. 6	松原第I遺跡大溝内遺物出土状況 .....	138
P.L. 7	松原第I遺跡大溝・1号・2号溝全景 .....	139
P.L. 8	松原第I遺跡大溝・溝検出状況 .....	140
P.L. 9	松原第I遺跡西側地区溝検出及び完掘状況 .....	141
P.L. 10	松原第I遺跡西側地区土壤及び柱穴出土状況 .....	142
P.L. 11	松原第I遺跡東側地区柱穴出土状況 .....	143
P.L. 12	松原第I遺跡2号井戸 .....	144
P.L. 13	松原第I遺跡3号井戸 .....	145
P.L. 14	松原第I遺跡4号井戸 .....	146
P.L. 15	松原第I遺跡1号堅穴遺構 .....	147
P.L. 16	松原第I遺跡2号堅穴遺構 .....	148
P.L. 17	松原第I遺跡3号堅穴遺構 .....	149
P.L. 18	松原第I遺跡特殊土壤 .....	150
P.L. 19	松原第I遺跡1号土壤及び遺物出土状況 .....	151
P.L. 20	松原第I遺跡22号・20号・23号・24号土壤 .....	152
P.L. 21	松原第I遺跡23号・24号・18号土壤 .....	153
P.L. 22	松原第I遺跡30号・31号・32号土壤 .....	154
P.L. 23	松原第I遺跡西側地区柱穴出土状況 .....	155
P.L. 24	松原第I遺跡遺物出土状況-1 .....	156
P.L. 25	松原第I遺跡遺物出土状況-2 .....	157
P.L. 26	松原第I遺跡遺物出土状況-3 .....	158
P.L. 27	松原第I遺跡遺物出土状況-4 .....	159
P.L. 28	松原第I遺跡大溝セクション .....	160
P.L. 29	松原第I遺跡2号溝セクション .....	161
P.L. 30	松原第I遺跡2号溝 .....	162
P.L. 31	松原第I遺跡2号・3号及び4号・5号溝切り合い状況 .....	163
P.L. 32	松原第I遺跡2号・3号溝セクション .....	164

P.L. 33	松原第I遺跡大溝内出土遺物-1	165
P.L. 34	松原第I遺跡大溝内出土遺物-2	166
P.L. 35	松原第I遺跡大溝内出土遺物-3・4	167
P.L. 36	松原第I遺跡大溝内出土遺物-5	168
P.L. 37	松原第I遺跡大溝内出土遺物-6	169
P.L. 38	松原第I遺跡大溝内出土遺物-7	170
P.L. 39	松原第I遺跡溝1号溝内出土遺物	171
P.L. 40	松原第I遺跡溝2号溝内出土遺物	172
P.L. 41	松原第I遺跡溝4号溝内出土遺物	173
P.L. 42	松原第I遺跡溝3号・5号溝内出土遺物	174
P.L. 43	松原第I遺跡溝6号・13号溝・5号井戸・21号・26号土壙及び西側ピット群内出土遺物	175
P.L. 44	松原第I遺跡溝7号溝内出土遺物-1	176
P.L. 45	松原第I遺跡溝7号溝内出土遺物-2	177
P.L. 46	松原第I遺跡溝7号溝内出土遺物-3	178
P.L. 47	松原第I遺跡溝8号・9号・11号溝内出土遺物	179
P.L. 48	松原第I遺跡掘立柱建物柱穴及び1号井戸内出土遺物	180
P.L. 49	松原第I遺跡東側ピット内出土遺物-1	181
P.L. 50	松原第I遺跡東側ピット内出土遺物-2	182
P.L. 51	松原第I遺跡東側ピット内出土遺物-3	183
P.L. 52	松原第I遺跡3号井戸内出土遺物	184
P.L. 53	松原第I遺跡4号井戸内出土遺物	185
P.L. 54	松原第I遺跡1号・2号・3号竪穴遺構内出土遺物	186
P.L. 55	松原第I遺跡特殊土壙内出土遺物	187
P.L. 56	松原第I遺跡土壙内出土遺物	188
P.L. 57	松原第I遺跡出土遺物-青磁1	189
P.L. 58	松原第I遺跡出土遺物-青磁2	190
P.L. 59	松原第I遺跡出土遺物-青磁3	191
P.L. 60	松原第I遺跡出土遺物-青磁4	192
P.L. 61	松原第I遺跡出土遺物-白磁	193
P.L. 62	松原第I遺跡出土遺物-青花・染付	194
P.L. 63	松原第I遺跡出土遺物-染付	195
P.L. 64	松原第I遺跡出土遺物-瀬戸・常滑・東播	196
P.L. 65	松原第I遺跡出土遺物-備前	197
P.L. 66	松原第I遺跡出土遺物-土師器1	198

P L . 67	松原第Ⅰ遺跡出土遺物—土師器 2 .....	199
P L . 68	松原第Ⅰ遺跡出土遺物—在地系 .....	200
P L . 69	松原第Ⅰ遺跡出土金屬製品 .....	201
P L . 70	松原第Ⅰ遺跡出土石製品—1 .....	202
P L . 71	松原第Ⅰ遺跡出土石製品—2 .....	203
P L . 72	松原第Ⅰ遺跡出土石製品—3 .....	204
P L . 73	松原第Ⅰ遺跡出土古錢 .....	205

## 表 目 次

表 1	都城市の主要遺跡地名表 .....	6
表 2	土壤一覧表 .....	90

## I. 調査に至る経緯

祝吉・郡元地区区画整理事業は、昭和54年より毎年実施されてきており、昭和60年度までに約20haの土地が区画整理されている。昭和55年7月祝吉地区で区画整理造成中に弥生土器が出土し、遺跡発見届が提出され遺跡の存在が明らかになった。このことにより昭和55年、翌56年と祝古遺跡の発掘調査を実施している。また、昭和57年には区画整理による道路拡幅の際古墳時代の土器4点がほぼ完形で出土し、都合3ヶ所で遺跡の存在が確かめられている。昭和60年4月、市区画整理課より60年度の事業計画区域における埋蔵文化財包蔵地の有無の照会があった。計画区域は昭和56年発掘調査の祝古遺跡から小川をはさんで東側隣接地約3haで、調査区域は台地の縁辺部を含んでいたため遺跡の可能性が十分考えられた。同年4月30日より3日間事業計画内外約10地点で試掘調査を実施した。結果4地点において御池ボラ層上面で、溝状遺構・柱穴等の遺構や青磁・土師器片などの中世から近世にかけての遺物が出土した。これらの遺跡は字名をとり松原地区遺跡群として一括して把えることにした。

昭和60年5月末、松原地区の区画整理事業の決定により2地区で遺跡の現状保存が困難となつたため区画整理課と協議した結果、同年7月末より約4ヶ月間、松原地区第I遺跡（約6500m<sup>2</sup>）・松原地区第II遺跡（約2000m<sup>2</sup>）の発掘調査を都城市教育委員会が実施し記録保存の措置をとった。

（矢部）

## II. 1. 遺跡の位置と環境

松原地区遺跡群は、宮崎県都城市郡元町字松原に所在する。

都城市は宮崎県の南西部にあり、東に鰐塚山地、西には霧島山地に囲まれた盆地状の地形である。北は高原町、山田町、高崎町、高城町と向かい、東は三股町、日南市、串間市と接し、南は鹿児島県曾於郡末吉町、財部町と境界をなす海岸線のない内陸部に位置している。都城市的標高は市街地で150m最も高い標高は1,200mで、市の広がりは東西約30.5km、南北約20.4km、周囲約100km、面積は306.70㎢程度である。市の環境は平均気温が夏は26°(最高36°)冬は5°(最低-8°)で、降水量は冬期100mm以下夏期400~600mm程度で、冬は“霧島おろし”という季節風が吹き夏は盆地特有の暑さである。

松原地区遺跡群は大淀川支流の沖水川左岸、鰐塚山地より北へせりだした都城市街地を形成する台地の縁部の標高約150m程に立地し、沖水川左岸の低地水田面との比高差が約10m程ある。周辺には小川をはさんで西へ50~60m程離れたところに祝吉遺跡（昭和56年発掘調査）があり、その他昭和61年度遺跡群細分布調査によって本遺跡の東側に久玉遺跡・白拍子遺跡などがある。また、これらより269号線をはさんで東へ1kmほどの三股町境に、島津家発祥の地とされる「祝吉御所跡」がある。これらのことから、沖水川左岸沿いの台地縁部はかなり広い範囲にわたり中世から近世にかけての遺跡が分布しているようである。



Fig.2 松原地区遗迹分布图 (1/25,000)

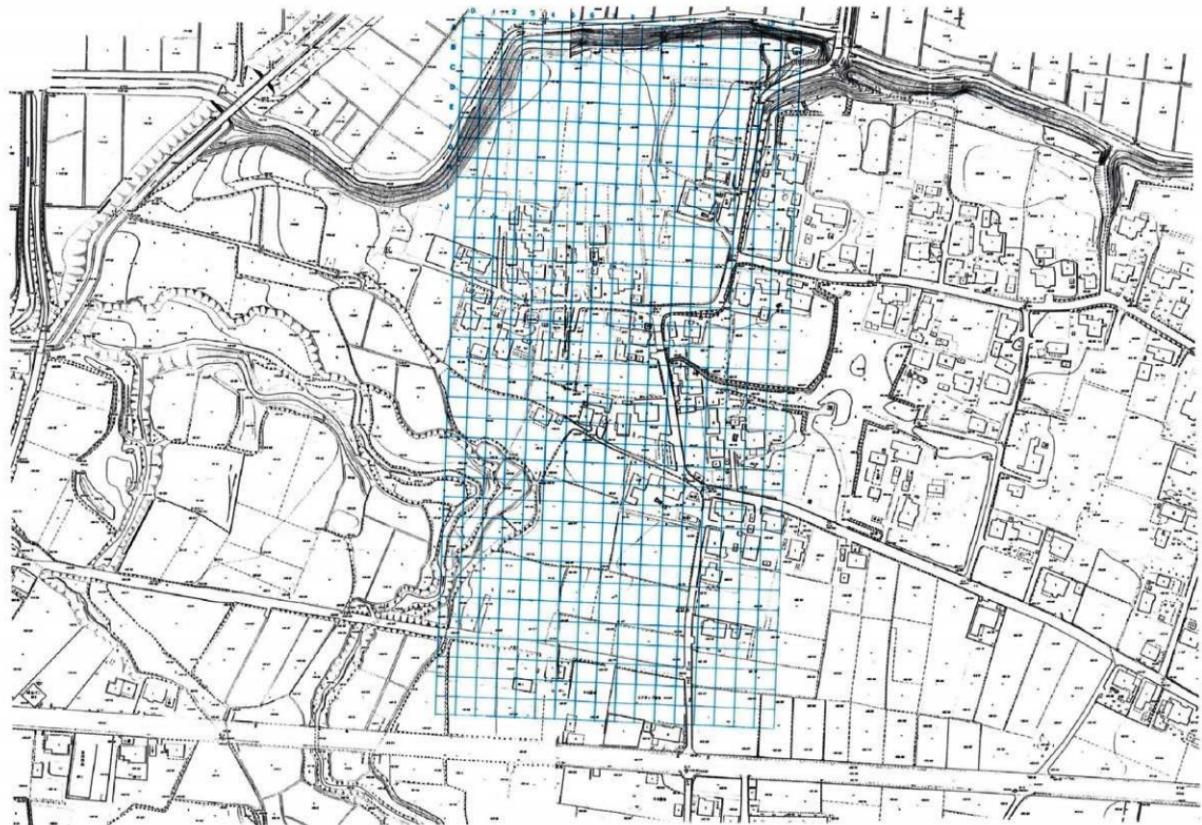


Fig1 松原地区第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡調査区グリッド図 (1/2000)

## 2. 都城市内の主要遺跡

先ず、都城市内の史跡関係の指定文化財をみると、国指定の史跡に今町一里塚、天然記念物に閑之尾の甌穴、県指定の史跡に尾平野（二俣）洞窟、都城古墳、志和池古墳、沖水古墳、祝吉御所跡があり、市指定の史跡では都城（鶴丸城）跡、志和池跡、安永（鶴翼城）跡、野々美谷城跡、平田かくれ念佛洞、五十市式縄文土器等があり、古墳時代と中・近世が中心となっている。

ところで、都城市内の遺跡の把握については昭和61年度より4ヶ年計画で市内全域の詳細な分布調査を実施しているところであるが、2ヶ年終了時点で遺跡数は179に上っており全域では相当の遺跡数に達すると考えられる。また、都城盆地では通称御池ボラ（降下軽石）が1～2mの厚さに堆積しているため縄文時代中期以前の遺跡は表面調査だけでは発見しづらいようである。

次に、市の遺跡発掘調査をみると、昭和12年に小林行雄によって尾平野（二俣）洞窟の調査が行われ縄文時代後・晩期の土器や獸骨等が出土し紹介されている。この洞窟は市内南東部に横たわる鶴塚山地のほぼ中央に位置し、洞窟眼下拾米程に安楽川が西流している。この山麓には他に押型文や貝殻文系の早期の土器も出土している。昭和32年九州縦貫自動車道に伴い県教育委員会によって丸谷第1・2遺跡が発掘され、弥生時代終末の住居址が2基出土している。これが市内における最初の発掘調査である。昭和37年国道269号線の道路拡幅工事の際、アカホヤ層下の黒色土層内より器面全体に斜縄文を施した円筒型土器（いわゆる五十市式土器）が出土し縄文時代早期の遺跡まで確認された。また、当遺跡は昭和62年度遺跡詳細分布調査において試掘確認調査を実施したが、遺構・遺物は確認されず遺跡の中心は既に破壊されているようである。同じく、県教育委員会によって昭和39年に発掘された弥生時代後期の方形周溝墓（？）や竪穴住居址等が出土した年見川遺跡がある。また、市内の4か所に古墳（高塚墳・地下式横穴）が群集している。牧ノ原地下式横穴群は昭和41年県教育委員会が発掘調査したもので、遺跡は市街地を形成している台地に沿って西と東からそれぞれ流れこむ横市川と沖水川が合流する同台地縁部に立地し、地下式横穴25基が出土している。他、庄内・菓子野古墳群や志和池古墳群も昭和48年より隨時地下式横穴の発掘調査を実施しており、この3地域の地下式横穴より各々蛇行剣が一振ずつ出土している特色がある。

（矢部）

注1) 『宮崎県北諸県郡中郷村二俣尾平野洞窟住居址』「考古学」第8巻5号1937

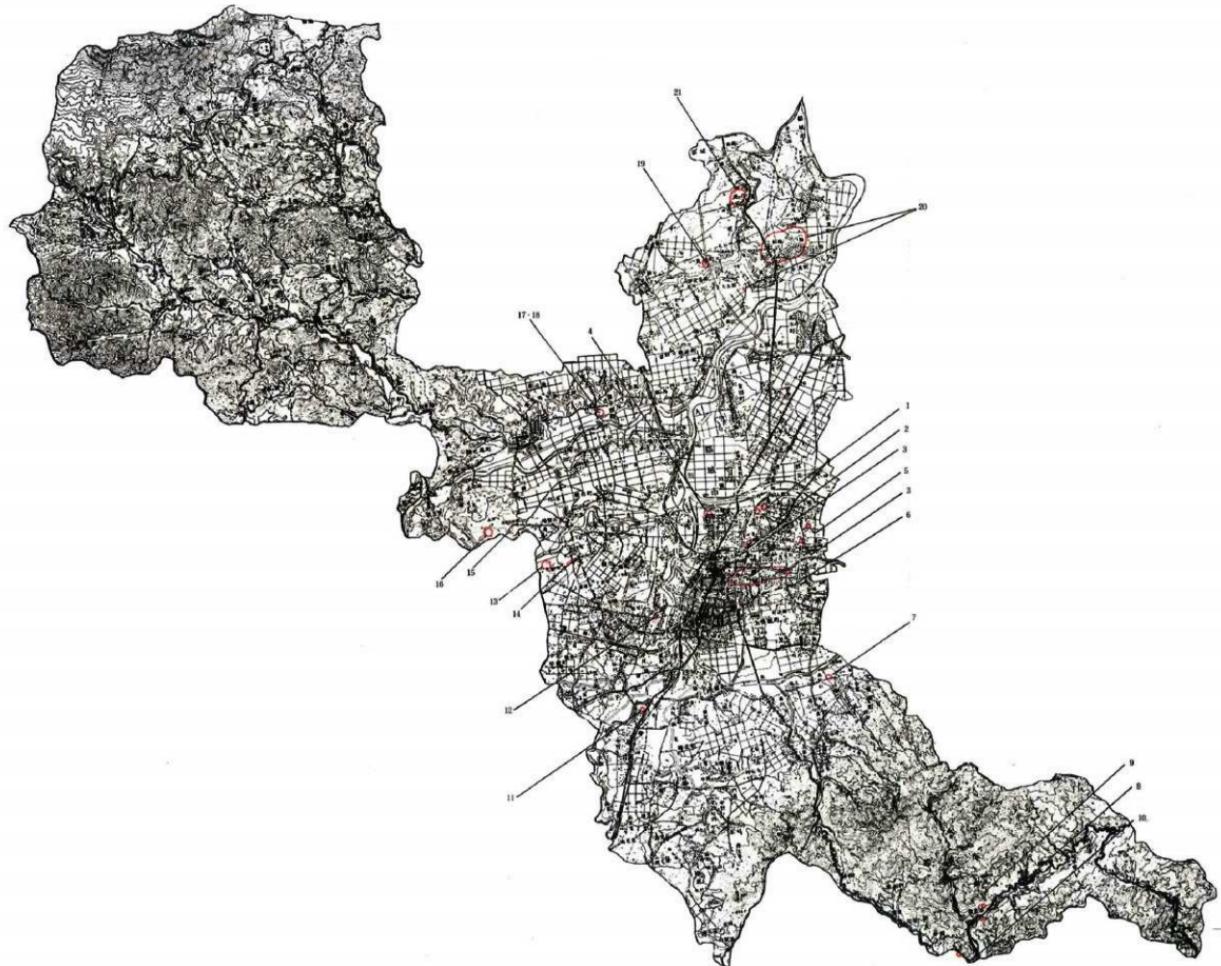
注2) 『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』(3)

注3) 『宮崎県の考古学』石川恒太郎1968

注4) 『地下式横穴の研究』石川恒太郎1973

番号	遺跡名	所在地	時代	備考
1	松原地区遺跡	都城市郡元町字松原	繩文(晩) 中世～近世	昭和60・61年発掘
2	祝吉遺跡	都城市郡元町字祝吉	弥生(末)～古墳(初)	昭和55・57年発掘
3	沖水古墳	都城市早水町3886の1	古墳	
4	牧ノ原地下式横穴群	都城市川東4丁目字牧ノ原	古墳	昭和41年発掘
5	祝吉御所跡	都城市郡元町3420	鎌倉(中世)	県指定
6	年見川遺跡	都城市年見町	弥生・古墳	昭和39年発掘
7	成山遺跡	都城市豊満町字成山	繩文(後)	昭和43・47年発掘
8	尾平野洞窟	都城市安久町字下尾平野	繩文(後・晩)	県指定
9	下尾平野第2遺跡	都城市安久町字下尾平野	繩文(早)	平席式・押型文
10	安久・中原遺跡	都城市安久町字中原	繩文(早)	昭和61年試掘調査
11	宮尾・立野遺跡	都城市今町字宮尾・立野	繩文(早)	五十市式繩文土器
12	都城古墳	都城市鷹尾1丁目3984番地	古墳	県指定
13	中尾山・馬渡遺跡	都城市薺原町字中尾・馬渡・江内谷	繩文(晩)・弥(中)・古 古墳・中世	昭和61年発掘
14	加治屋遺跡	都城市南横市町字加治屋	弥(末)～古(初)	昭和63年発掘
15	母智丘原遺跡	都城市南横市町6691	弥(中)・平安・中世	昭和63年発掘
16	丸山遺跡	都城市関之尾町字丸山	繩文(早)	昭和49年発掘
17	庄内古墳	都城市菓子野町	古墳	昭和60年指定解除
18	菓子野地下式横穴群	都城市菓子野町	古墳	昭和57・59年発掘
19	丸谷第1遺跡	都城市丸谷町字榎木原	弥生(後)	昭和32年発掘
20	志和池古墳群	都城市下・上水流町	古墳	県指定
21	堂山遺跡	都城市丸谷町字堂山	繩文・古墳・平安	昭和63年発掘
22				
23				

表1 都市の主要遺跡地名表



### III. 層序

松原第I遺跡は、沖水川左岸の都城市街地を形成している台地の北側最縁部の標高約148m程に位置している。この台地と沖水川両岸にひろがる沖積低地（氾濫原）との比高差は8~10m程であり、遺跡は東から西へ、また北側崖にむかって緩やかに傾斜している。

当遺跡の基本土層層序は次のとおりである。

第I層：耕作土 灰黒色砂質土層

調査区内で約20~30cmの厚さである。

第II層：灰白色降下火山軽石層（通称：白ボラ）

桜島を起源とする文明期(1469~1487)

の降下火山軽石 Hue7.5Y18/2

自然堆積では中央部から東側地区で5  
~10cmのブロック状で部分的に存在す  
る。

第III層：暗黒褐色弱粘質砂質土層（遺物包含層）

西側地区で約20cm前後を測り東に進むに

つれ30~40cmと厚くなる。Hue10YR3/1

第IV層：暗黄褐色降下軽石層（通称：御池ボラ）

霧島火山系噴出の軽石で粒子径は1~2cm

で厚さは1m程である。Hue2.5YR8/8

第V層：漆黒粘質腐植シルト層 厚さ20cm

Hue7.5YR1.7/1

第VI層：黄褐色ガラス質火山灰層

（通称：アカホヤ）厚さ30cm

Hue10YR3/1

第VII層：灰黒色弱粘質細粒腐植土層 厚さ10cm

Hue10YR3/1

第VIII層：黒褐色硬質バミス混土層（通称：カシワバン）

（矢部）



PL 1 松原第I遺跡土層断面

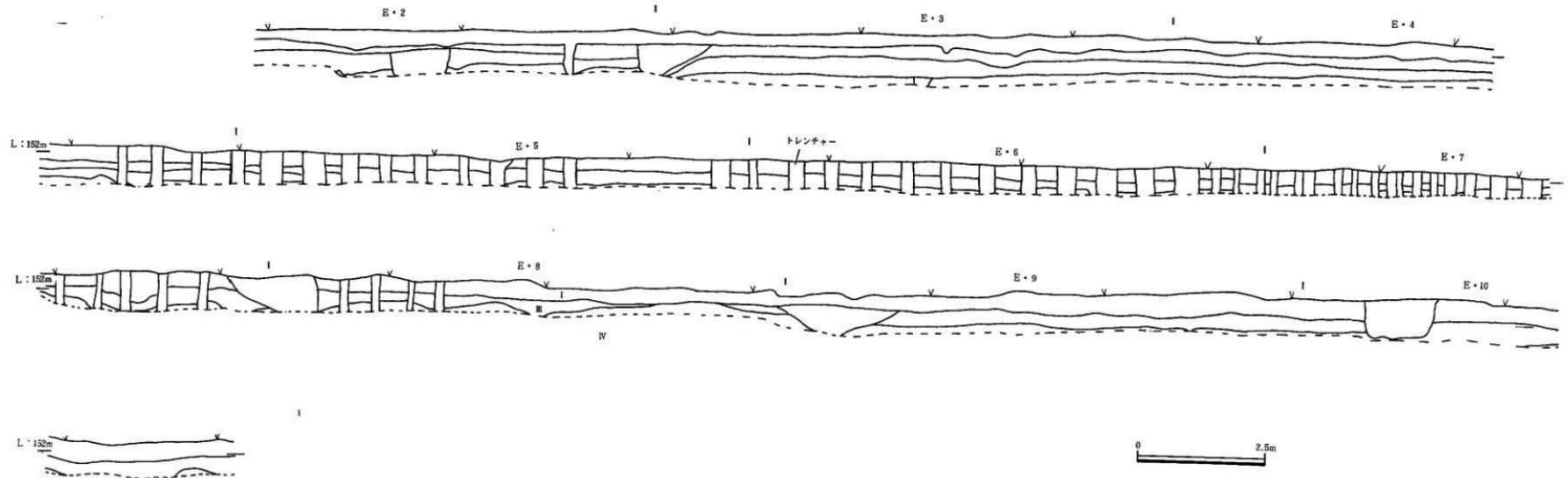


Fig 4 松原第I遺跡東西方向土壠断面図

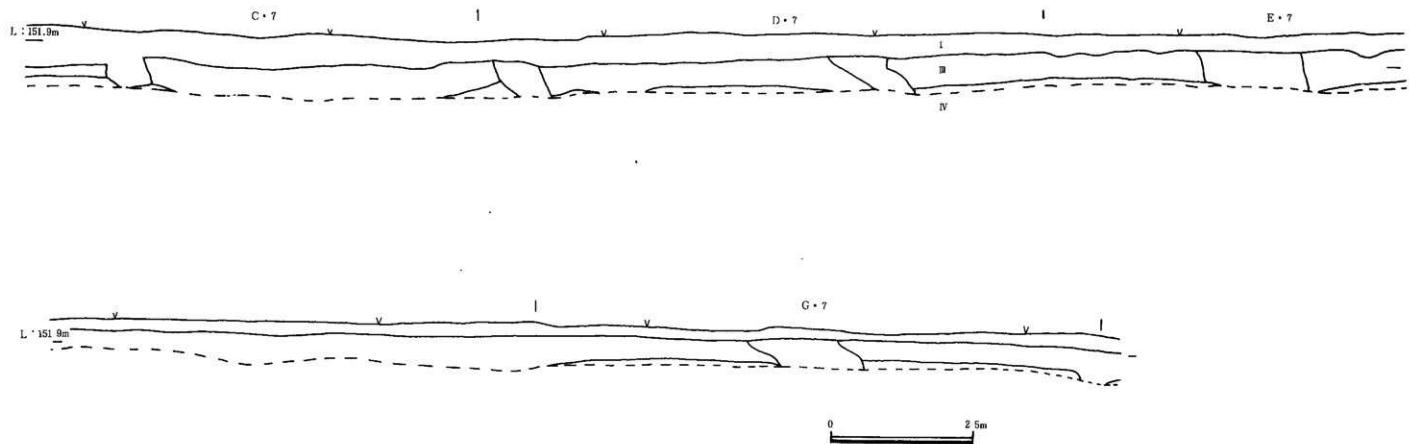


Fig5 松原第I道跡南北方向土壤断面圖

## IV. 調査の調査

松原地区遺跡群は、松原地区第Ⅰ遺跡・同第Ⅱ遺跡・同第Ⅲ遺跡と細分されるが、基本的に松原第Ⅰ遺跡と第Ⅲ遺跡は造構に繋がりがあることから同一の遺跡としてとらえることができる。発掘調査が昭和60年・昭和61年と2回実施されているため、便宜上分けて取扱うこととする。

松原地区第Ⅰ遺跡の本調査は昭和60年7月15日から12月6日まで、松原地区第Ⅱ遺跡の本調査を昭和60年11月2日から11月14日まで実施した。調査はグリッド方法による10×10mのメッシュに分割し、またメッシュはN・S線に一致している。松原地区第Ⅰ遺跡は西から東に向かって(Fig 1の左から右に) 0~12まで、北から南に(Fig 1の上から下に) A~Gの記号を付し、A・1, B・1, . . . . , G・12と呼称した。

遺跡の現状は畠地であったため、調査区内の農作物の補償や代替地の選定を区画整理課がおこなったのち調査にはいった。先ず、試掘調査により遺構確認面(御池ボラ層)まで浅いところで20cm、深いところで80cmを測った。遺物は遺構検出レベルより上位から出土し始めているが、第Ⅰ層(耕作土)からの出土はほとんどなかったため地表より約20~25cm(耕作土)は重機により削平した。また、6区と7区の南北グリッド線とE区とF区の東西グリッド線を十文字に1m幅の土層観察用の畦を残した。表土剥ぎ・手掘り作業は、調査区中央の6・7区から東進し東側終了後西側にはいった。排土は調査区外に搬出することができないため周囲に積み上げていった。結果、最終的に遺跡を全掘することができなかつた。

造構の検出状況は、7区で南北に走行する2条の溝状造構を検出し8区では第3層で幅4m程の自然疊(焼け石)や錆滓等を含んだ第2層の落ち込みが南北方向に延びていた。造構の性格が不明だったのでE・8区とF・8区、F・8区とG・8区のセクションに1m幅のトレンチを設けたところ深さ2m20cm程の大溝であり、H・7区で西に屈曲していることもわかった。北東調査区では7条の溝状造構が東西に錯綜し、他掘立柱建物跡1棟、井戸遺構1基、特殊土壙を確認した。南東区では切り合っているかなりの数のピット、竪穴遺構3基、井戸遺構3基が検出された。西側の大溝に囲まれた調査区では、掘立柱建物跡が数棟、井戸遺構2基、溝状遺構5条、土壤32基が出土した。これらの遺構は、遺物・埋土・切り合い等によりおおよそ3時期に区分できると思われる。

(矢部)

## V. 遺構・遺物

### 1. 繩文時代の遺物

縄文時代の遺物は、C・9区第Ⅲ層より出土した1点のみである。001は、鉢形土器の口縁部から胴上部の破片で推定口径10.8cmを測る。胴部から頸部にかけて反りぎみに立ち上がり頭部で弱く「く」の字に屈折し、口縁部はやや内湾ぎみに立ち上がる。口唇部はフラットで口縁部に6条、内面頭部にやや太い1条の回線を施している。口縁部内外面は横方向の丁寧なナデ、頸部下の内外面では研磨されている。また、外面にはススの付着がみられる。

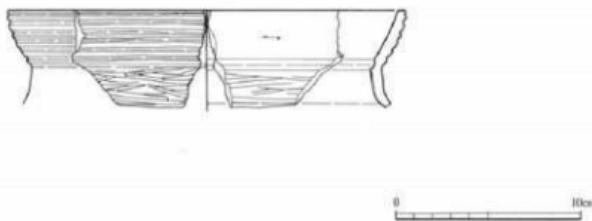
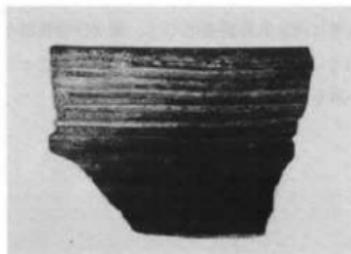


Fig6 松原第I遺跡出土縄文土器 (1/3)



P.L. 2 松原第I遺跡出土縄文土器

## 2. 中世・近世の遺構・遺物

### (1) 大溝(空掘)

当遺跡の主体をなす遺構である。8・9区をほぼ南北に走り、H・7区で西に屈曲しH・2～7区を西方に延びている。遺構は堆土を周囲に積み上げたり家屋の関係で全掘することができなかった。北側はA・9区において台地縁である崖に達し、H・2～6区は堆土や家屋等によってトレチ法により大溝の走行を確認するのみに終った。さらにH・2区で大溝は西と南方向に分岐し、西方向に延びる方は同じく西側台地縁の崖に達するようで、他方は民家によって調査できずその後の方向はつかめていない。つまりこの大溝遺構は南北約70m、東西約80mの「L」型をなし、自然地形である北・西側崖(標高差約10m)を利用し方形(平行四辺形)に空間を区画している。この区画された面積は5,600 m<sup>2</sup>と推定される。

遺構は一部第III層において落ち込みラインを確認することができるが、全体的な検出面は第IV層の御池ボラ層である。遺構は検出レベルにおいて幅380～440cm、深さ200～220cmを測り北側及び西側にいくほど浅くなっている。また、大溝の床面は第IV層、第V層の漆黒粘質土を貫いて、第VI層のアカホヤ層まで達している。検出面からの落ち込み傾斜角は約45°であり、形状は基本的に断面逆フラスコ型であるが、三角形を呈しているところもある。

D・8～9区、E・8区、F・8区において、ボラ層の両傾斜壁に方形や橢円形の断面「L」字型の落ち込みがある。D・8区Fig 7 No.2は長さ約330cm、幅50cm、奥行き50cmの細長い方形プランである。E・8区 Fig 7 No.8は長さ120cm、幅65cm、奥行き60cmの橢円形プランである。これらがボラ壁の自然的な崩壊でないことは奥行きの深さと断面がほぼ垂直に立ち上がることなどからうかがえ、例えば、昇降用などの何らか機能をもっていたと考えられる。またE・8区 Fig 7 No.3は大溝の東側斜面の落ち込み際に、長さ300cm、幅50cmの長方形に近いプランの両端部に深さ70cm、径50cmのピットを含む掘り込みがある。これは大溝に渡す橋脚穴でないかと思われる。この外側に長さ20m程にピットが並んでおり柵列の存在も考えられる。また、大溝と1号構の間に遺構が存在していないことから土塁が存在した可能性もある。

大溝の埋土は基本的には第I・II・III層であり、これらと斜面から崩壊した御池ボラの混ざり度合によって細分できる。当遺跡の鍵層である第II層の白ボラ(文明期の降下火山灰石)が、溝の最上部から80cm(検出面から上位3分の1)程のところに自然に流れ込むようにレンズ(半円弧)状に堆積している。

遺物は検出面よりやや上位から人頭大から拳大の焼け石を含む自然礫がかなりまとまって白ボラ層まで出土し、他青磁・白磁・染付・陶器・古鏡・石鍋などもほぼ同一レベルより出土し下位にすすむほど遺物の量は減少している。また、最深部からは東播系須恵質の捏鉢が出土し、大溝の存在時期の下限を知る資料となっている。

## 大溝内出土遺物

### 青 磁

#### 碗

002 は口縁部の破片で復元口径14.8cmを測る。内面体部に画花文を有し、明緑色の釉で胎土は暗灰色である。004 は口縁端反りで復元口径は 8.8cmを計る。内面体部に印花文を施している。釉は淡緑灰色で胎土は濁灰色である。005 は内面体部に画花文を施す。釉は明茶緑色で胎土は濁灰色である。006 も内部体面に画花文を有する破片で、釉は淡緑色で胎土は灰色である。007 は蓮弁文が施され、内外面とも二次的焼成を受け器表に細かい凹凸がある。釉は青緑色で胎土は濁灰色である。008 はヘラ描きによる蓮弁を有している。釉は明茶緑色で胎土は灰色である。009・010は端反り口縁、009 は復元口径17.4cm、釉は淡緑色で胎土は暗灰色で貫入がある。010 は復元口径15.6cm、釉は暗茶緑色で胎土は暗灰色である。011 は復元口径12.2cm、線描による蓮弁が施される。

#### 皿

003 は復元口径 9.4 cmで釉は淡緑灰色で胎土は灰色である。

012 は復元口径31.6cmで、口縁は稜花をなし見込みは折枝花文が施されている。高台内部に砂の付着が見られる。釉は二次的焼成を受け、大部分黄緑色に変色し細かい気泡痕の凹凸がある。胎土は灰色で高台疊付まで施釉され高台内は釉がかき落とされている。器全体に貫入がある。

### 白 磁

#### 碗

018・020・021はいずれも玉縁の口縁片である。018は淡白色の釉で胎土は淡灰色である。020 は胎土が灰白色で濁白色の釉が外部体面上位までわりと厚く施釉されている。

021 は釉が淡灰白色で、胎土は灰色である。

019 は体部中位でやや屈曲し立ち上がっており、体部外部の下位に弧状の浮文を有する。釉は灰緑色で、器壁は薄く、胎土は灰色である。

022～024は底部の破片で、022は復元口径が3.5cmで、高台は削り出しが荒い。体部から底部は無釉である。

023は復元口径が6.4cmで、内面体部下位に沈線上の段を有する。体部から底部は無釉である。

024は復元口径が3.8cmで、内面見込みは蛇ノ目に釉がかきとられている。外部体面下位まで施釉されている。

### 染 付

025(H・3区)は伊万里天目釉(内面は透明釉)碗である。外面体部下位まで施釉され、高台

は無釉である。

026(I・7区)は内部体面に山水文様を施した伊万里染付皿である。復元底径は5.5cmである。

028(F・8区、E・8区)は復元底径10.7cmで、内面体部にボタン花文様を施した伊万里(有田窯系)染付碗である。

029(I・7区)は伊万里染付碗蓋である。外面に松竹文様を施し、口縁は無釉である。口径10.2cm、器高3.6cmである。

#### 備 前

##### 擂鉢

038は復元口径26.0cmを測り、7条の沈線を一組とした櫛目が推定7組ある。擂鉢面は斜めの刷毛目(条痕)、口縁部は内外とも横ナデが施されている。器壁は外面体部で巻き上げ成形による凹凸がみられ、胎土は5mm大前後の砂粒をかなり含んでいる。外部から口縁部にかけて、ススの付着がみられる。

039は038同様、口縁部が肥厚せず立ち上がる口縁部の破片で内面は条痕が施されている。胎土に砂粒を含み色調は明灰色である。

040は復元口径28.6cm、器高11.8cm、復元底径14.4cmを測る。口縁部はつまみ出しの荒い突帯(断面三角形)を形成している。内外面とも横ナデが施され、内面はそのあと8条の沈線を一組とした櫛目が下から上へと掘り込まれている。器壁には胎土に砂粒を含むため、小さなヒビ(破裂痕)がはいり、色調は灰緑色を呈す。

041は復元口径29.0cm、器高11.0cm、復元底径6.7cmである。口縁部はつまみ出しのしっかりとした断面四角形の突帯を成している。内面は丁寧な横ナデ後、6条の沈線一組の櫛目を下から上へ施している。胎土に2mm大前後の砂粒を多く含む。色調は灰褐色である。

042も白ボラ層内出土で、口縁部は荒いつくり出しの突帯を形成し、内外面とも横方向のナデ仕上げである。胎土に1mm~10mmの大の砂粒を含む。色調は灰色である。

043は復元口径37.8cmの大形の擂鉢である。口縁部直下に断面台形の突帯を廻し、口縁部は垂直に立ち上がる。内外面とも横方向のナデ仕上げで器壁はわりと薄い。色調は赤褐色を呈す。

044は口縁部で口縁直下に断面三角形の突帯を廻り、口縁は垂直に立ち上がる。内外面とも横方向のナデ仕上げで、色調は赤褐色である。

045・046・047は胴部片である。045は外面にススの付着がみられる。046は白ボラ層内出土で内外とも横方向のナデ仕上げがされ、色調は灰色である。

##### 東播系須恵質捏鉢

048はF・8区大溝の最深部より出土していることから大溝の存在時期の下限を考えるうえで重要な遺物である。復元口径は32.0cmで、底部は欠損し不明で、ながらかに立ち上がり口縁部は折り返し断面が三角形に肥厚している。胴部は内外ともナデ仕上げであるが、口縁肥厚面

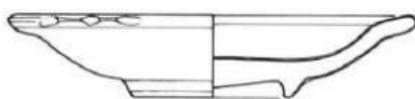


Fig 8 松原第 I 遺跡大溝内出土遺物-1 (1/3)



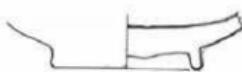
013



014



015



016



017



018



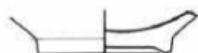
019



020



021



022



023



024



Fig9 松原第I遺跡大溝内出土遺物-2 (1/3)

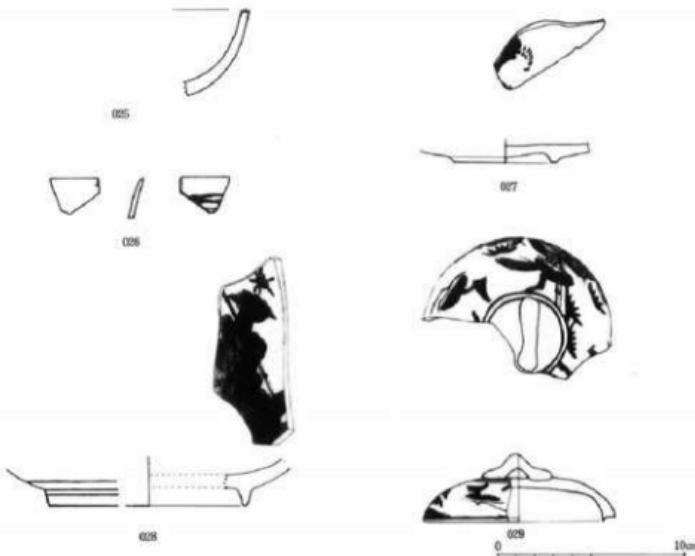


Fig 10 松原第1遺跡大溝内出土遺物-3 (1/3)

のみ無調整である。胎土にかなり砂粒を含むため、焼成時の破裂痕があり器壁は薄いが凹凸がある。色調は青灰色である。

049 も口縁部が断面三角形に肥厚し、内外面とも横方向のナデ調整があり、焼成は堅緻である。

050 は口縁部が「く」字型に折れ、内面は純い棱線を描き、直線的に立ち上がる。内外面とも横ナデ仕上げで焼成は堅緻である。

#### 常滑

##### 甕

030 は底部直上の体部破片である。器壁は凹凸があり一様の厚さではない。胎土は暗灰茶褐色を呈し、1mm～2mm大の砂粒を含む。体部外面は緑白色の釉が底部直上まで施釉されている。031 は(D-9区)白ボラより出土の体部下位の破片である。体部外面は板目状の施文具でタタキ調整がおこなわれた後、縦方向にナデ消されている。胎土に1mm～5mm大の砂粒を多量に含んでいる。焼成温度が低温だったのか、器表は茶褐色であるが、器内は黒灰色を呈し生焼けの状態である。

033 は口縁直下の肩部破片である。口縁は垂直に近く立ち上がり、体部中位よりやや上位でゆるやかに屈曲すると考えられる。肩部に4、5条と、屈曲部に現存で2条の浅い沈線が廻らされている。体部内外ともナデ調整されている。035 は7条の凹線が施され、(体部)内外とも横方向のナデ調整がある。036 も7条の凹線が施され、内外面ともナデ調整である。

(矢部)

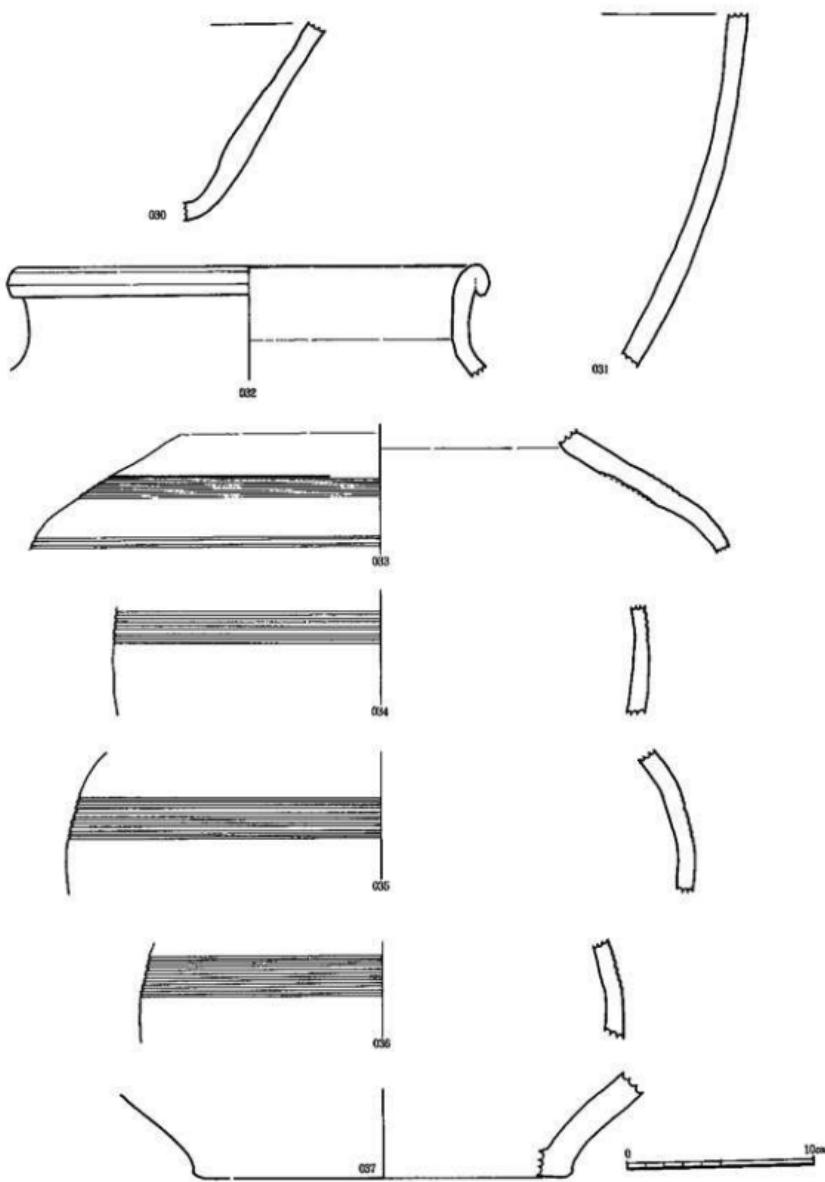


Fig11 松原第I遺跡大溝内出土遺物-4 (1/3)

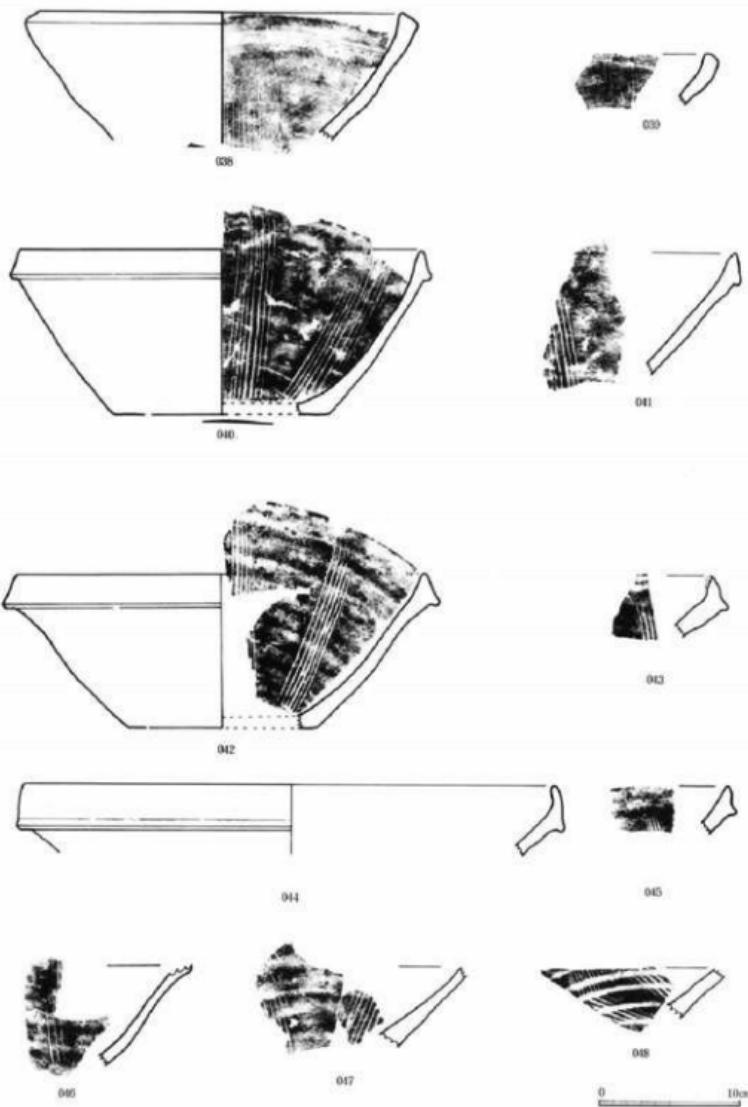


Fig12. 松原第I遺跡大溝内出土遺物—5 (1/4)

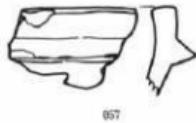
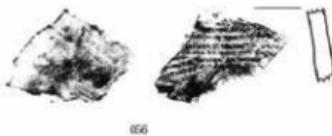
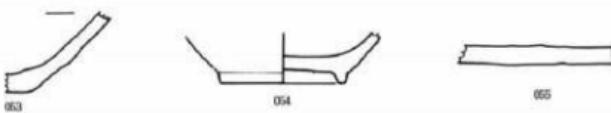
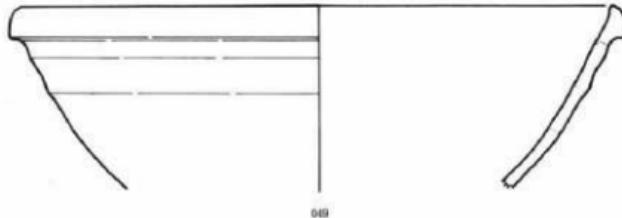
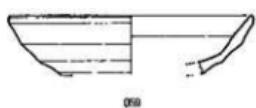
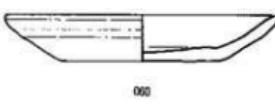


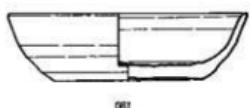
Fig.13 松原第Ⅰ遺跡大溝内出土遺物-6 (1/3)



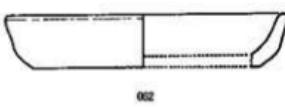
069



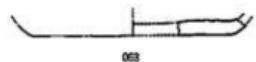
060



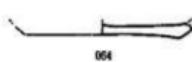
061



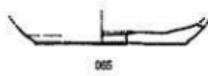
062



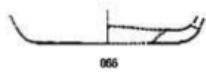
063



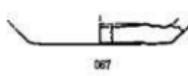
064



065



066



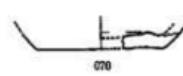
067



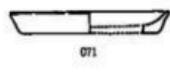
068



069



070



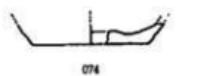
071



072



073



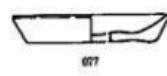
074



075



076



077



Fig 14 松原第1遺跡大溝内出土遺物-7 (1/3)

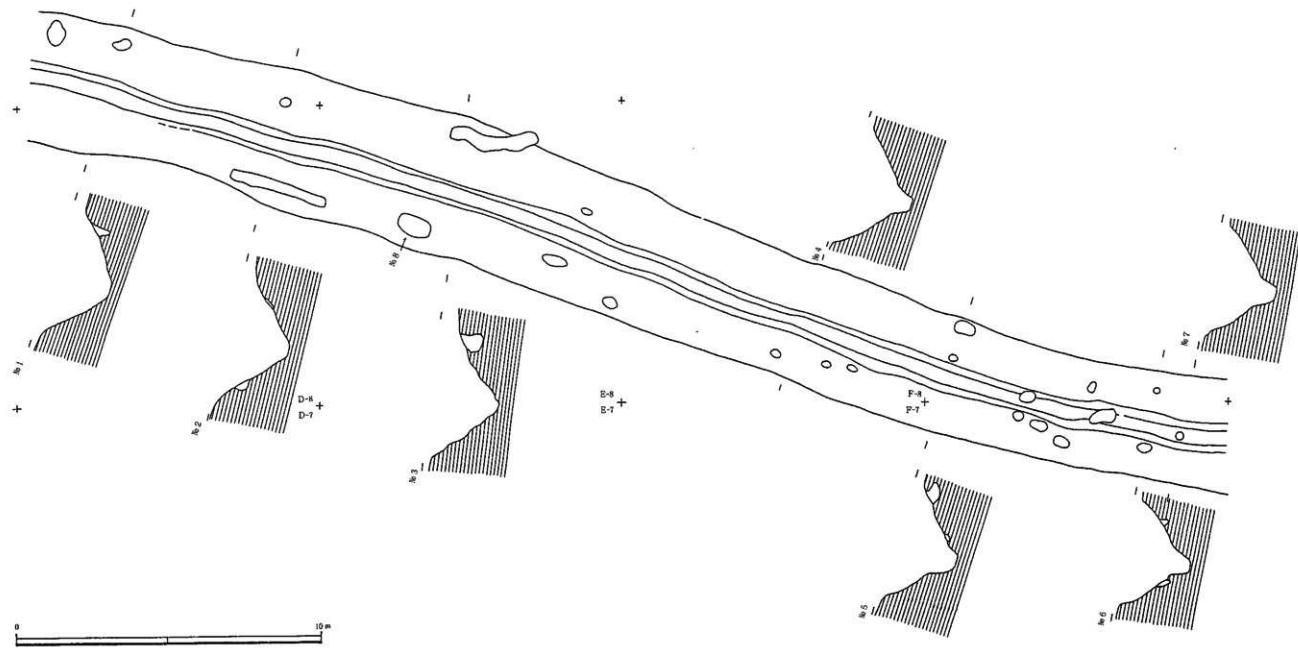


Fig 7 松原地区第1道脉大洞 (1/25)

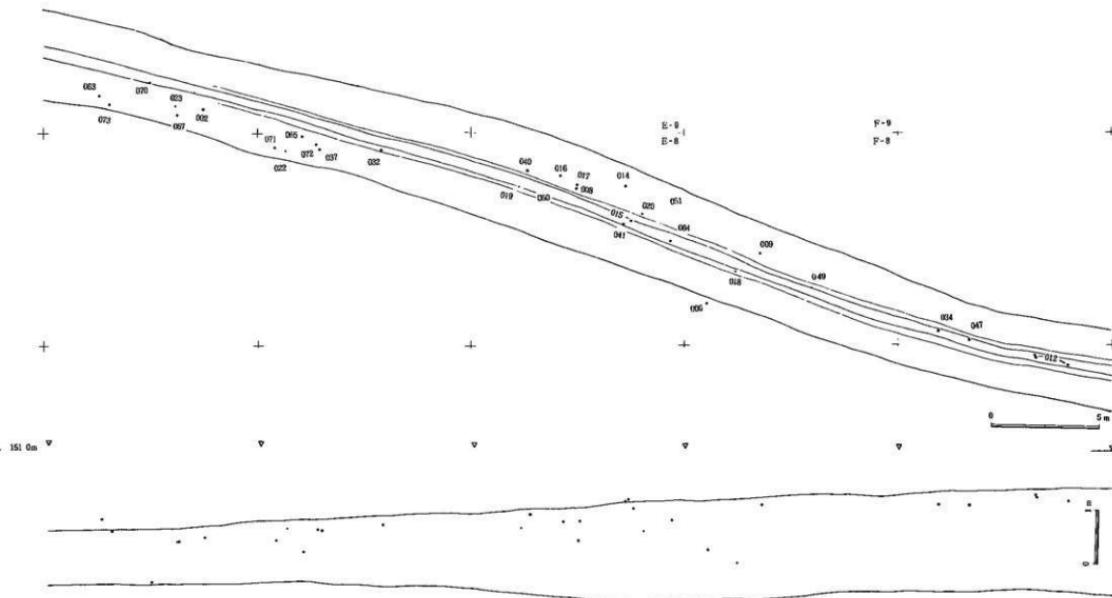


Fig15 松原第 I 遺跡大溝內出土遺物分布狀況圖 (1 / 50)

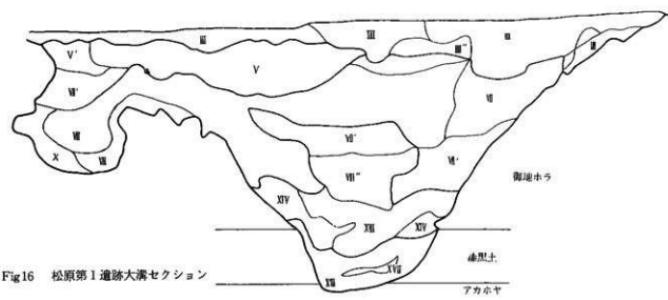
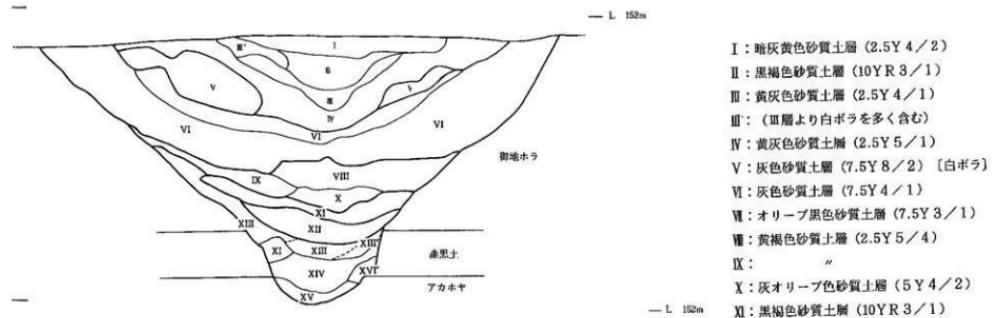
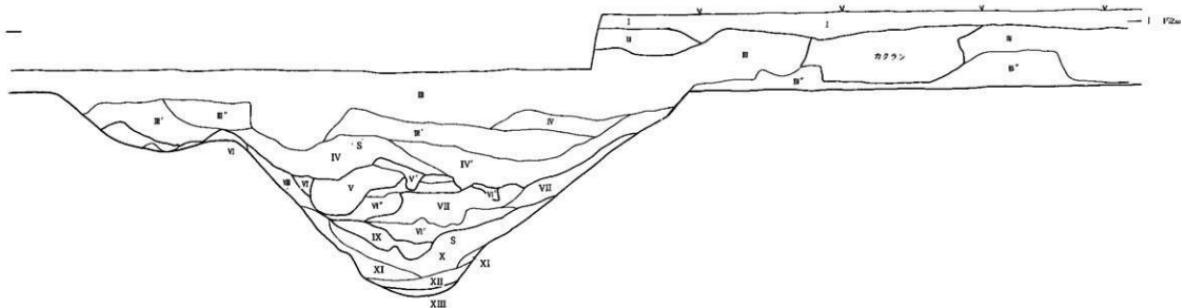


Fig 16 松原第1遺跡大溝セクション

- I : 暗灰黄色砂質土層 (2.5Y 4 / 2)
- II : 黒褐色砂質土層 (10YR 3 / 1)
- III : 黄灰色砂質土層 (2.5Y 4 / 1)
- IV : (III層より白ボラを多く含む)
- V : 黄灰色砂質土層 (2.5Y 5 / 1)
- V : 灰色砂質土層 (7.5Y 8 / 2) [白ボラ]
- VI : 灰色砂質土層 (7.5Y 4 / 1)
- VII : オリーブ黒色砂質土層 (7.5Y 3 / 1)
- VIII : 黄褐色砂質土層 (2.5Y 5 / 4)
- IX : "
- X : 灰オリーブ色砂質土層 (5Y 4 / 2)
- XI : 黑褐色砂質土層 (10YR 3 / 1)
- XII : 黄褐色砂質土層 (2.5Y 5 / 3)
- XIII : 黄橙色砂質土層 (10YR 7 / 4)
- XIV : にじい黄褐色砂質土層 (10YR 7 / 8)
- XV : 浅黄色砂質土層 (2.5Y 7 / 4)
- XVI : 灰黄色砂質土層 (2.5Y 6 / 3)
- XVII : 黄褐色砂質土層 (2.5Y 5 / 3)
- XVIII : 黑褐色砂質土層 (2.5Y 3 / 1)

## (2) 溝状遺構

### 1号溝

1号溝は当遺跡の主体をなす大溝に並行に内走する溝である。大溝とほぼ同じく7・8区を南北に走り北側は自然地形である崖に達し、H・6、7境界で西方に屈曲し、G・1～7区をほぼ直線に西走するものである。当遺構は検出面において幅1.0～1.2m、底幅0.5～0.7mの深さ0.3mである。埋土は第3層の黒褐色土である。また、大溝と1号溝の間は南北の走行方向では約7～8m、東西の走行方向では約5mの間隔がある。この2条の溝によって内区された範囲には同時期の遺構が存在しないことなどから、土壙が築かれていた可能性が考えられる。

出土遺物 078・079は青磁碗で078は口縁にヘラ描きによる雷文帯を体部外縁に蓮弁文を施している。080・081は白磁で080は玉縁口縁、081は端反り口縁である。086～092は土師器の坏で086は完形であるが整形が稚であるため口径・器高に歪みがある。底部は糸切りのち板状の圧痕がある。087・088はヘラ切り底で底部から体部への立ち上がりに若干段を有しやや丸みをもって立ち上がる。092は小皿でやや器肉が厚く底部から丸みをもって急峻に立ち上がる。

### 2号溝

2号溝は6・7区を南北にほぼ直線に走行しC・7区で二叉に分岐し、一方はそのまま北側崖に進み、他方は東で折れて直線的に東進している。D・7区で2条に分岐し東側小溝はD・8区で消失している。2号溝は検出面において幅1.0m、底幅0.5m、深さ0.3～0.5mを測る。また、南側では1号溝を切り大溝を貫き延びている。昭和61年度の発掘調査により2号溝は、I・6区で東へ屈曲し東進している。このことから2号溝は南北約70m、東西（推定）約65～70mの長方形（平方四辺形）を区画する3辺を形成し、東側は現況の道路まで達していると考えられる。この溝と道路によって約4,500～5,000m<sup>2</sup>の面積が区画されている。

出土遺物 093～096は青磁で093・094は推定復元のため口径に疑問が残る。095は体部外縁にヘラによる蓮弁文を施す。097～099は白磁で099は底部に釉が塗布されておらず玉縁の口縁が櫛描文と思われる。100・101はE・7区の溝内上部に敷石状に廃棄されて石内から出土したものである。

### 4号溝

D・9区を南北に走りC・9区で東へ屈曲し、そのまま東方へ延びている。溝の幅は0.8～1.0m、底幅0.2～0.5m、深さ0.2～0.3mで、埋土は第I層の灰黒褐色土である。また、溝内は自然礫が溝に廃棄されるように堆積している。

出土遺物 116・117は青磁小皿・碗で高台内底部中心はケズリ出しによる釉が残っている。123は瓦質の土風炉で体部外縁には線刻による模様が施されている。色調は灰黒色である。124は素焼きの糸切り底の底部片で器形は不明である。

### 3号溝

調査北東区域C・9、10、11、12区を東西に走行し、C・9区で緩やかに右カーブし北に延び崖に達するものと思われる。C・11、12区で溝の北側壁が2段に立ち上がって溝の幅が広くなっている。溝の幅は0.5~0.6m、底幅は0.2~0.3m、深さ0.4m、C・11、12区では幅が1.0m前後、底幅0.4m、深さ0.3mで東へ向かうほど浅くなっている。埋土は第1層の明灰黒褐色土で、C・9、10区においても2号溝を切っている。溝内にはC・9、10区で自然礫がまとまって出土し、他陶磁器片も出土している。

出土遺物 129は青磁碗で見込みに花弁文を有し高台内の底部中心はケズリ出しによる軋が残る。焼成温度が低いため胎土が酸化し色調は黄緑色を呈している。130は口縁が稜花型を呈する小皿である。131は口縁が端反りの白磁碗である。136~138は土師器の坏で推定底径9.0cm、137は推定底径9.6cmを測り体部にはロクロ整形による明瞭な稜が残る。139・140は小皿で140は底部から体部にかけての立ち上がりに段を有し、やや内湾ぎみに立ち上がる。139は底部から体部へ急峻に立ち上がる。140はヘラ切り底139は糸切り底である。

### 5号溝

調査北区域を東西に走行する溝である。検出面において幅0.6m、底幅0.3m、深さ0.2~0.3mを測る。

### 6号溝

調査北区域を5号溝に並行にほぼ東西に走行する溝である。幅0.9~1.0m、底幅0.4~0.6m深さ0.2mで埋土は黒褐色土である。5号溝と同時期頃と考えられる。

### 7号溝

G・9、F・9、E・9区を南北へ延びD・9区で東へ屈曲し、D・11区で大きく蛇行しそのまま東進する。幅1.1~1.3m、深さ0.5mで埋土は第I層の灰黒褐色である。

出土遺物 142・143は青磁碗と小皿で体部内外面に櫛描文を施す。144・145は玉縁口縁の白磁碗である。146~153は伊万里染付で146はいわゆる輸出用の扶桑手の大皿である。149・150は波佐見窯系の染付皿で149は体部内面に割筆による二重網目文様を施し、両方とも見込みは蛇目軸ハギである。154は唐津（内野山窯）の皿で体部外面は透明釉、内面は銅緑釉が塗布されている。

### 8号溝

7号溝と同様にG・9、F・9、E・9区を南北へ延びE・9区で東へ折れ、そのまま東進している。幅0.7m、深さ0.3mで埋土は第I層の灰黒褐色土である。7号溝と時期的には同じか8号溝が若干占いと思われる。

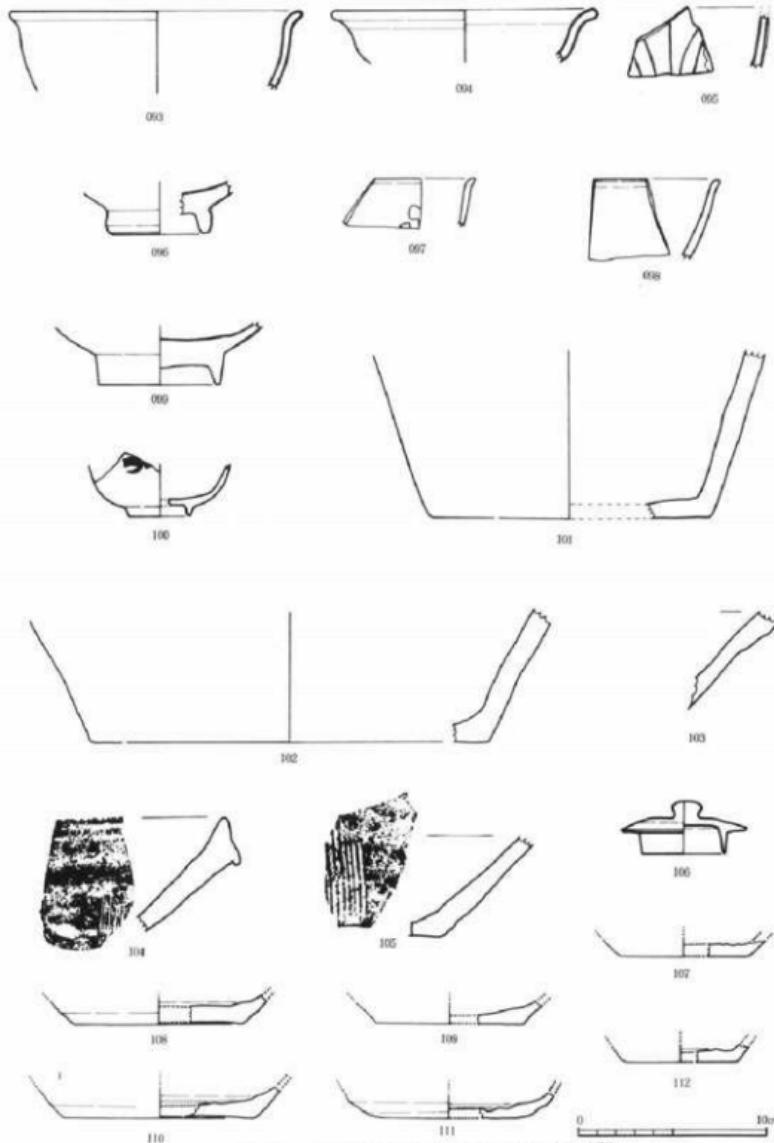


Fig 17 松原第I遗址1号沟内出土遗物 (1/3)

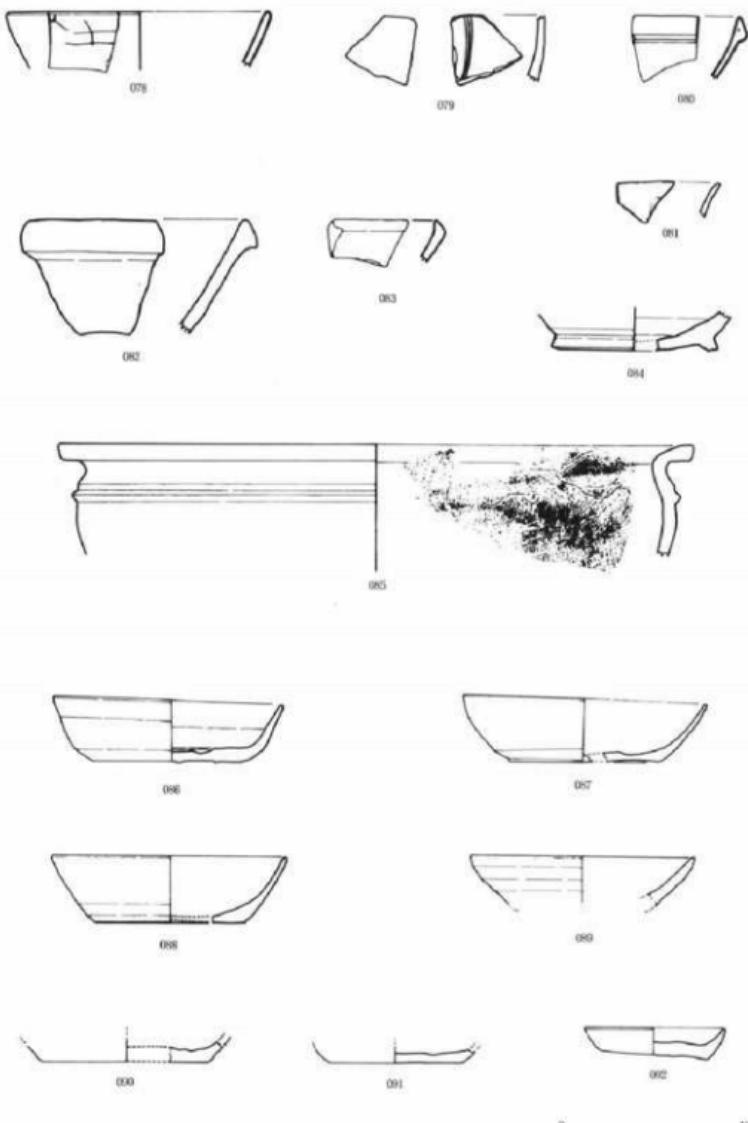


Fig 20 松原第 I 遗踪 2 号溝内出土遺物 (1 / 3)

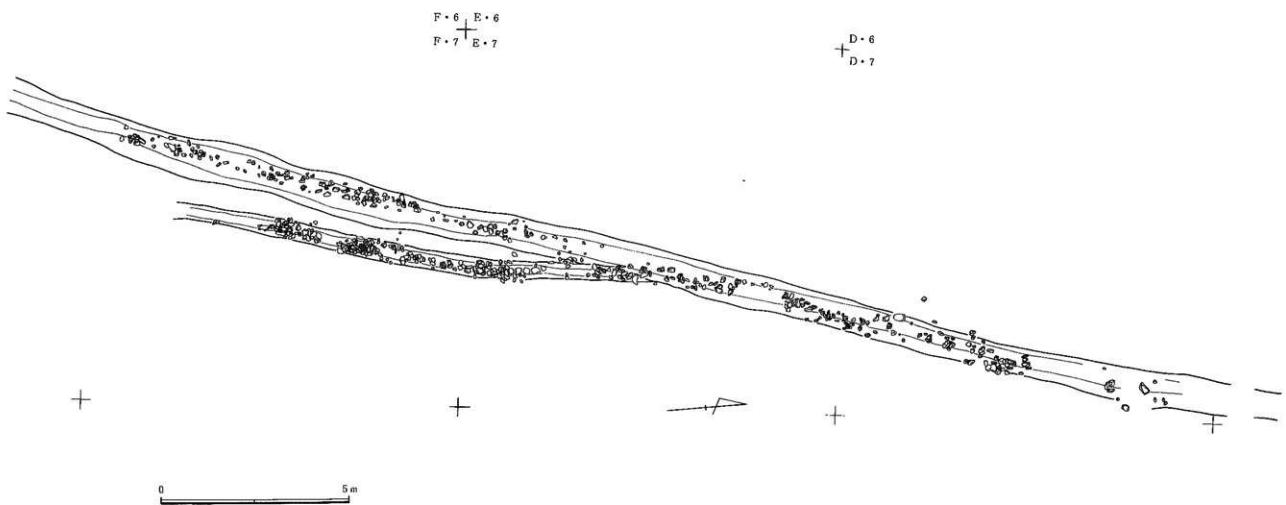


Fig 18 松原第 I 遺跡溝 2 (1/100)

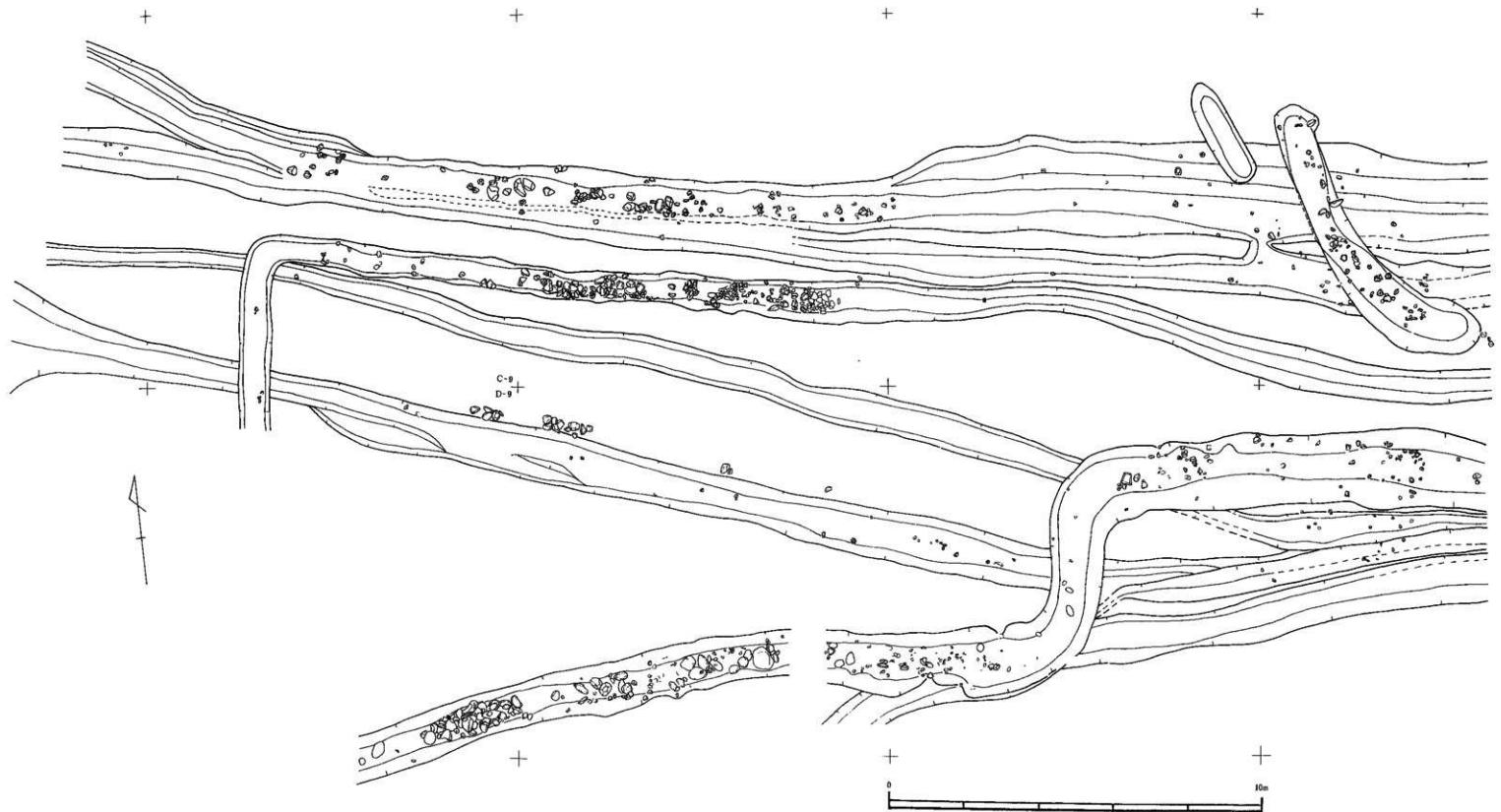


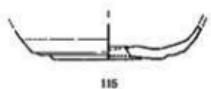
Fig 19 松原第Ⅰ道跡2・3・4・5・6・7号溝 (1/100)



113



114



115

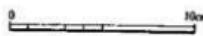


Fig 21 松原第 I 造跡溝 6・13内出土遺物 (1／3)

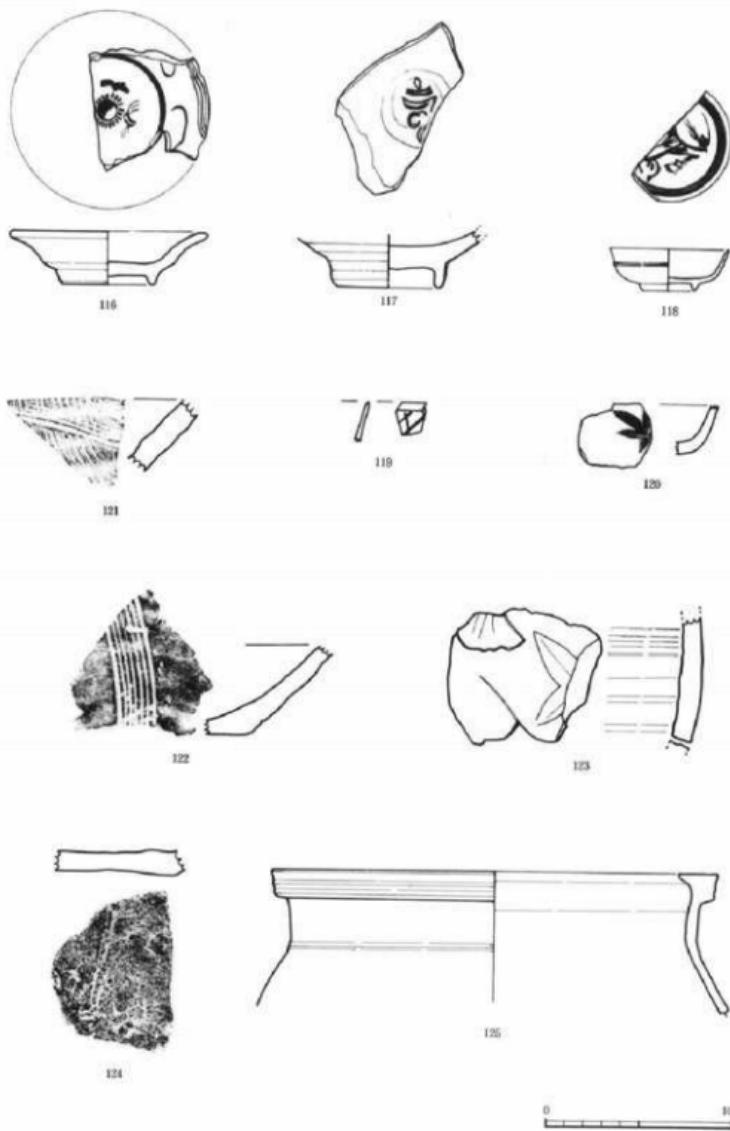


Fig 22 松原第1遺跡4号溝内出土遺物 (1/3)

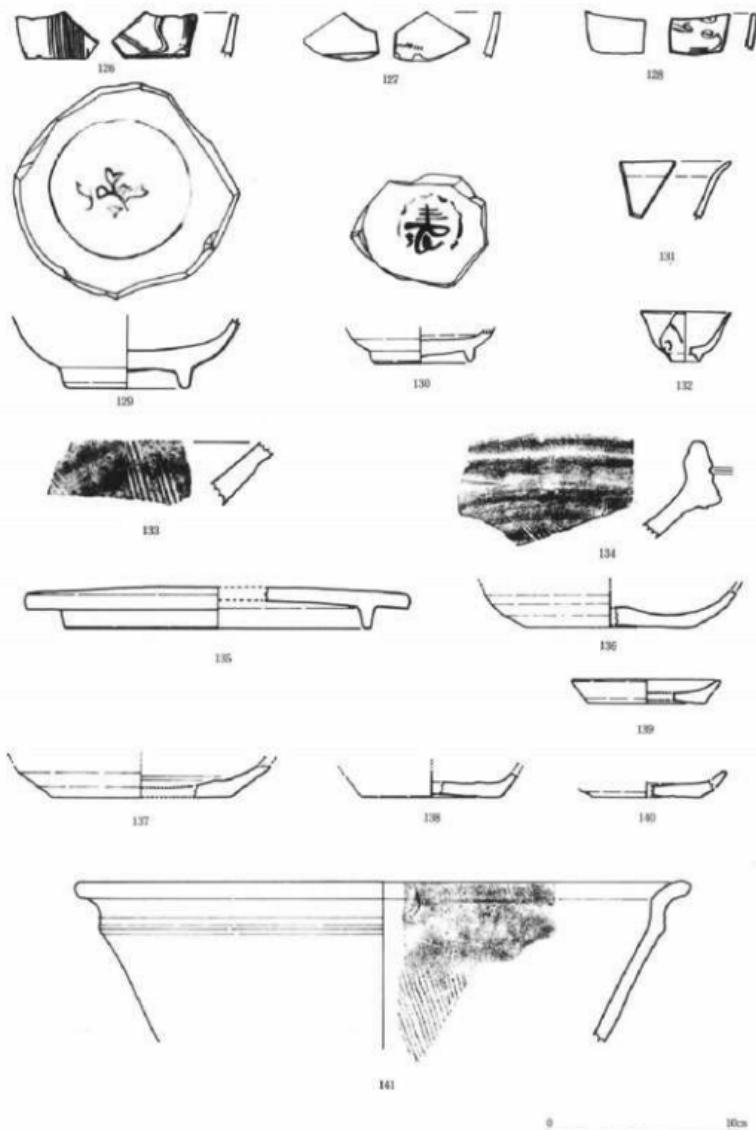


Fig. 23 松原第 1 遺跡 3 号・5 号溝内出土遺物 (1/3)

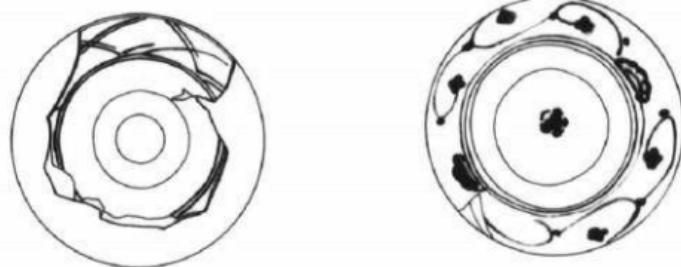
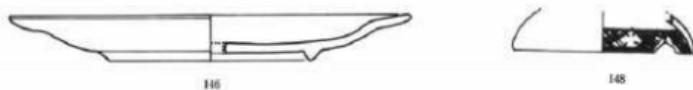


Fig 24 松原第1遺跡7号溝出土遺物-1 (1/3)

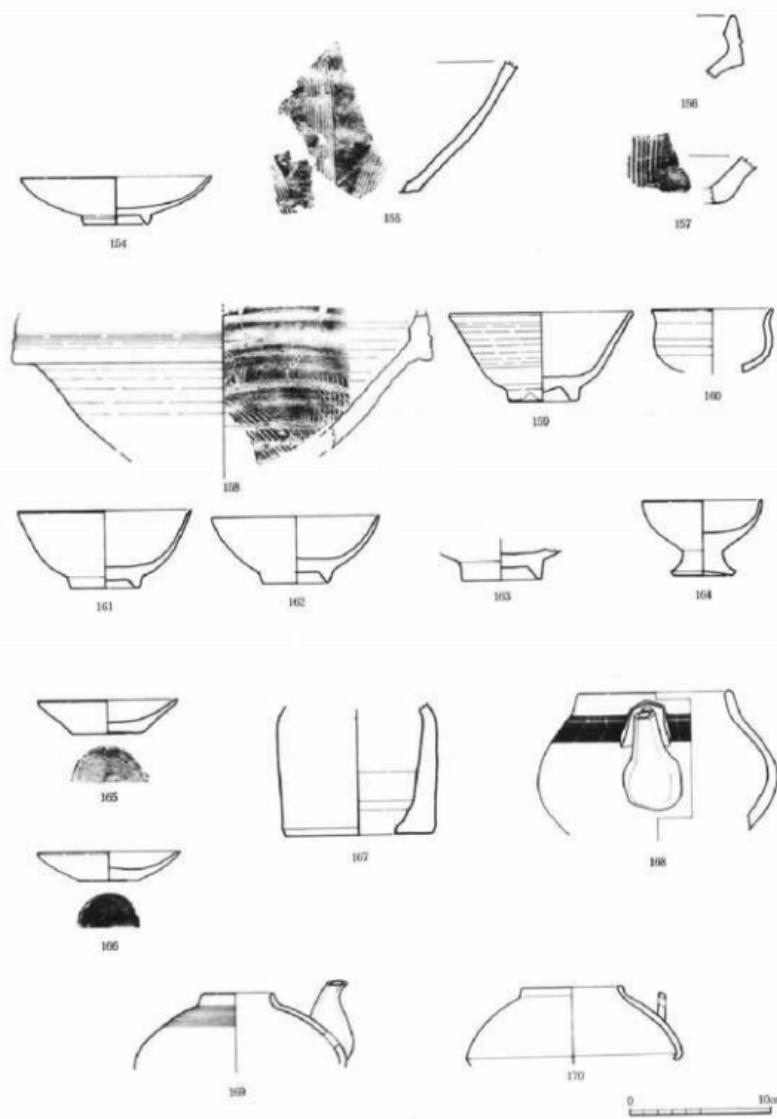
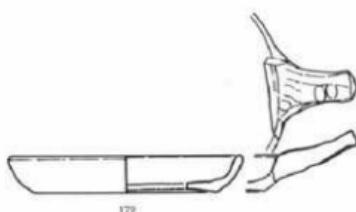


Fig 25 松原第I道路7号溝内出土遺物—2 (1/4)



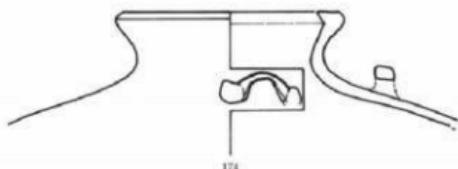
171



172



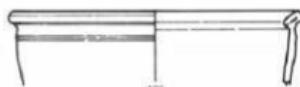
173



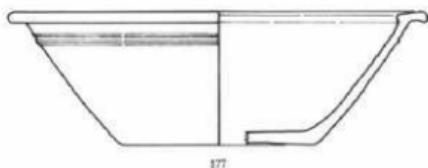
174



175



176



177



178

Fig. 26 松原第1遺跡7号溝内出土遺物-3 (1/4) 0 10cm

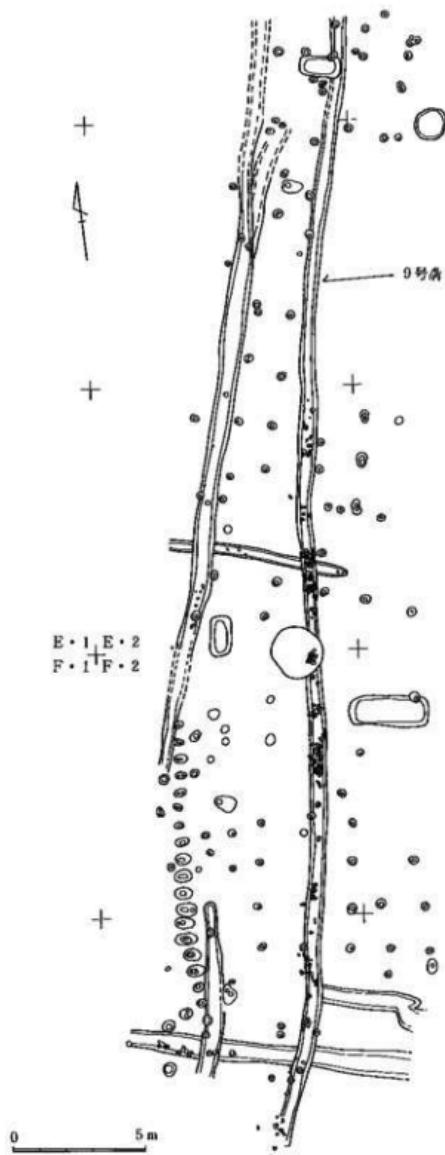


Fig 27 松原第 I 遗址 9 号沟 (1 / 50)

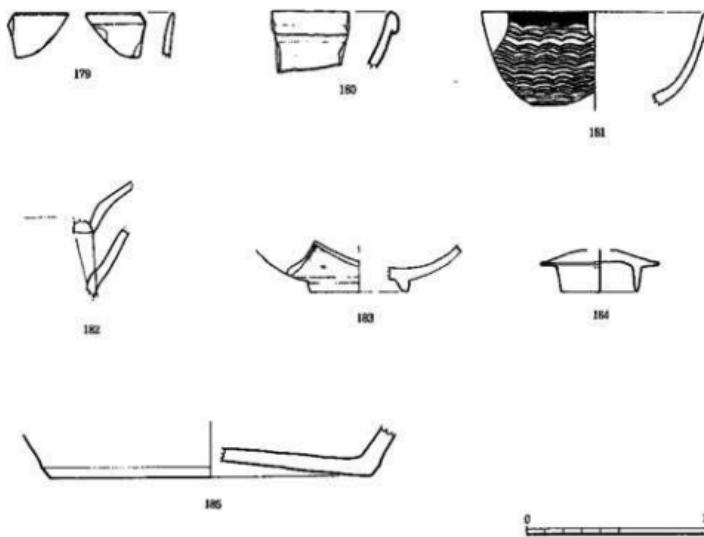


Fig. 28 松原第I遺跡溝8・9・11内出土遺物(1/3)

#### 9号溝

調査区域西G・2区からB, C, D, E, F・2区を北へ走行している。溝幅0.6~0.7m、底幅0.3~0.4m、深さ0.15mで、埋土は明灰黒褐色土である。E・2区からG・2区では頭蓋大から挙大の自然礫が廃棄されるように堆積している。

#### 11号溝

9号溝の西側を南北に走行する溝でF・2区西端で消失している。溝幅0.7~0.8m、底幅0.5~0.6m、深さ0.1mで埋土は明灰黒褐色土である。

#### 13号溝

調査区域西側中央E・2区東端を起点として西方へ走行しており、その後は排土のため推定であるが、直線的に西側崖に達していると思われる。溝幅0.5m、底幅0.3m、深さ0.1~0.4mで、溝の幅が狭く、深い特徴がある。埋土は黒褐色土である。

出土遺物 115は土師器環で底径7.3cmで体部への立ち上がりに回転ヘラ切りによる段を有する。

#### 14号溝

G・3区からG・2区にかけて東西方向に走行し9号溝に合流ないし切られている(時期差は不明)溝幅0.6~1.0m、底幅0.3~0.6m、深さ0.1~0.15mとたいへん浅い。埋土は明灰黒褐色土である。

(矢部)

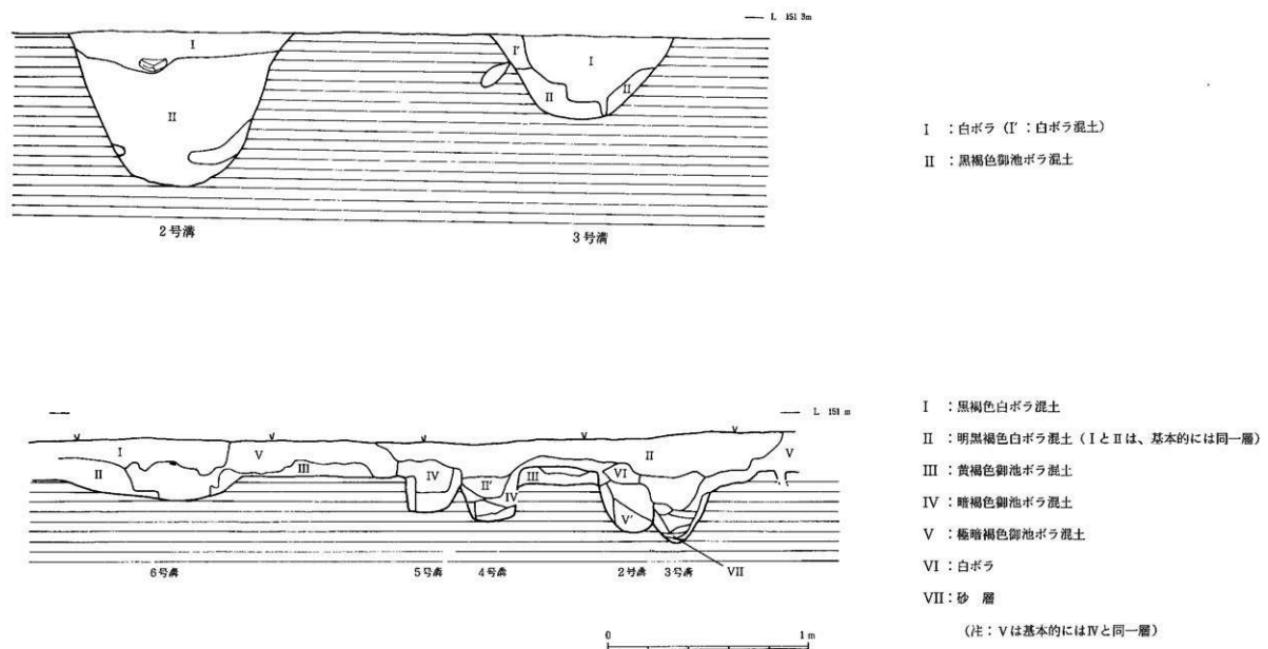


Fig. 29 C + 9区(上)・B + 10区(下)横セクション

### (3) 挖立柱建物

#### (1) 1号掘立柱建物

大溝内のほぼ中央部E・4区で検出され、東西2間、南北3間床張りで東と西と北の三方に庇がつく。方位はN12° Eである。柱間寸法は桁行西側で南より2.4m-2.3m-2.4m、東側で南より2.3m-2.4m-2.4m、梁行西側で南より2.4m-2.3m-2.4m、南妻は中央柱がはっきりせず全長4.3mを測る。底部は東側では柱列より0.9mのところに柱が並び、北から0.7m-2.3m-2.6mで南側柱は不明である。北側でも柱列より0.9mのところに柱が並び、西から1.0m-2.1m-1.95m-1.1mである。東側では柱列より1.0mのところに柱が並び南から2.2m-2.3m-3.3mである。柱穴は大きさが20cm~40cm、深さ30cm~70cmとばらつきがある。pitから土師器片が出土している。

#### (2) 2号掘立柱建物

大溝内の北西C・3区で検出され、桁行3間以上梁行1間の南北棟である。方位はN26° Eである。柱間寸法は桁行が東側柱列で南から2.0m-1.9m-2.0m、梁行が南側で3.2mである。柱穴の大きさは30cm前後、深さ15cm~30cmとばらつきがある。2号井号を覆う形で建物が築かれている。

#### (3) 3号掘立柱建物

大溝内の西側中央C・4区で検出され、桁行2間、梁行1間の南北棟である。方位はN15.5° Eである。柱間寸法は桁行が東側柱列で北から1.8m-1.8m、梁行が南側で3.6mを測る。柱穴の大きさは30cm~40cm、深さ20cm~50cmとばらつきがある。

#### (4) 4号掘立柱建物

3号掘立柱建物の南側に隣接し、5号掘立柱建物の南側柱穴と切り合っている。桁行2間、梁行1間の南北棟である。方位はN21° Eである。柱間寸法は桁行が東側柱列で北から1.9m-2.1m、梁行が南側で3.5mを測る。柱穴の大きさは30cm~40cm、深さ12cm~30cmとばらつきがある。

#### (5) 5号掘立柱建物

4号掘立柱建物の西側に隣接している。2×2間の建物跡である。方位はN13° Eである。柱間寸法は桁行が東側柱列が1.7m-1.8mである。

#### (6) 6号据立柱建物

5号据立柱建物の南側に隣接している。桁行3間、梁行1間の東西棟である。方位は70.5°Wである。柱間寸法は、桁行が南側柱列で東から1.8m-1.6m-1.9m、梁行が東側で3.3mを測る。柱穴の大きさは20cm~30cm、深さ15cm~30cmと幅がある。13号溝の走行と建物の方位が一致している。

#### (7) 7号据立柱建物

大溝内の西南F・2区とG・2区で検出され、南北3間、東西2間の床張りの建物跡である。方位はN10°Eである。柱間寸法は桁行東側で北より1.5m-1.8m-1.5m、西側で北より1.5m-1.65m-1.5m、梁行南側で東より1.85m-1.6mである。

#### (8) 8号据立柱建物

大溝内の南西G・3区で検出され、2×2間の建物跡である。方位はN88°Wである。柱間寸法は東側柱列で北より2.2m-2.1m、北側柱列で西より2.3m-2.4mである。柱穴の形状は円形または梢円形をなし、深さは15cm~45cmと幅がある。

#### (10) 9号据立柱建物

調査区の北東B・10区とC・10区で検出された。南北3間、東西2間の床張りの建物跡で方位はN81°Wである。柱間寸法は桁行南側で東より2.2m-2.45m-1.8m-1.4m、梁行東側で南より1.95m-1.8m-(2.3m)で、柱穴列は直線的に並ばず少々無理がある。柱の形は円形または方形を呈し、大きさは円形で20cm~30cm、方形で30cm×34cm、深さは10cm~40cmとばらつきが大きい。ピットより土師器片及び青磁片が出土している。

出土遺物 186は体内部・外面に櫛模文を施す青磁碗でC・10区ピットから出土している。187~190は土師器の小皿で187は推定口径8.9cm同底径6.9cmとやや大きめであるが、器高は1.3cmと低く口縁にかけて立ち上がりは緩やかに丸みを帯び器壁も薄く全体に平面的である。186は青磁と同じくC・10区から出土している。191は土師器の杯で推定復元ではあるが底径に対して口径が大きく底部から口縁にかけて直線的に広がっている。器壁は一様で内・外ともロクロ成形による稜がみられる。

その他西側地域の柱穴より出土した遺物(Fig.38)として192~196の土師器がある。193・195は底部からの立ち上がりに鈍い段を有し、器壁は薄くヘラ切り底である。194・196もヘラ切り底で194は底部から口縁へ急峻に立ち上がる。

(矢部)

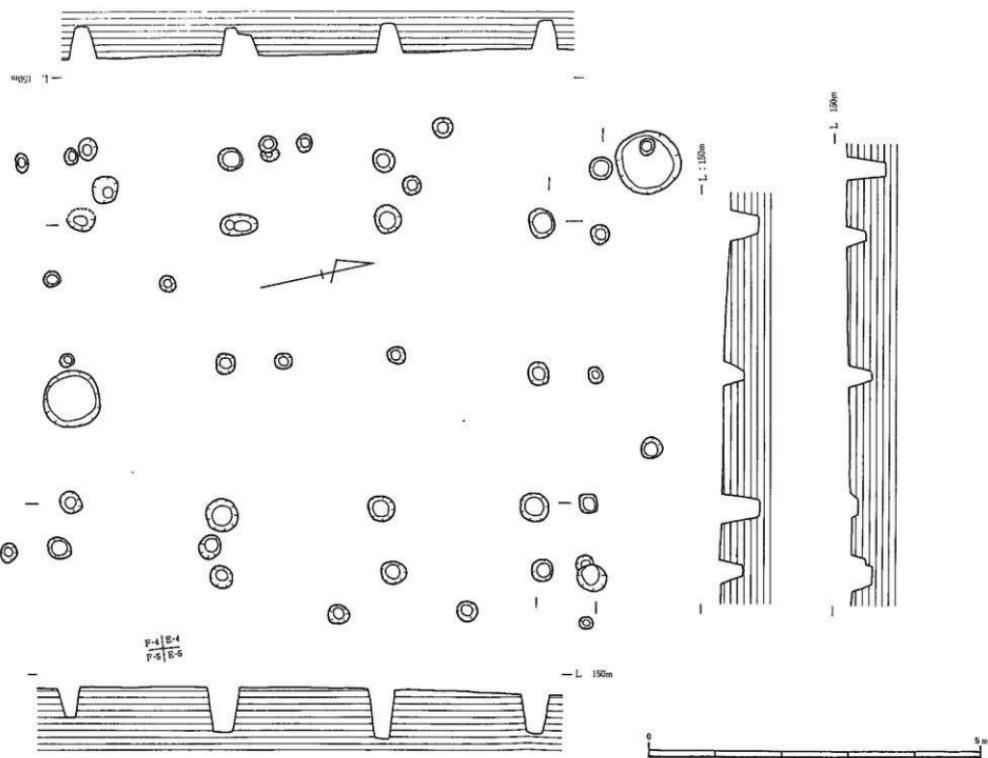


Fig 30 松原第 I 遗跡 1 号孤立柱建物

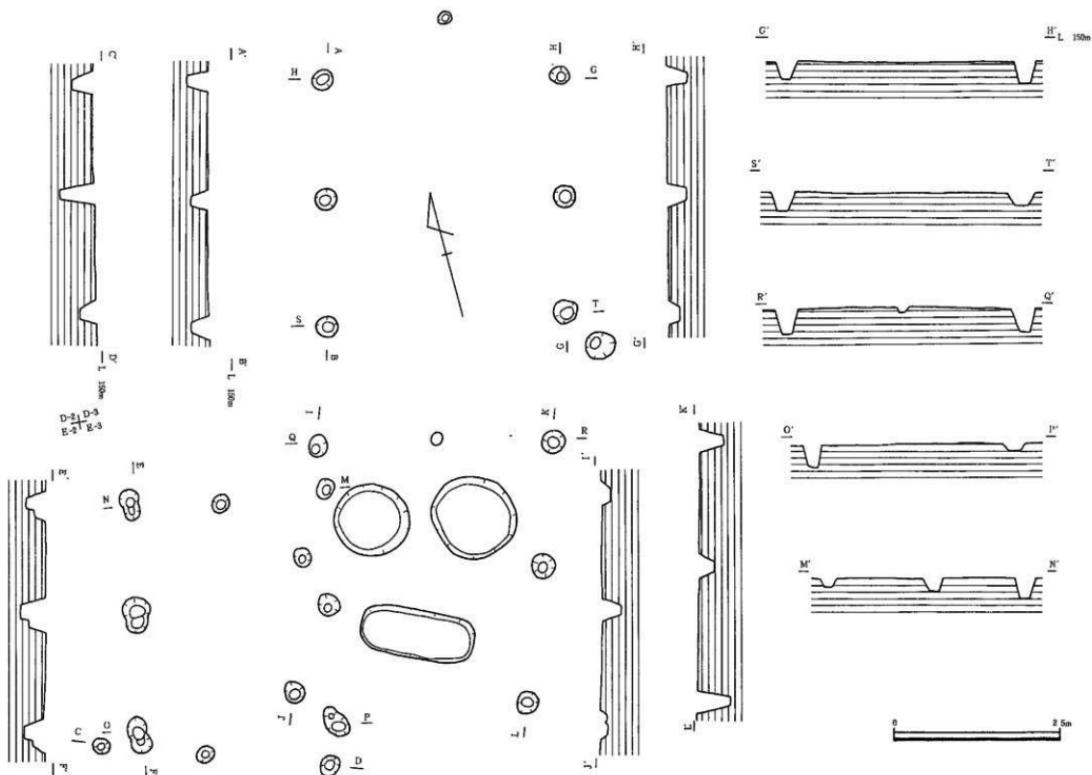


Fig. 32 松原第1遺跡3・4・5号

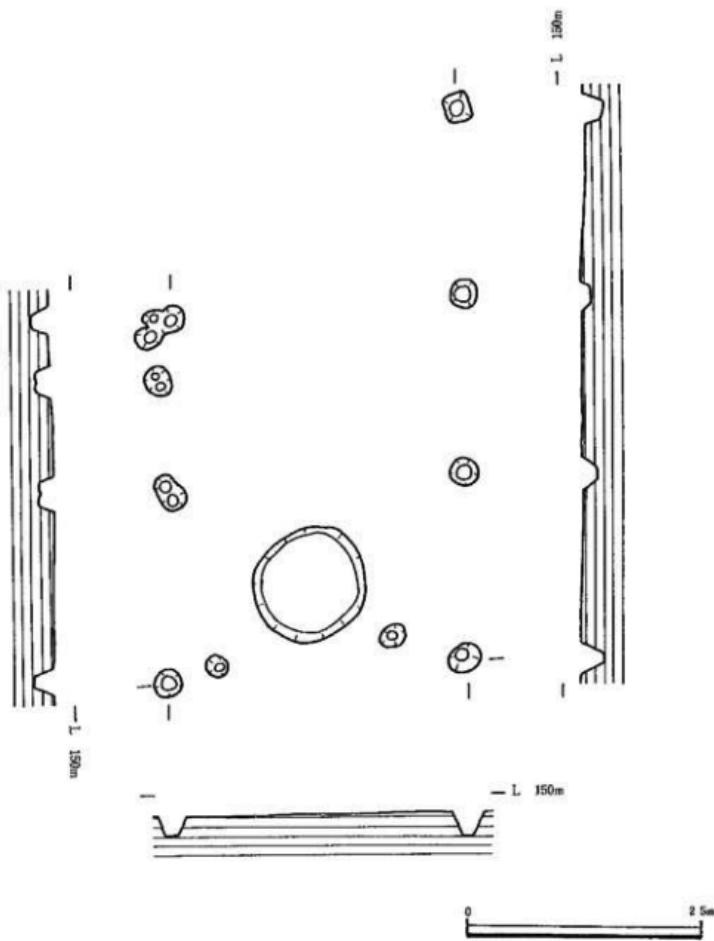


Fig. 31 松原第Ⅰ遺跡2号掘立柱建物

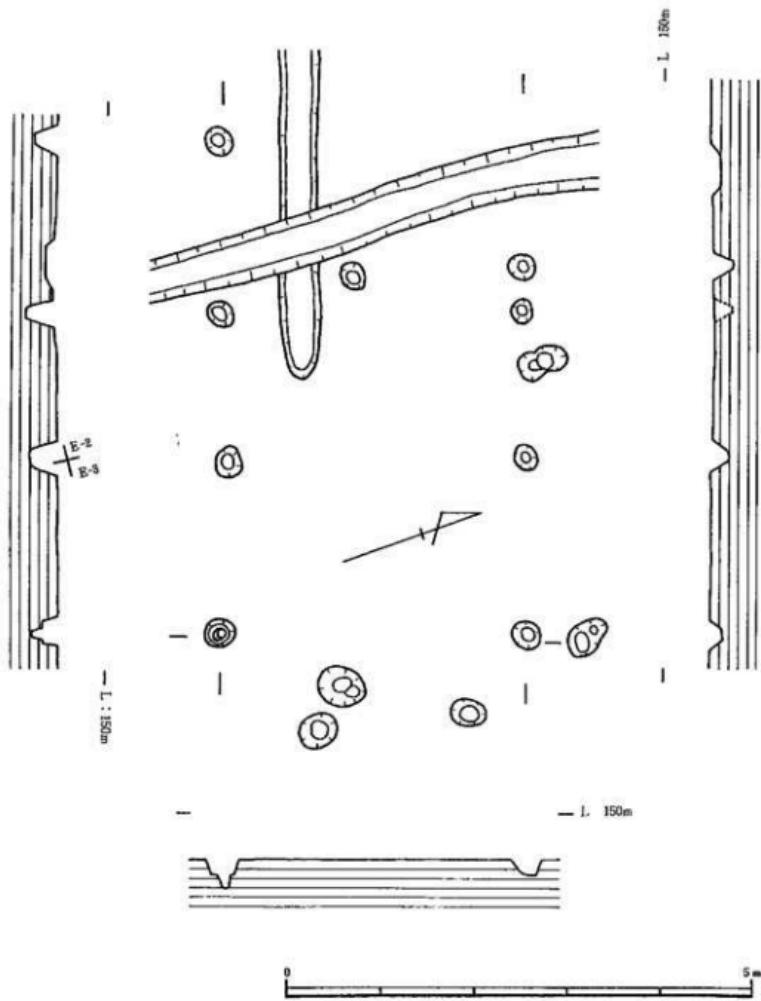


Fig 33 松原第 I 道跡 6 号掘立柱建物

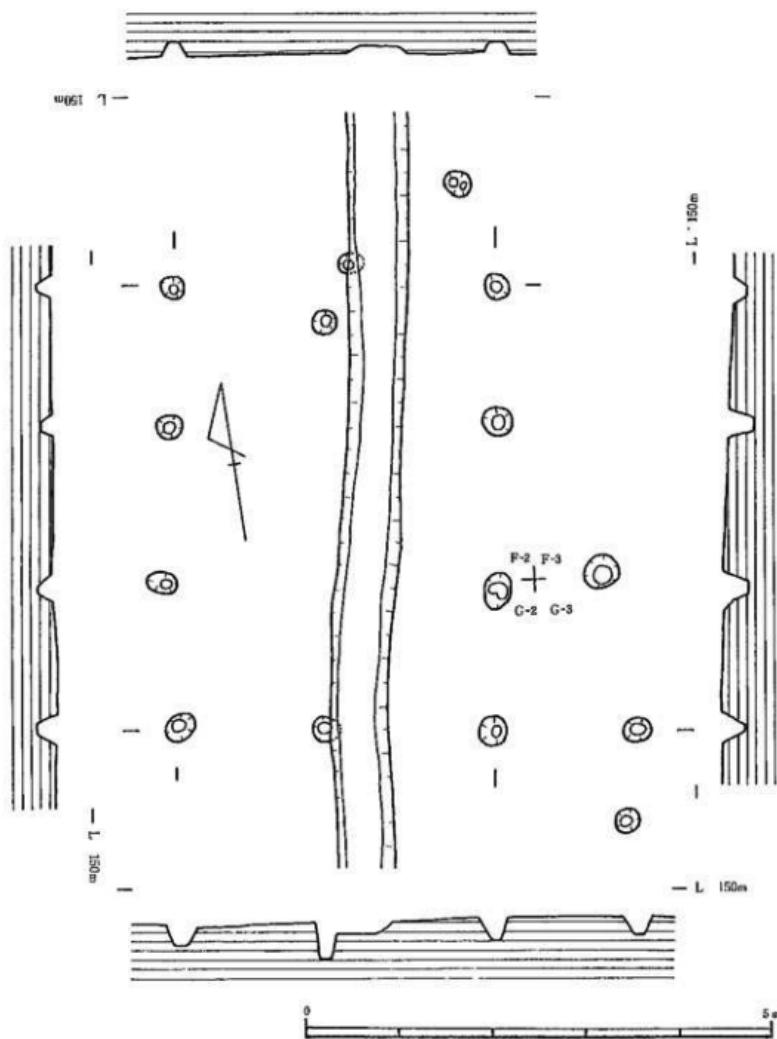


Fig. 34 松原第 I 遺跡 7号掘立柱建物

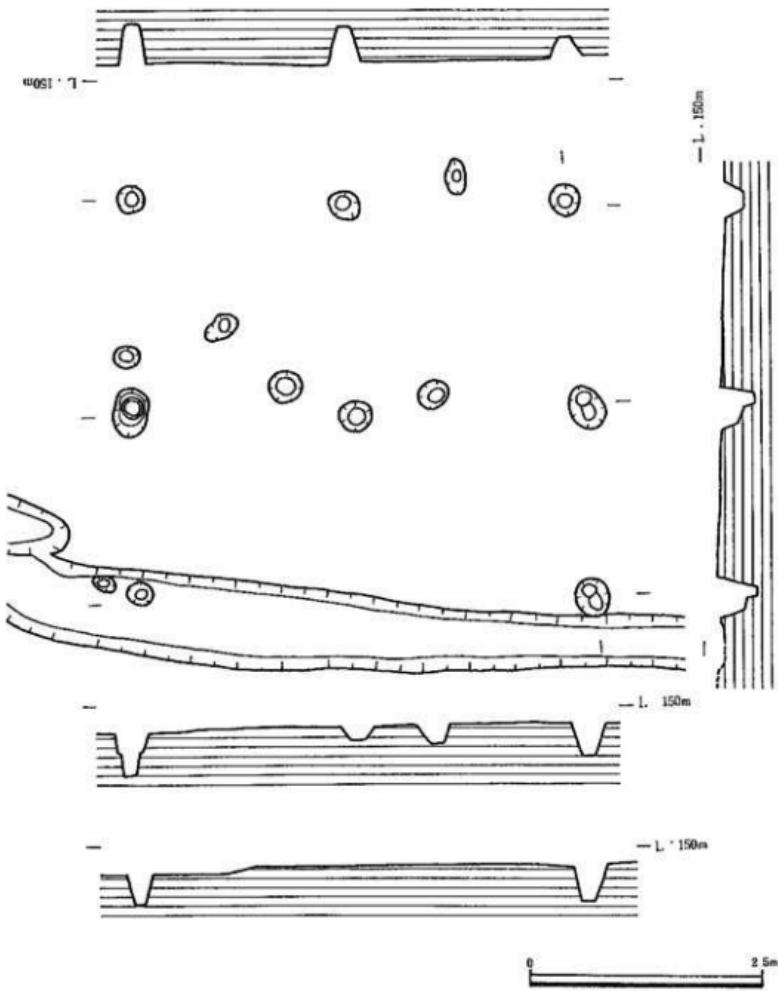


Fig 35 松原第 I 遺跡 8 号掘立柱建物

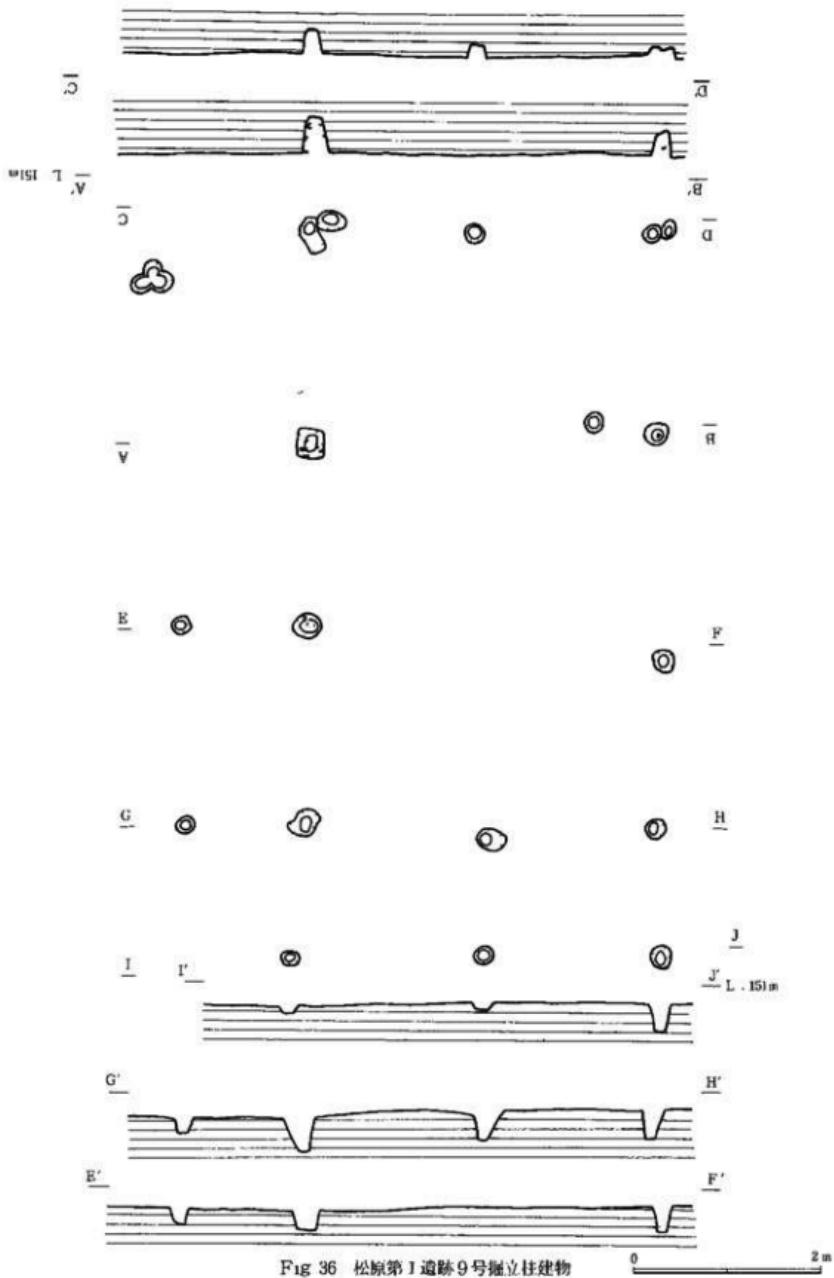


Fig. 36 松原第 I 遺跡 9号掘立柱建物

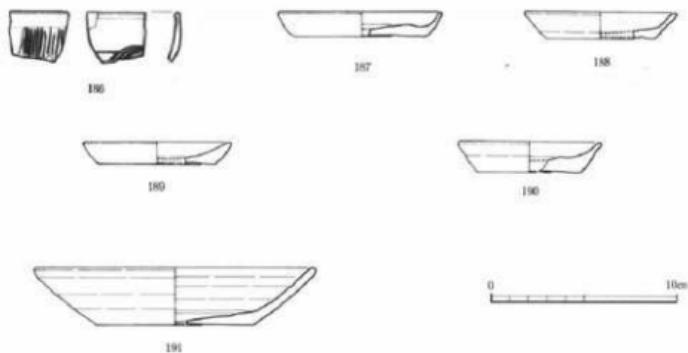


Fig. 37 松原第 I 遗迹 9 号掘立柱穴内出土遗物 (1/3)

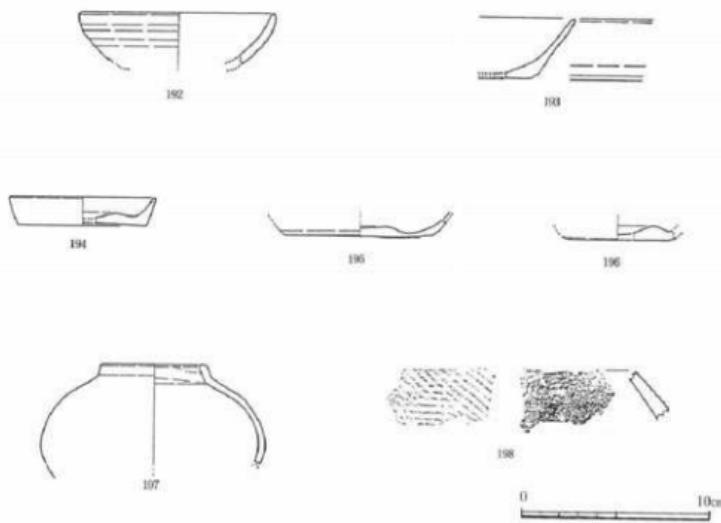


Fig. 38 松原第 I 遗迹掘立柱穴内出土遗物 (1/3)

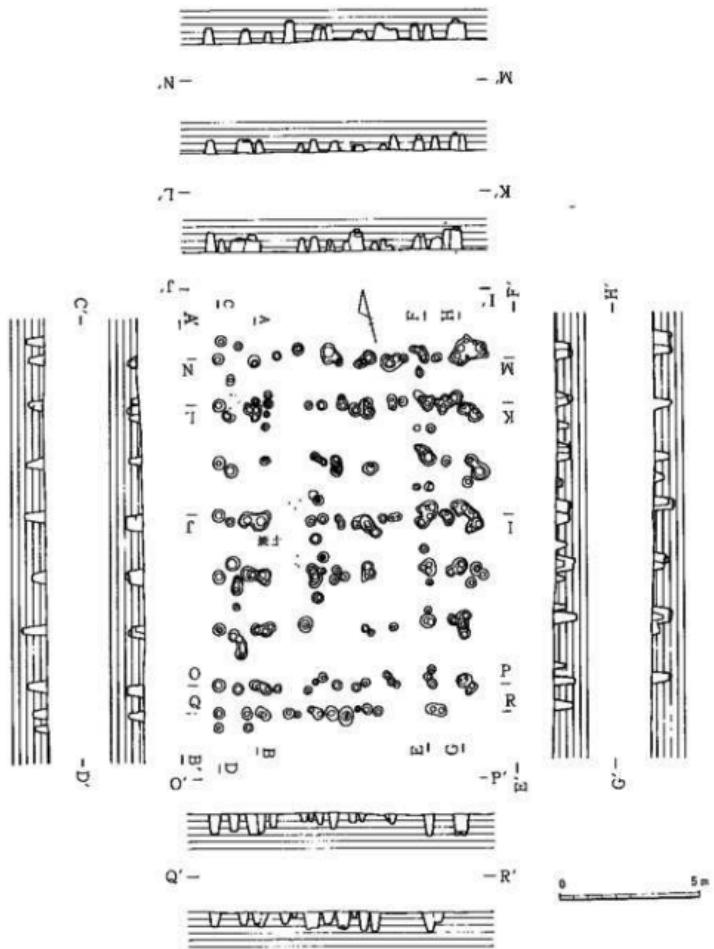


Fig 39 松原第I遺跡10号掘立柱建物

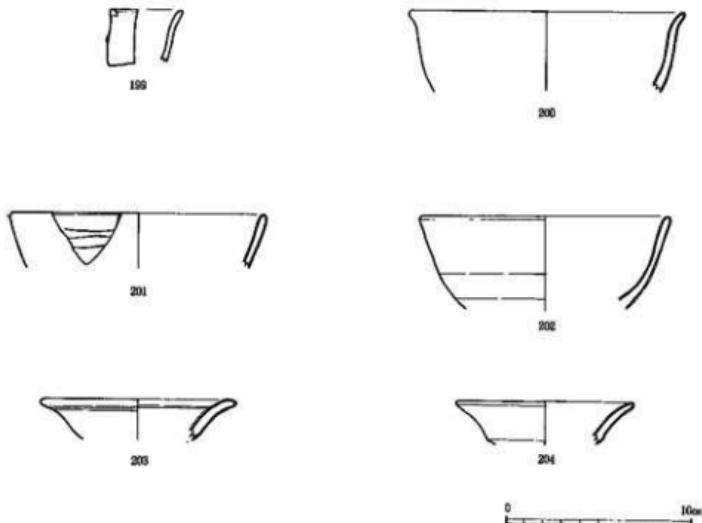


Fig. 40 松原第I遺跡10号掘立柱穴内出土遺物 (1/3)

#### 10号掘立柱遺構 (Fig.39)

棟の方向はN13°E、柱間4間×6間、桁行11.65m、梁行7.65m、柱間寸法桁行2.0m～1.65m、同梁行1.0m～0.9mを測る。主屋と南側・東側に廂を有する建造物の跡と思われる。柱穴は確認面でほぼ70cmを数えるが、基底部に河原石を埋設するものと、石礎状のものが認められ、また粘土を底に敷いたものも若干存していた。前者は掘立柱の根固の石と推測される。また柱穴より至大通宝8枚、また最深部よりも同種2枚が出土した。これは建前儀礼に関係するものと思われる。推定主屋の床面積およそ89.12m<sup>2</sup>ではば26坪強を数え、これにはば3尺の廂が附属する建造物であったものと思われる。

(重水)

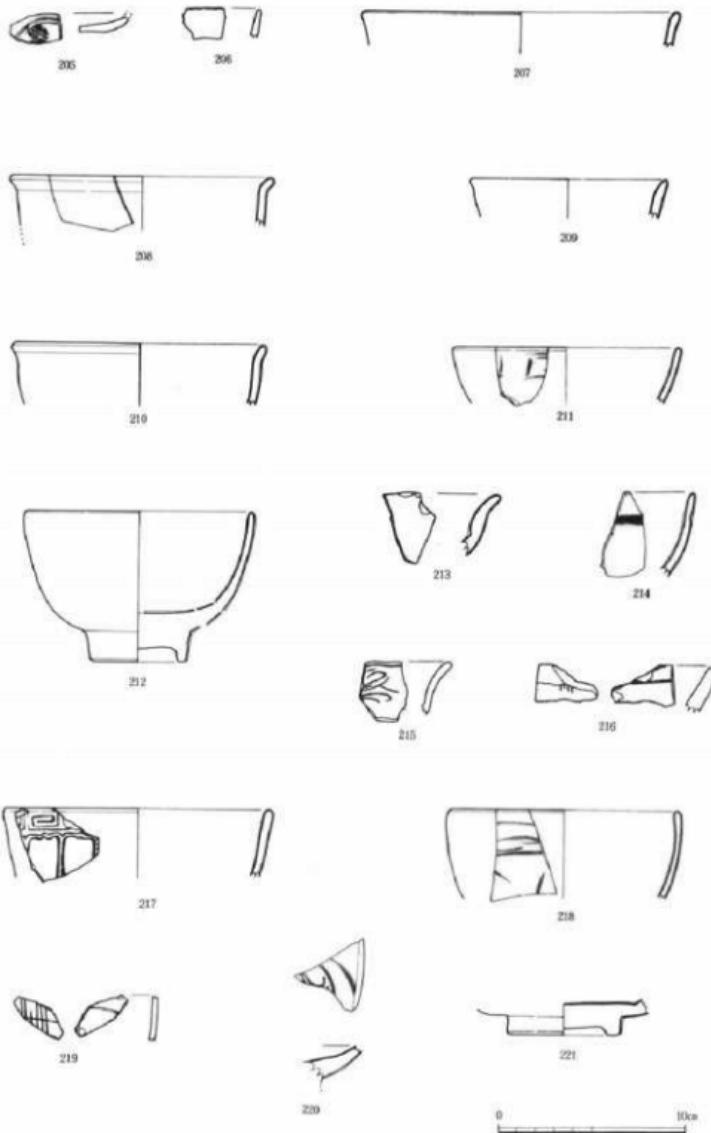


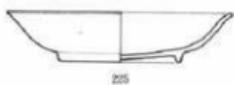
Fig.41 松原第Ⅰ遺跡東側ピット内出土遺物—1 (1/3)



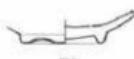
222

223

224



225



226



227



228



229



231



232



233



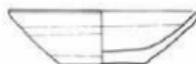
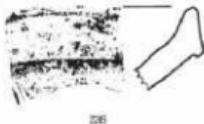
234



235



Fig. 42 松原第 I 遺跡東側ピット内出土遺物-2 (1/3)



0 10cm

Fig. 43 松原第1遺跡東側ピット内出土遺物-3 (1/3)

#### (4) 井戸遺構

##### 1号井戸

調査区域北西D・3区の北側に位置している。確認面で直径1.2m床面で0.7m、深さ2.0mを測る。遺物は埋土内より土師器が2点出土している。

246は坏で形状は不明、247はヘラ切り底の小皿で底部から直線的に立ち上がる。

##### 2号井戸

調査区域西E・2区とF・2区にまたがり、9号溝に切られている。形態は検出面で直径1.8m床面で0.9mと先細りし、深さは検出面である御池ボラ層より3.5mと出土した5基の井戸で一番深い。床面より1mほどから湧水がある。出土遺物はない。

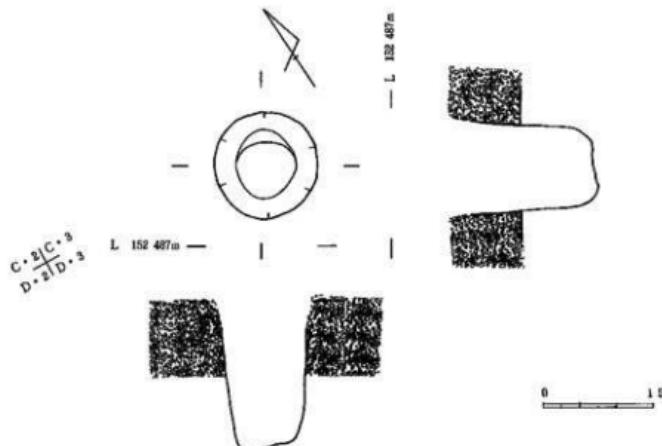


Fig. 44 松原第I遺跡1号井戸及び出土遺物 (1/3)

### 3号井戸

調査区域北東B・11区とC・11区の境界で検出した。遺構確認面は第IV層の御池ボラで検出、平面プランは東西方向2.3m、南北方向1.5mの不定形を呈している。当遺構の原型は直径0.6～0.7m、深さ約2.70mの円形型の素掘りの井戸と思われるが、検出面である御池ボラ層は廃棄後御池ボラの崩壊により、検出面では不定形を断面では抉れた状況を呈していた。また、検出面下約2.7m程で勇水があった。遺物は検出レベル付近および最深部より0.5～0.7m上位で頭蓋大から拳大の自然礫、陶磁器片や土師器片等が出土している。

出土遺物 248は青磁碗で検出面より出土し推定復元口径16.0cmを測り体部外表面には画花文を施している。色調は淡黄緑色である。250は常滑の壺で頸部上部及び底部が欠足し肩部径は16cmである。262は土師器の小皿で底部は糸切りのち板状の圧痕が付いており、底部から口縁にかけて内湾ぎみに立ち上がる。器壁は体部は均一であるが底部はロクロ成形による同心円の凹凸がある。また、250と262は井戸の最深部付近より出土していることからほぼ同時期のものと考えられる。

### 4号井戸

調査区東側のE・12区で南北方向が長軸1.2m、短軸1.0mの円形に近い梢円形の井戸である。検出面は第4層の御池ボラ層で検出面より床面までの深さは約1.7m程で、御池ボラ層・漆黒土層を貫きアカホヤ層まで達している。床面には20～40cm大の自然礫が廃棄されたように積み重なって堆積している。現状はボラ面の崩壊の恐れがあるため重機によりかなりの部分を

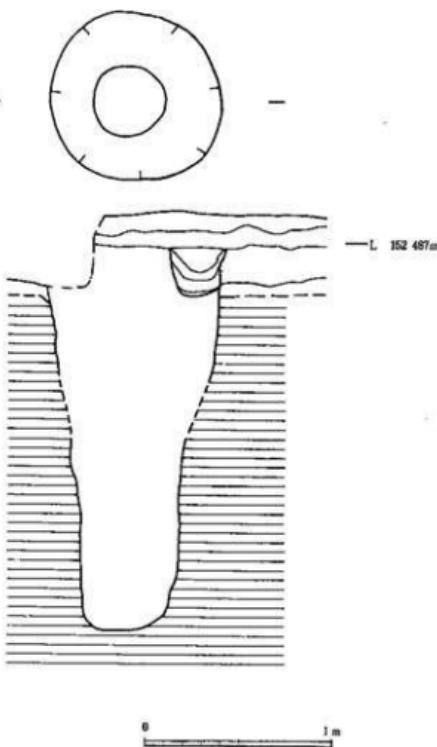


Fig. 45 松原第I遺跡2号井戸 (1/3)

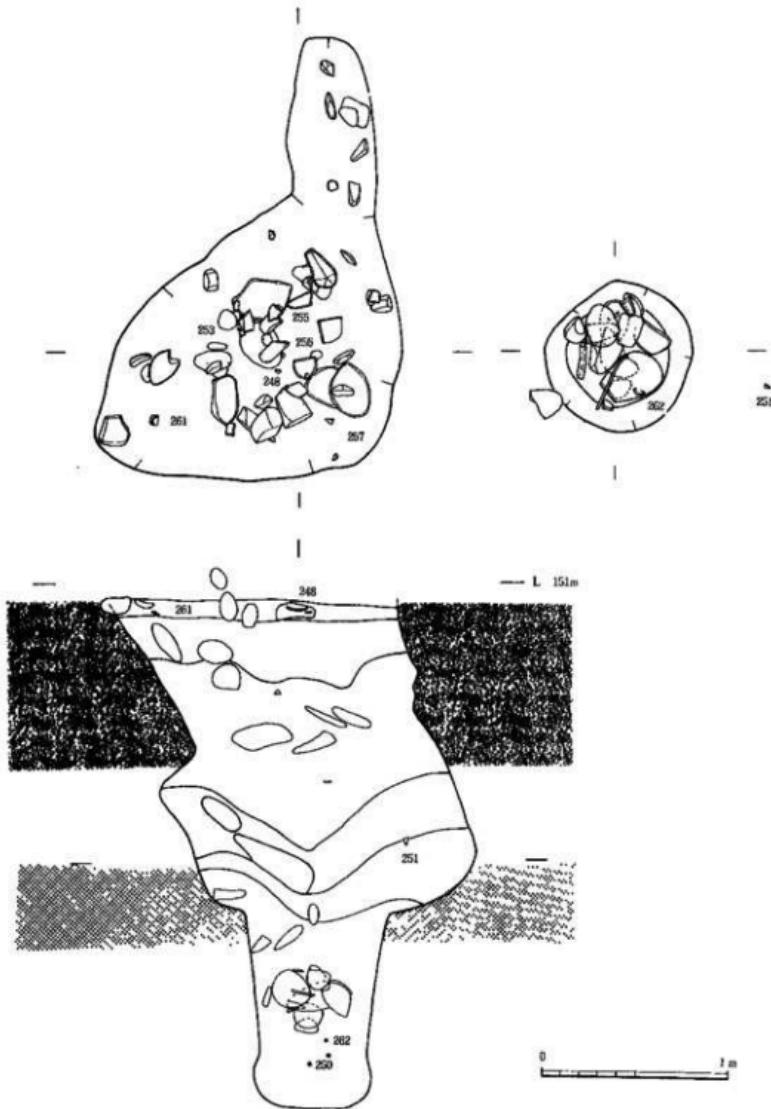
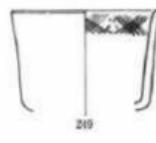


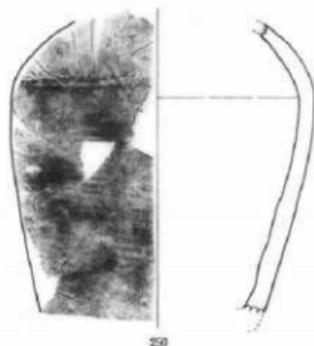
Fig. 46 松原第 I 遺跡 3 号井戸 (1 / 3)



248



249



250



251



252



253



254



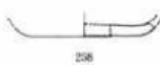
255



256



257



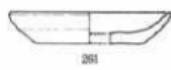
258



259



260



261



262



Fig 47 松原第I遺跡3号井戸内出土遺物(1/3)

剥ぎとった。当遺構の形態は素掘りの井戸と思われるが、自然礫の堆積から石積み枠の井戸である可能性も考えられる。

(矢部)

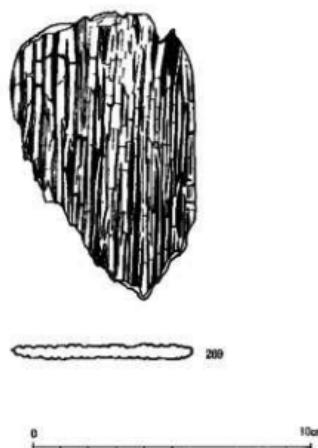


Fig. 48 松原第I遺跡 5号井戸内出土遺物

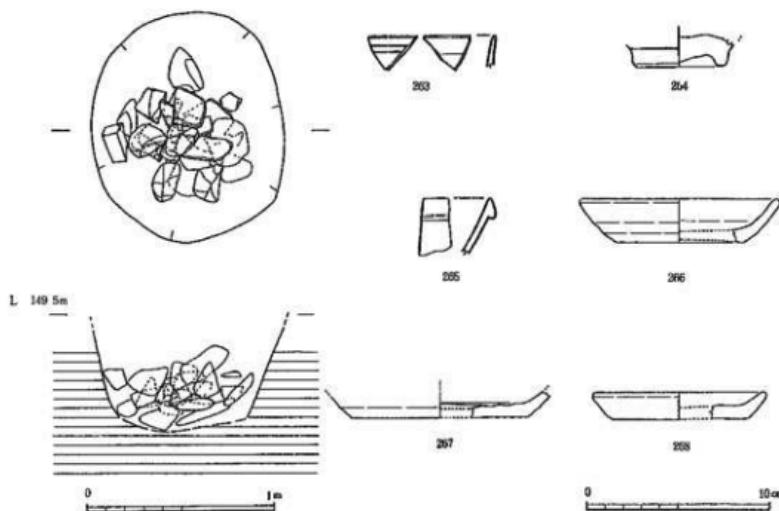


Fig. 49 松原第I遺跡 4号井戸 (1/3) 及び出土遺物 (1/2)

## (5) 壁穴遺跡

### 1号壁穴遺構 (Fig50)

プランはややゆがんだ方形で、主軸はN79°W。規模は2.75m×2.70mを測り、床面積は2.6m×2.55m(壁面下)を数える。また南側と東側の壁下に幅15cm～30cm、深さ10cm内外の壁帶溝が遺存する。床面内の支柱穴は北側が15cm～30cm、南側は25cm～30cmを計る。屋外に煙道を思わせるような溝状の遺構が存し、その先端のピットは30cmの深さを有する。この壁穴遺構は柱間3間×3間、桁行2.17m、梁行2.15m、柱間寸法桁行80cm～60cm、同梁行25cm～30cmを測り、およそ2.0坪となる据立建物といえよう。検出面よりの覆土はほぼ5層よりなるが、各層に河原石、焼土灰が混入されており、自然遺物では遺構の西北隅、南西の床面より炭火灰や加工された竹・木の炭化物が検出された。また床面直上より磁器片若干が出土した。これらの事実より本遺構の存立期、廃絶の素因、過程、性格などが窺知されよう。

### 2号壁穴遺構 (Fig51)

1号同様いびつな方形プランで、2.80m×2.70mを測り、主軸はN77.5°Wである。床面積は2.6m×2.6mで、北側の柱穴の深さは0.16m～0.36m、東側は0.13m×0.28mの範囲である。遺構内の覆土は単純な2層であった。床面より木灰や粗の炭化物などの自然遺物の外、永楽通宝2枚、磁器片が検出された。この遺構もほぼ1号同様の規模性と性格をもつものであろう。

### 3号壁穴遺構 (Fig52)

平面プランは2.20m×2.05mの方形をなし、底面積は1.95m×1.90mを測る。確認面よりの深さは1.03m～1.08mである。覆土はほぼ7層で、いずれも軟質の混土層であった。この土層(深さ103cm)のピット中より河原石を配し、西面を向く恵比須像が埋置されていた。この像は素焼でにぶいレンガ色を呈し、胎土も精で焼成も割と良好である。技法は割り型に依って作製されたものと考えられ、像の両側面にその痕跡が明瞭である。像形は鳥帽子をかぶり、狩衣指貫・括り袴を着け履をはいでいる。なお狩衣の中央(腹部)に三つ拍の印がみられる。岩(台座)に右脚を却屈し、左脚で地を踏みおろし、右手に釣竿を持し(一部欠失)左腕で魚を(鯛)を抱えている。総高7.30cm(2寸4分)座高5.6cm(1寸8分)肘巾4cm(1寸3分)厚さ1.8cm(6分)を測る。また岩座の裏に0.3cmの円孔が焼成前に穿たれ、その奥行は3.35cm(1寸1分)を数える。これは像の乾燥台か台座固定のために機能したものであろう。

(重永)

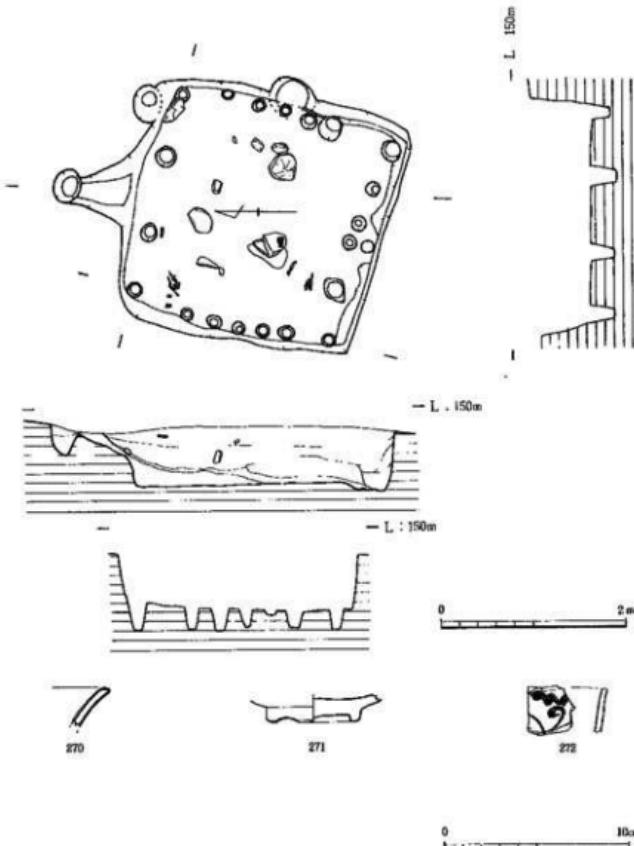


Fig 50 松原第I遺跡1号墳穴構造(1/3)及び出土遺物(1/3)

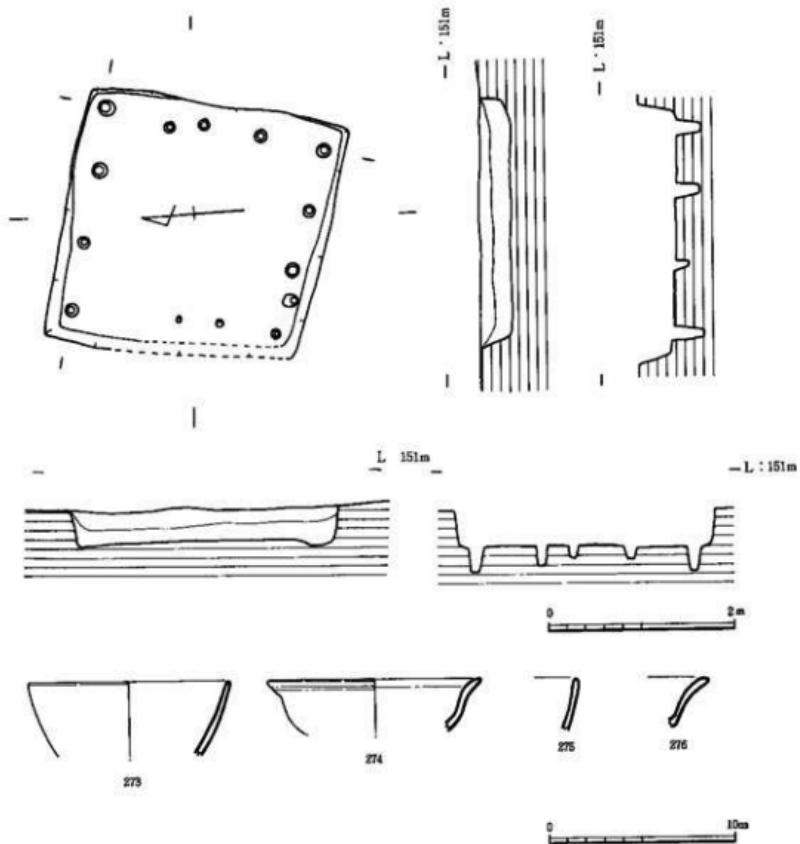


Fig 51 松原第I遺跡2号竪穴遺構(1/3)及び出土遺物(1/3)

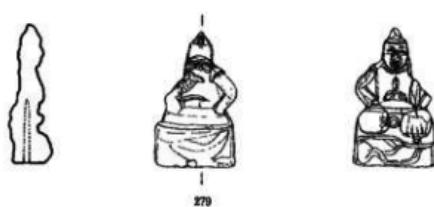
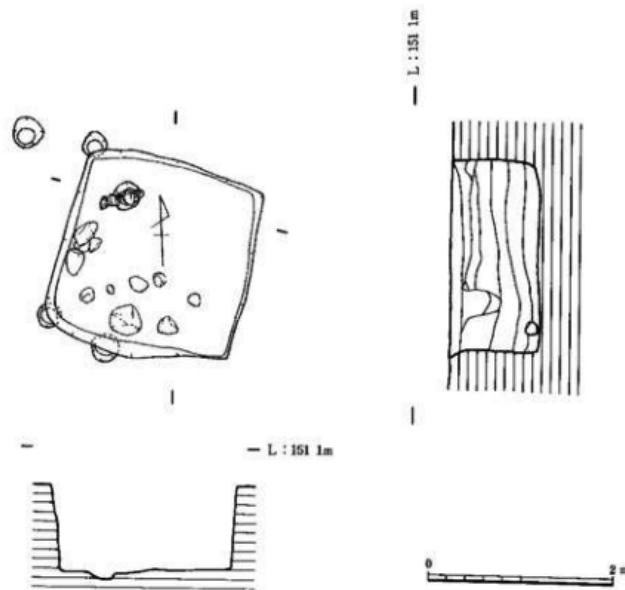


Fig 52 松原第 I 遺跡 3号竪穴遺構(1/3)及び出土遺物(1/3)

## (6) 土 壤

松原第I遺跡の西側調査区域で検出された土壙は32基である。C・11区とC・12区にまたがって出土した土壙状遺構（遺構の性格が不明なため特殊土壙と呼ぶ）、常滑の大甕の出土した1号土壙がある。他、地下式横穴（状土壙）・円形・方形などの形態があり、さらに平面形態では類似していても深度が著しく異なるものがある。これらの土壙は埋土の違いなどからもかなり時期幅があると思われるが一括して扱うこととする。

### 特殊土壙 (Fig53)

調査区北東C・11区で2号溝（？）、3号溝、4号溝に切られた状態で検出された。当遺構は2つの土壙からなり、西側土壙は長軸1.2m、短軸0.35mの楕円形を呈し深さは1.1mである。埋土は第3層で遺物の出土はなかった。もう一方の東側土壙は全長3m幅0.5mで周程の円弧形をした特殊な土壙で、深さ1.0～1.1mで床面からほぼ垂直に立ち上がっている。遺構は第IV層の御池ボラ層を貫き第V層の漆黒土層の上位まで掘りこまれている。埋土は第III層黒褐色土である。当遺構は特殊な形態をした土壙で、用途・機能については貯水的または貯蔵的な機能を果たしていたと考えられるが確証はない。遺物はかなり出土しているが床面またはその附近で出土しているものは少ない。遺物の種類はスラグ（鉄滓）、軽石が多く、他土師器も多い。

出土遺物 282・281は白磁碗で高台内底部は無釉で口縁は玉縁ないしは櫛描である。282は鉢付の滑石製の石鍋で外面にススの付着がみられる。283～293は土師器で283は口径15.2cm、底径8.8cm器高2.9～3.0cm、284は推定口径14.7cm底径9.1cm器高2.9～3.0cmを測る大型の壺で内・外面ともロクロ成形による明瞭な棱が残っている。290・292は小皿で口径と底径が大きい割りには器高が低く、直線的に立ち上がり全体に平面的である。底部は糸切りのち板状の圧痕が付いている。  
(矢部)

### 1号土壙 (Fig55)

D・4区より検出され、確認面からの平面観は不整形の円形である。上面の東西径100、南北径110cmを測る。その深さは30cm～39cmの間で、覆土は2層をなしていた。覆土中より陶質の大甕の破片が出土した。これは上部または横位よりの物理的破壊と近年の農耕機械に依る損傷破壊をうけていた。

### 大甕 (Fig56)

陶質の大甕で褐色を呈し焼成も堅練であるが、肩部に気泡（火ぶくれ）が残る。総高（既存部）53.6cm、口径35.7cm縁帶の巾4cm、胴径55.5cmを計る。口唇を引きあげ、強く垂れ下ってN字をなす。いわゆる折端のU縁とそれに続く短頸部、肩の張った胴部へと移行する器形をもつ。技法は作り出しの裏に対する頸部および内面に輪積みの手法か木べら状のもので撫であげた跡、描書きなどが明瞭に看取される。この大甕は形態よりも広く常滑第三型式の範疇に属するものである。  
(重永)

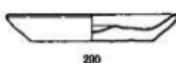
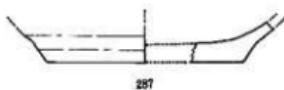
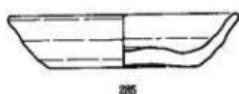
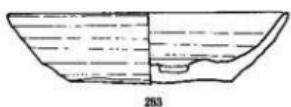
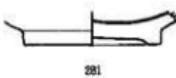
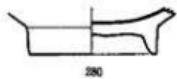


Fig 54 松原第 I 遺跡特殊土壤内出土遺物 (1/3)

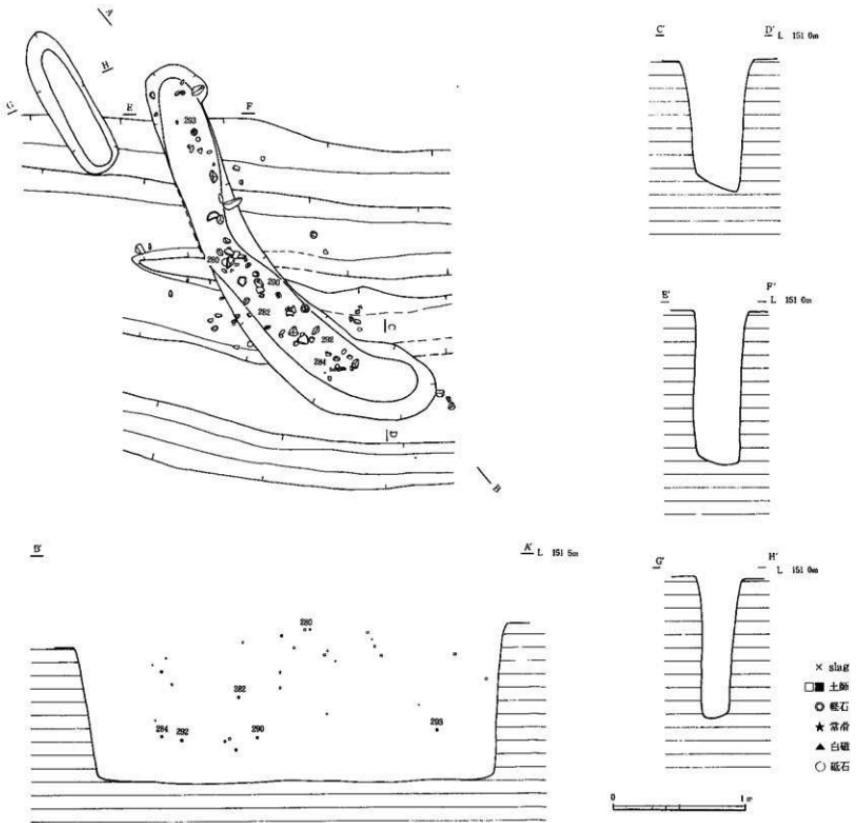


Fig. 53 松原第I遺跡特殊土壤 (1/3)

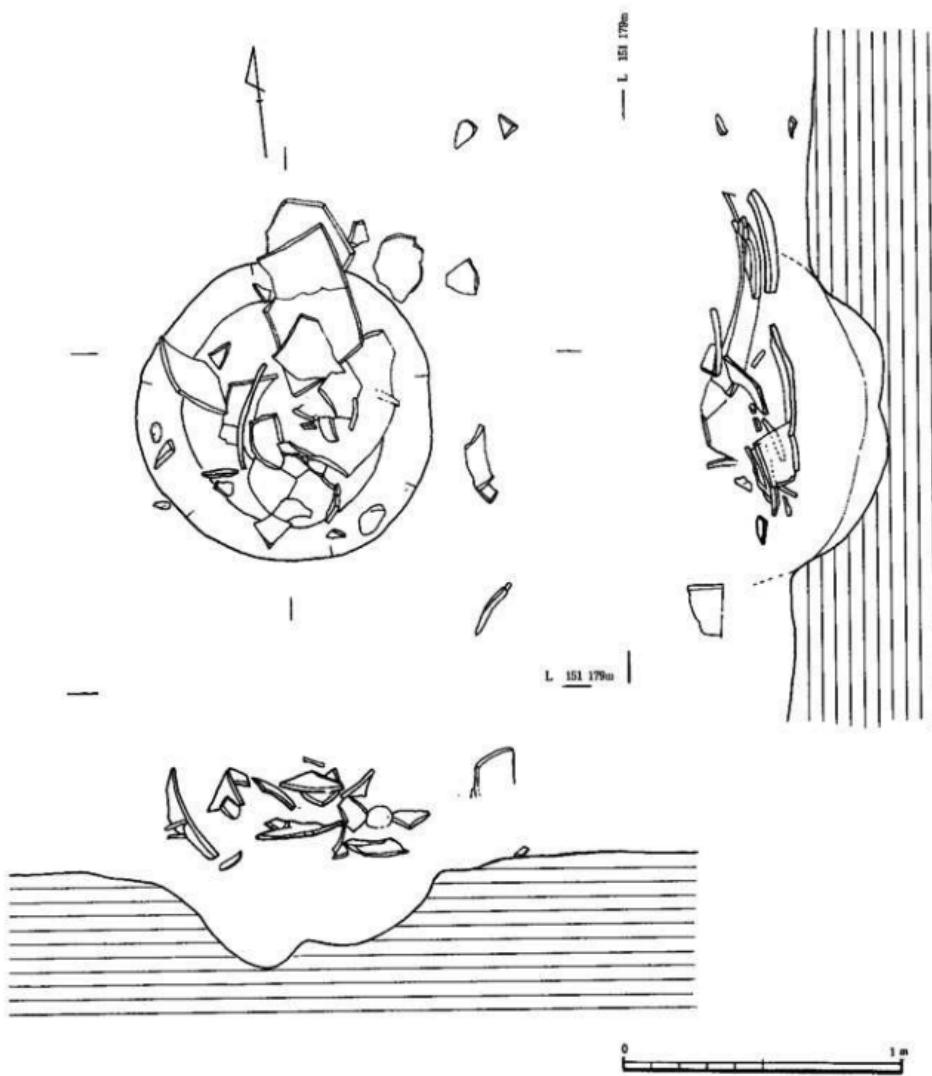
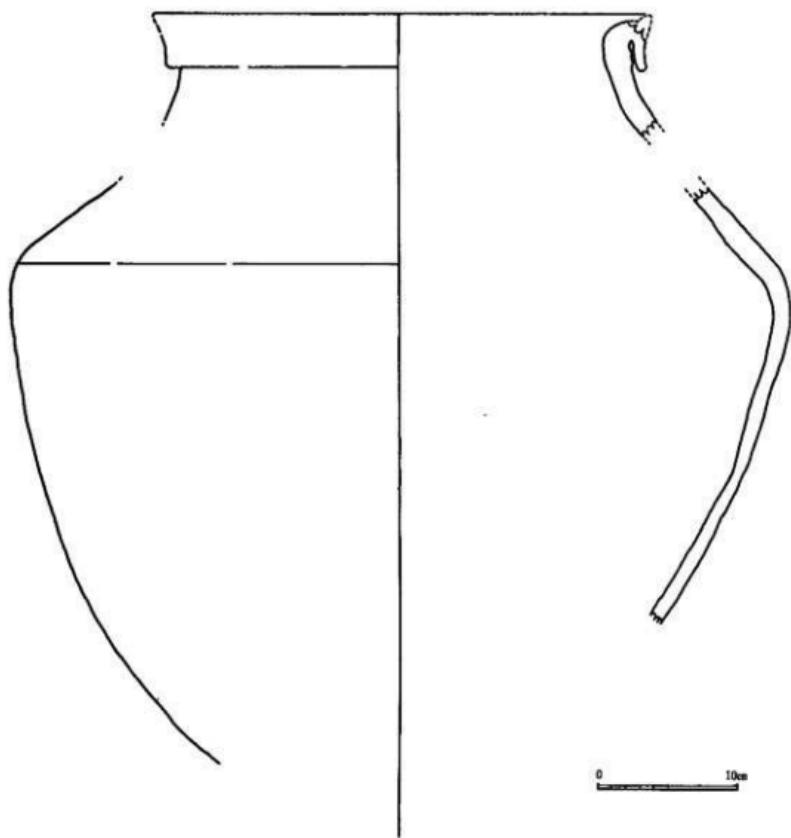


Fig 55 松原第1遺跡1号土壤 (1/2)



294

Fig. 56 松原第 I 遺跡 1 号土壤内出土遺物 (1 / 4)

### 20号土壤

E・5区北側に位置し、形態は直径1.1～1.2m深さ0.5mで床面が2段に落ち込んでいる。検出面レベルで遺構の中央附近にかけて厚さ10cmほどの粘土が敷きつめられている。埋土は灰黒色土である。

### 23号土壤

F・4区北東側に位置し、形態は長軸1.7m短軸1.2mでトレンチャーにより擾乱を受けているが梢円形にちかい隅丸方形を呈していると思われる。深さは0.6mである。遺構内北側で20～30cm大の軽石が検出面附近から出土している。埋土は黒褐色土である。

### 29号土壤

G・5区北側に位置し、主軸方向N42°Wで長軸3.6m短軸3.4mのほぼ円形を呈し、深さは0.6mを測る。埋土は灰黒色土である。

### 31号土壤

G・4区南東側に位置し1号溝を切っている。主軸方向N77°Wで長軸0.7m短軸0.5mの隅丸方形を呈し、深さ（確認面より）0.35mを測る。埋土は黒褐色土である。

### 32号土壤

G・4区とG・5区の境界に位置し、主軸方向がN20°Eで長軸0.85m短軸0.5mの方形を呈し、深さは0.55mを測る。埋土は黒褐色土である。

### 18号土壤

E・5区北側に位置し、18号の形態は地下式状を呈している。堅坑は1.87×1.28mの南北が長軸の梢円形状をなし、床面は1×0.7m程を測る。深さは検出面より1.3mで横穴入口（羨門）で20cm程の段を有す。横穴の形状は妻入り型を呈し奥行2.2m幅1.2mである。遺物は堅坑内に頭蓋大から拳大の自然礫や軽石が出土している。295・296は検出面付近からの出土である。また、18号土壤と19号土壤の切り合いについては不明である。

### 30号土壤

G・4区に位置し、30・31・32号土壤は形態や位置関係から一対のものと考えられる。主軸方向がN75°Wで長軸1.7m短軸1.0mの方形を呈し、深さは1.01mでほぼ垂直に掘り込まれている。遺物は検出面より1／3程の深さに頭蓋大から拳大の焼石や軽石が出土し、297・298は検出面付近からの出土である。埋土は黒褐色土である。

(矢部)

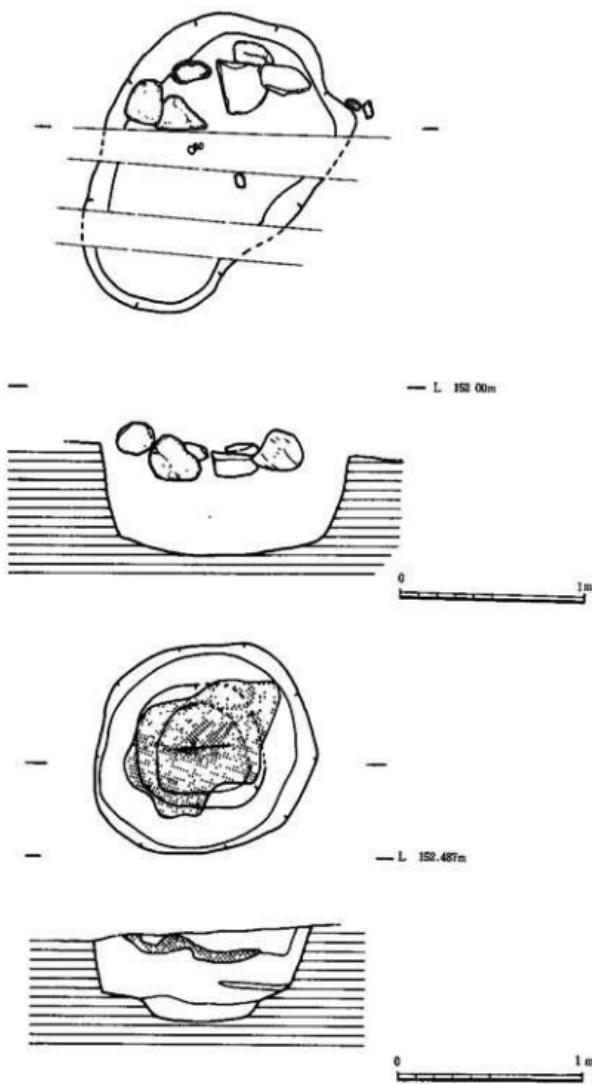


Fig 57 松原第1遺跡20(下)・23(上)号土壤 (1 / 3)

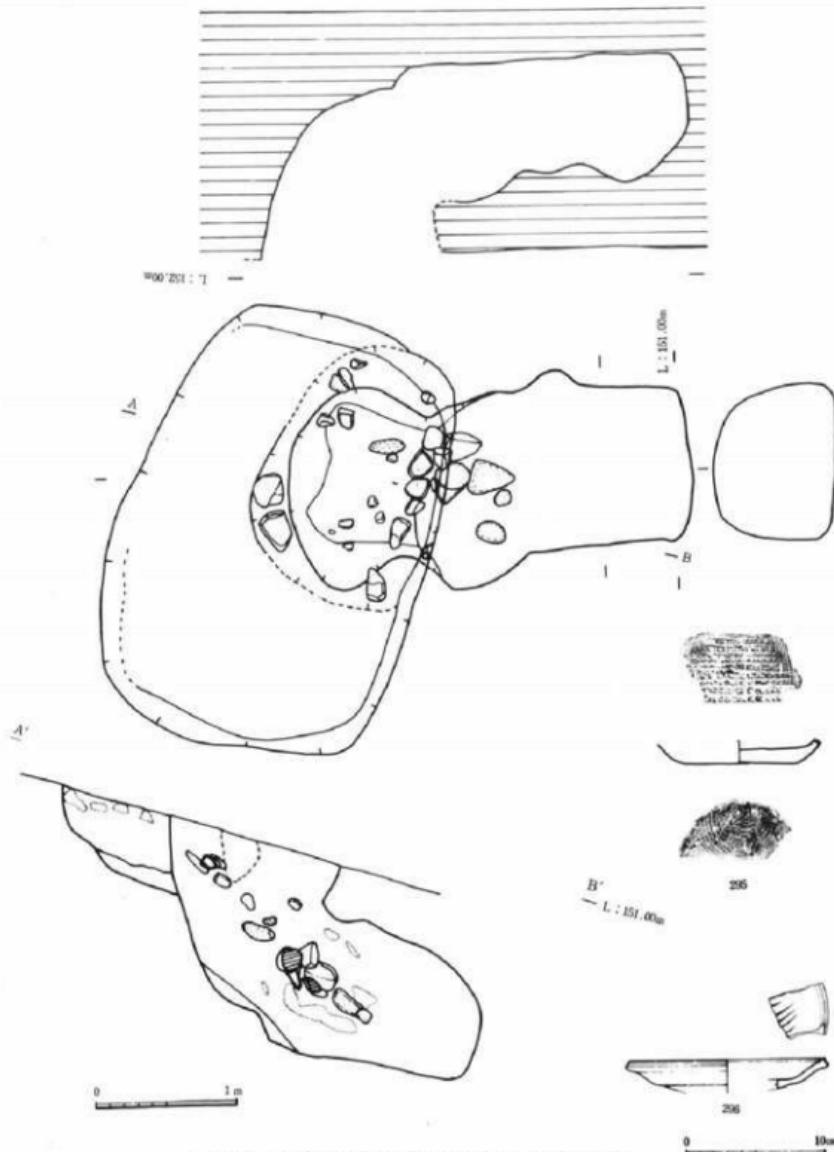


Fig 58 松原第1道跡18(地下式)・19号土壤(1/3)

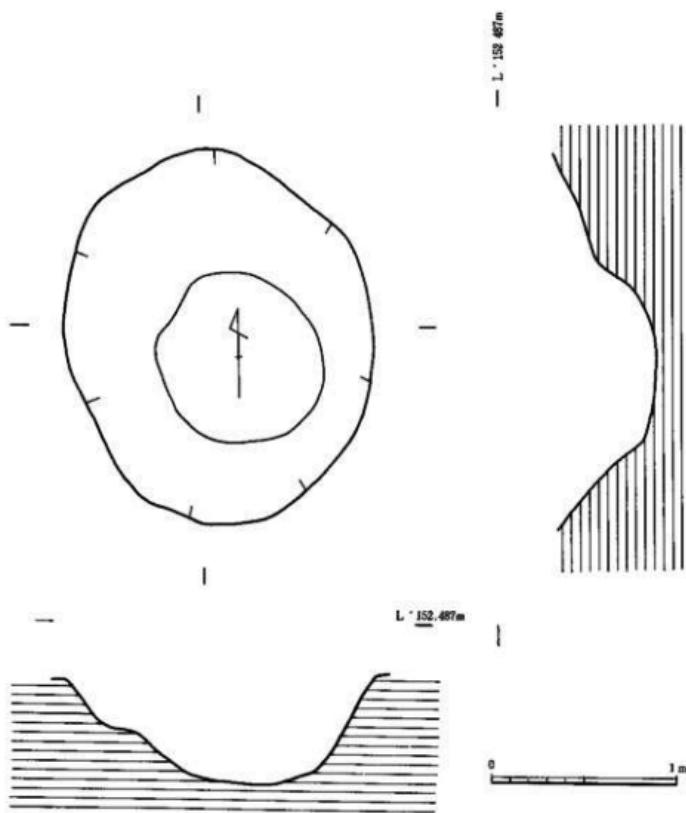


Fig. 59 松原第I遺跡29号土壤及び出土遺物 (1/3)

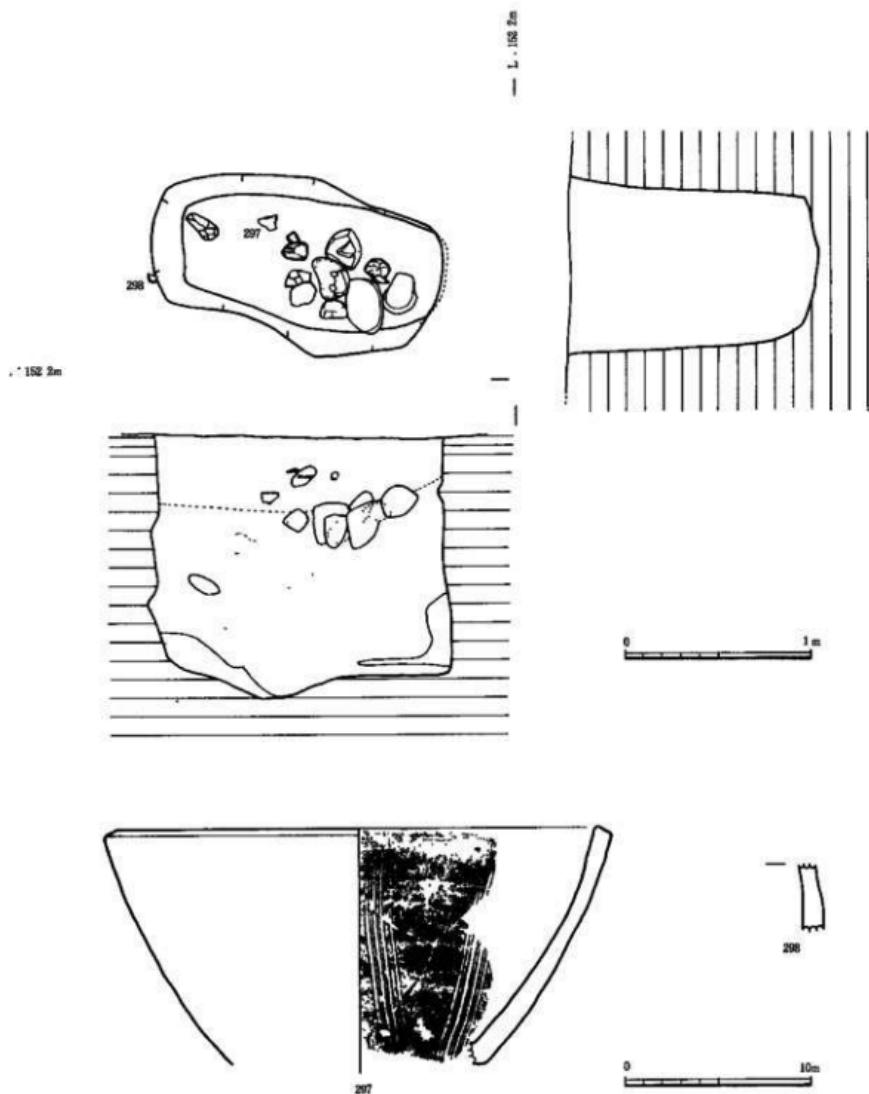


Fig 60 松原第1遺跡30号土壙及び出土遺物 (1/3)

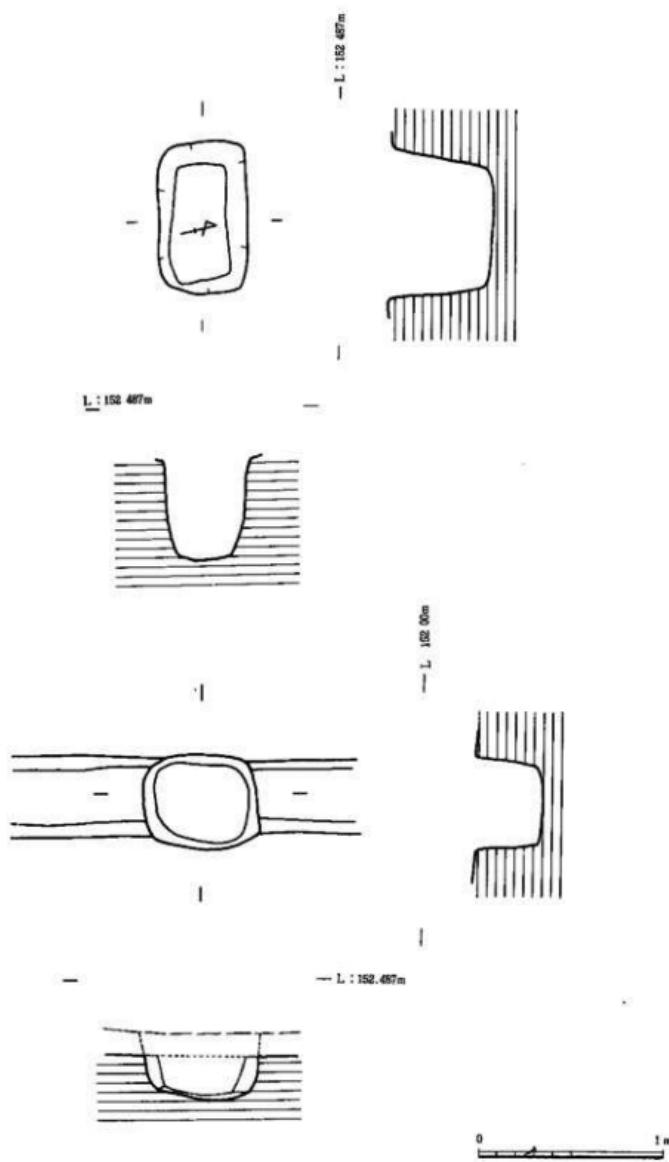


Fig 61 松原第I遺跡・31号(下)・32号(上) 土壙(1/3)

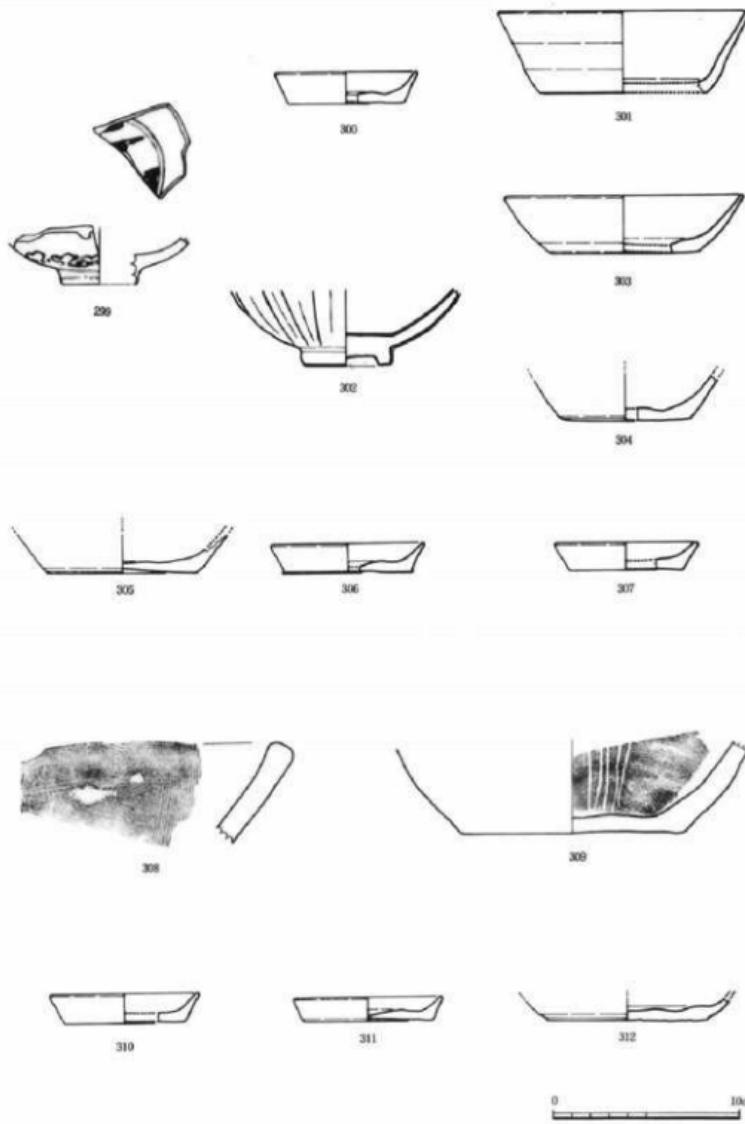


Fig. 62 松原第 I 遺跡・土壤内出土遺物 (1 / 3)

( ) は推定

遺構番号	区	平面形態	規 模 (m)	方 位	出土遺物
002	C-2	方 形	1.60×0.76×0.36	N75° W	
003	E-2	"	1.50×0.82×1.02	N13° E	
004	E-3	円 形	1.13×1.08×0.27	N17° E	
005	E-3	"	1.28×1.26×0.21	N17° E	青花-299
006	E-3	方 形	1.73×0.74×0.13	N67° W	
007	F-3	"	3.30×1.17×0.17	N81° W	
008	C-5	円 形	1.5 ×1.46×0.46	N17° E	
009	C-4,5	隅丸方形	2.0 ×0.9 ×0.25	N69° W	
010	C-6	"	1.08×0.82×	N76° W	土師-300
011	D-4	"	2.03×1.03×0.5	N84° W	
012	D-5	円 形	1.03×0.93×0.32	N17° E	
013	"	隅丸方形	1.55×1.11×0.18	N23° E	土師-301
014	"	"	0.89×0.59×1.03	N12° E	青磁-302
015	"	円 形	0.92×0.68×0.17	N57° E	
016	"	椭円形	1.48×0.85×0.18	N56° W	
017	E-5	円 形	1.64×1.40×0.51	N2° E	
018	"	方形(地下式横穴)	1.87×1.28×	N88° E	瀬戸-296
019	"	大形方形	3.2 ×2.2 ×0.49	N11° E	
020	"	円 形	2.37×2.22×0.87	N30° W	粘 土
021	"	"	1.62×1.56×0.72	N13° E	
022	"	隅丸方形	1.92×1.19×0.87	N12° E	
023	F-4	円 形	1.73×1.24×0.71	N39° W	
024	F-5	方 形	×0.95×0.78	—	土師-311
025	"	"	1.26×1.14×0.21	N9° E	
026	"	大形方形	3.2 ×2.02×0.65	N12° E	土師-312
027	"	大形円形	(3.07)×2.66×0.18	N52° W	
028	G-5	"	2.07×1.61×0.26	N88° E	
029	"	不定円形	3.5 ×3.3 ×0.93	N42° W	
030	G-4	方 形	1.7 ×1.0 ×1.01	N75° W	
031	"	"	1.59×0.97×0.78	N77° W	
032	"	"	1.21×1.05×0.64	N20° E	

表2 土 壤 一 覧 表

(7) その他の遺物

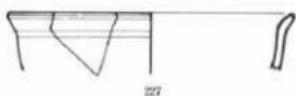
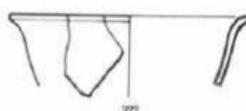
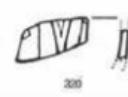
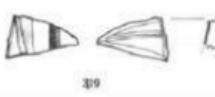
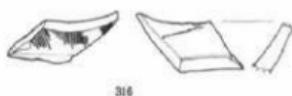
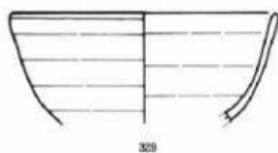


Fig. 63 松原第1遺跡出土遺物—青磁1 (1/3)



329



330



331



332



333



334



335



336



337



338



339



340



341



342



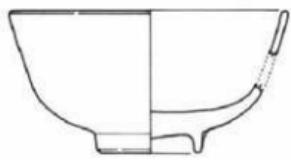
443



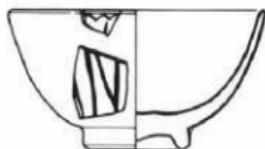
444



Fig. 64 松原第 I 遺跡出土遺物—青磁 2 (1/3)



345



346



347



348



349



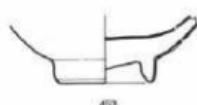
350



351



352



353



354



Fig. 65 松原第1遺跡出土遺物—青磁3 (1/3)

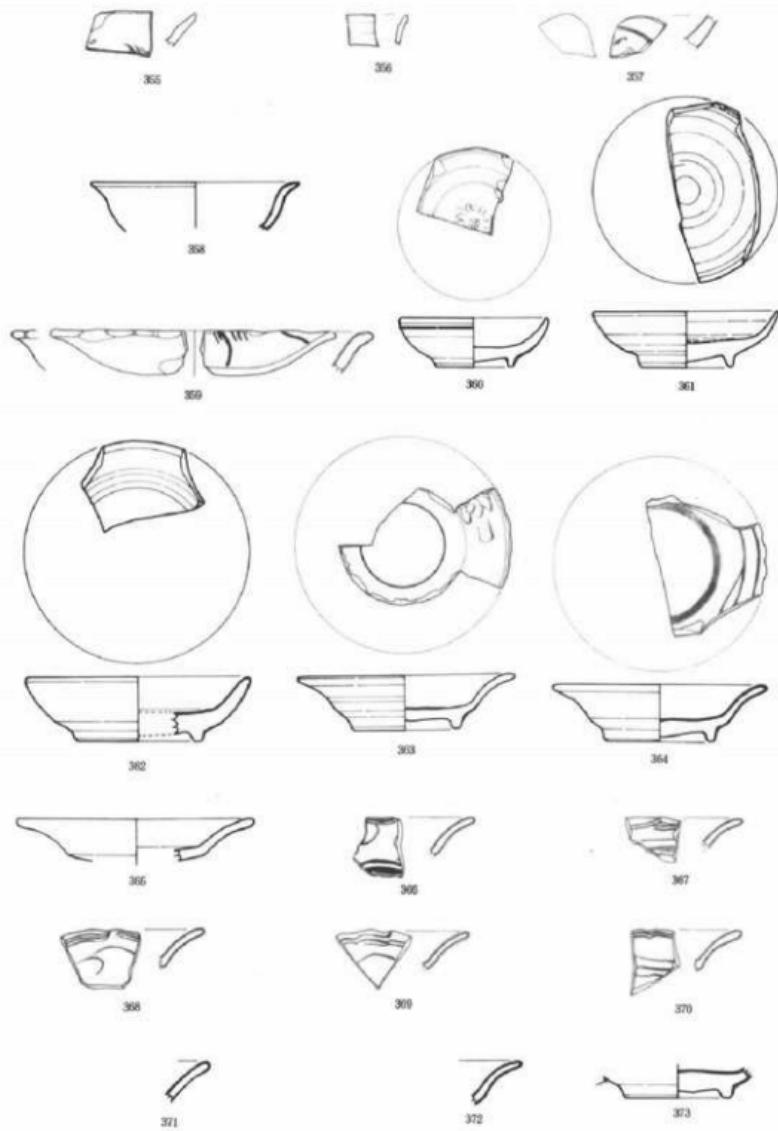


Fig 66 松原第I遺跡出土遺物—青磁4 (1/3)



374



375



376



377



378



379



380



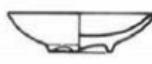
381



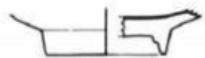
382



383



384



385



386



387



388



389



390



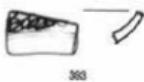
391



Fig. 67 松原第 I 遺跡出土遺物一白磁 1 (1/3)



392



393



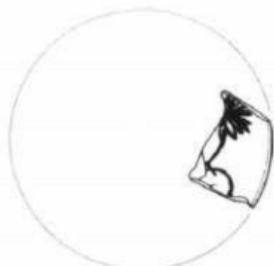
395



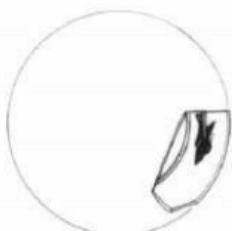
394



396



397



398



399



400



401



402



Fig. 68 松原第 I 遺跡出土遺物—青花・染付 (1/3)

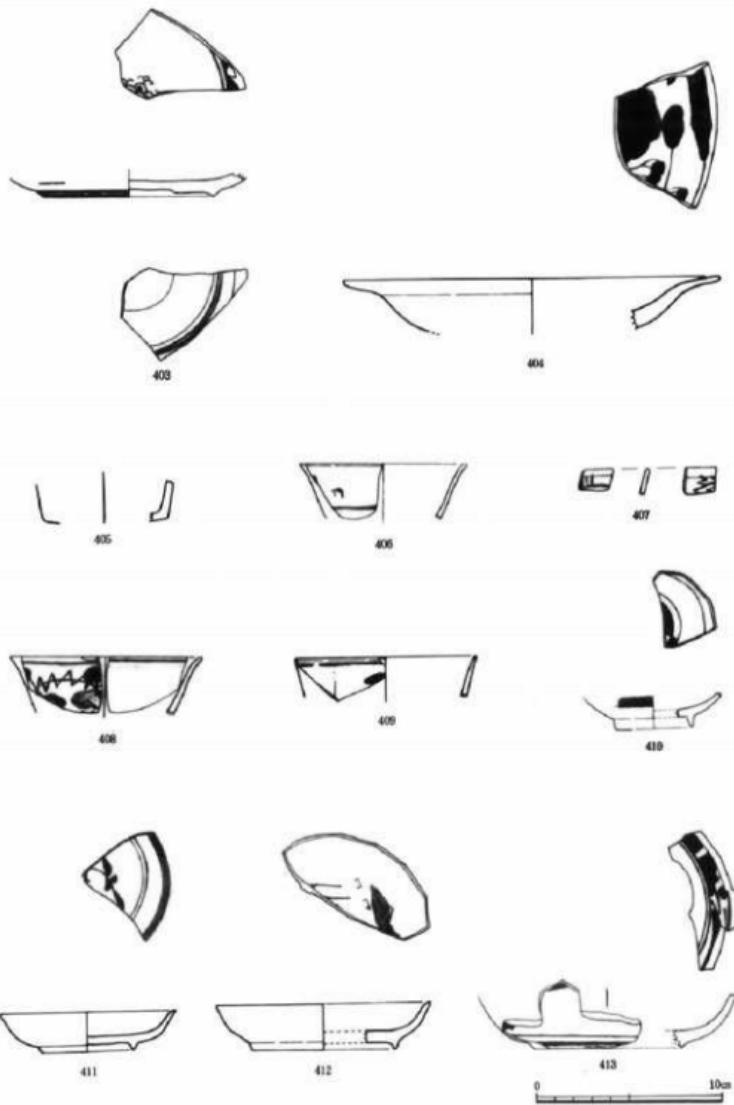
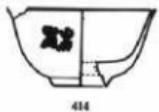


Fig. 69 松原第I遺跡出土遺物一染付 (1/3)



414



415



416



417



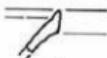
418



419



420



421



Fig. 70 松原第1遺跡出土遺物一瀬戸・常滑・東播系 (1/3)

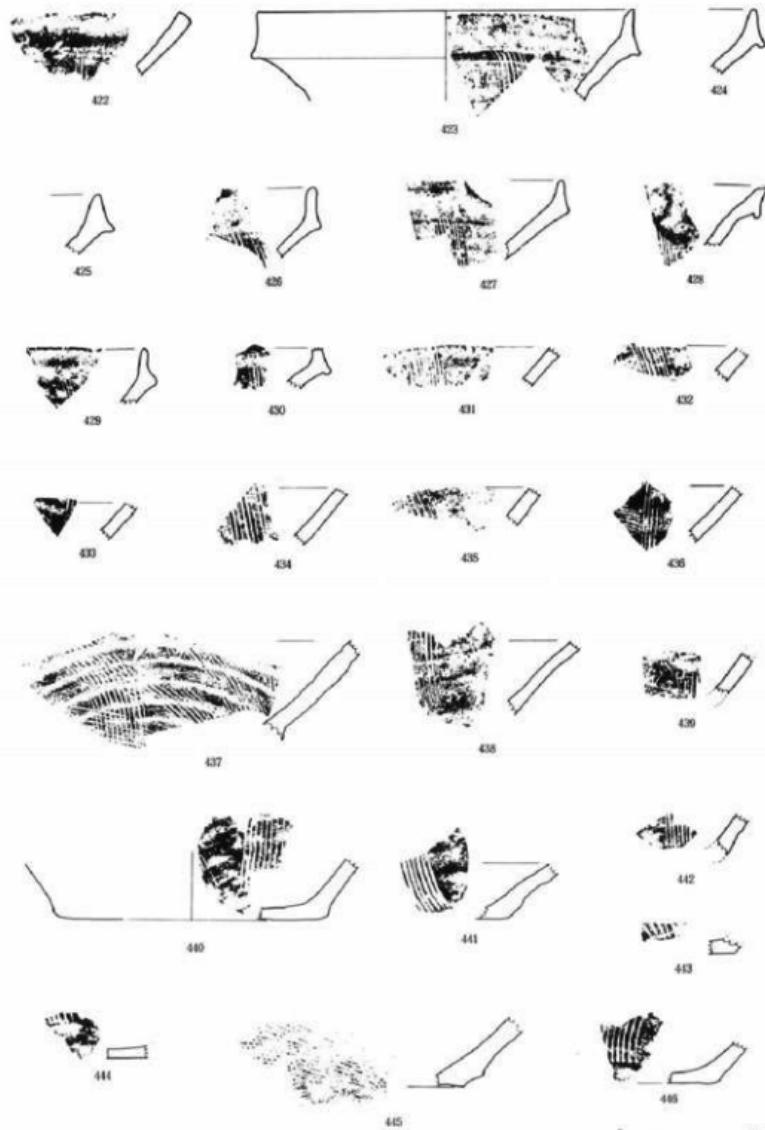
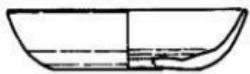


Fig. 71 松原第I遺跡出土遺物一備前 (1/4)



447



448



449



450



451



452



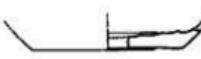
453



454



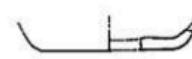
455



456



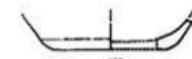
457



458



459



460

10cm

Fig. 72 松原第I遺跡出土遺物一土師器1 (1/3)

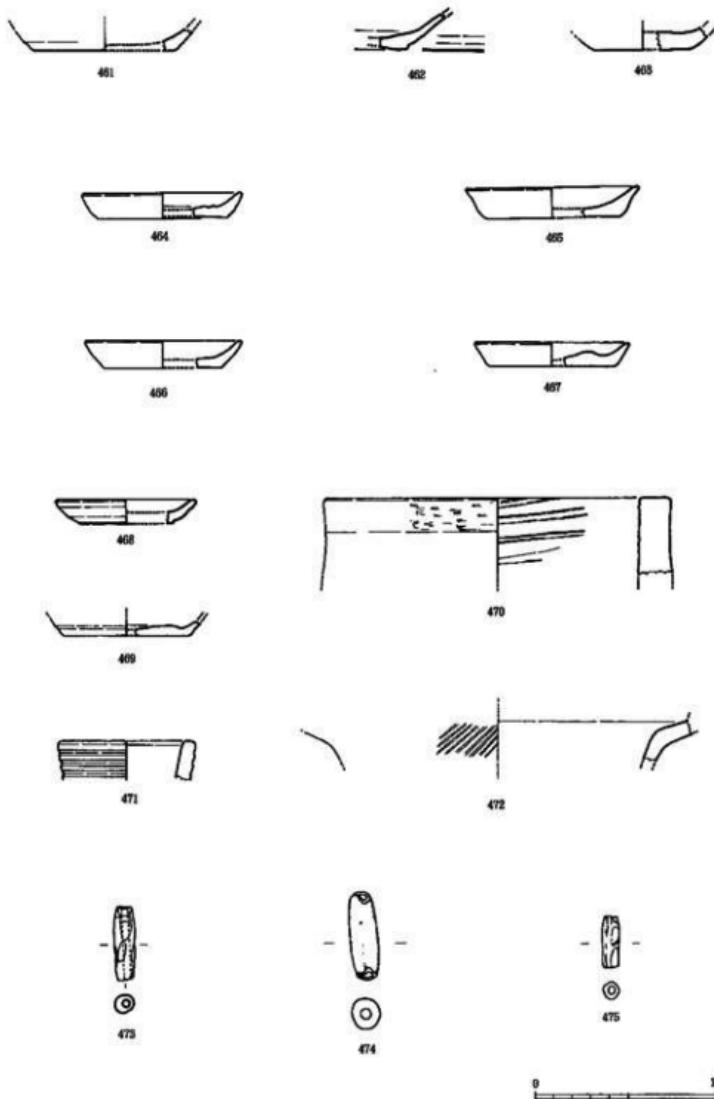


Fig 73 松原第I遺跡出土遺物一土師器2 (1/3)

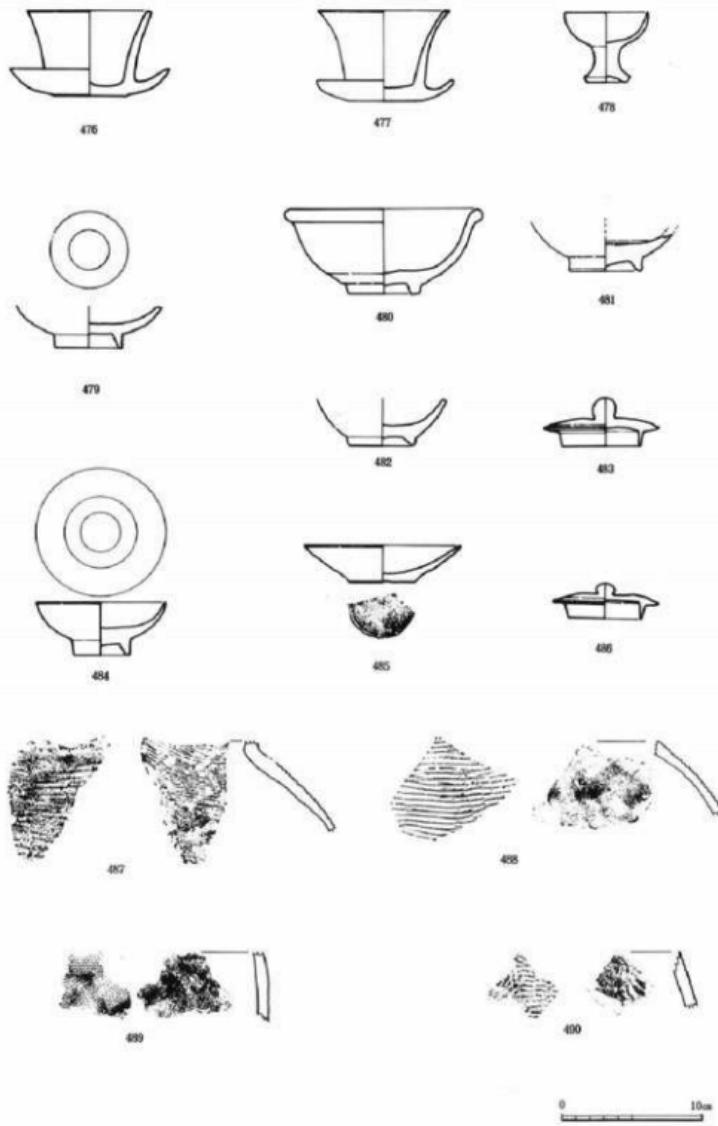


Fig. 74 松原第I遺跡出土遺物一在地系土器1 (1/4)

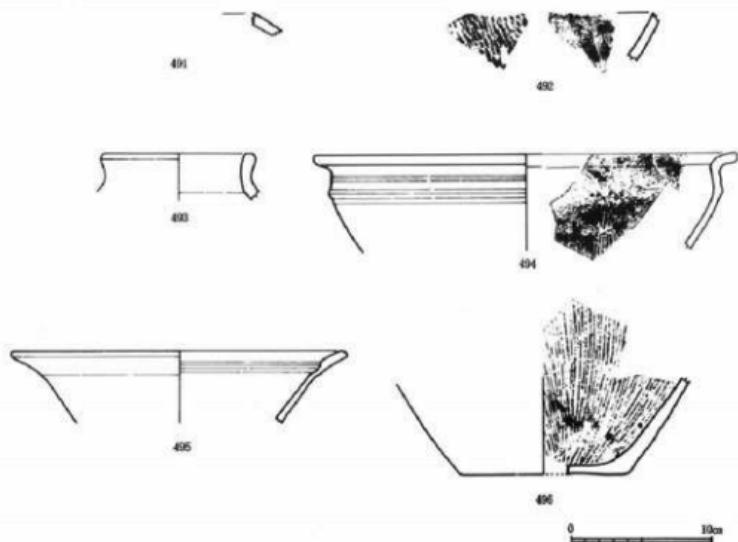


Fig. 75 松原第 I 遺跡出土遺物—在地系土器 2 (1 / 4)

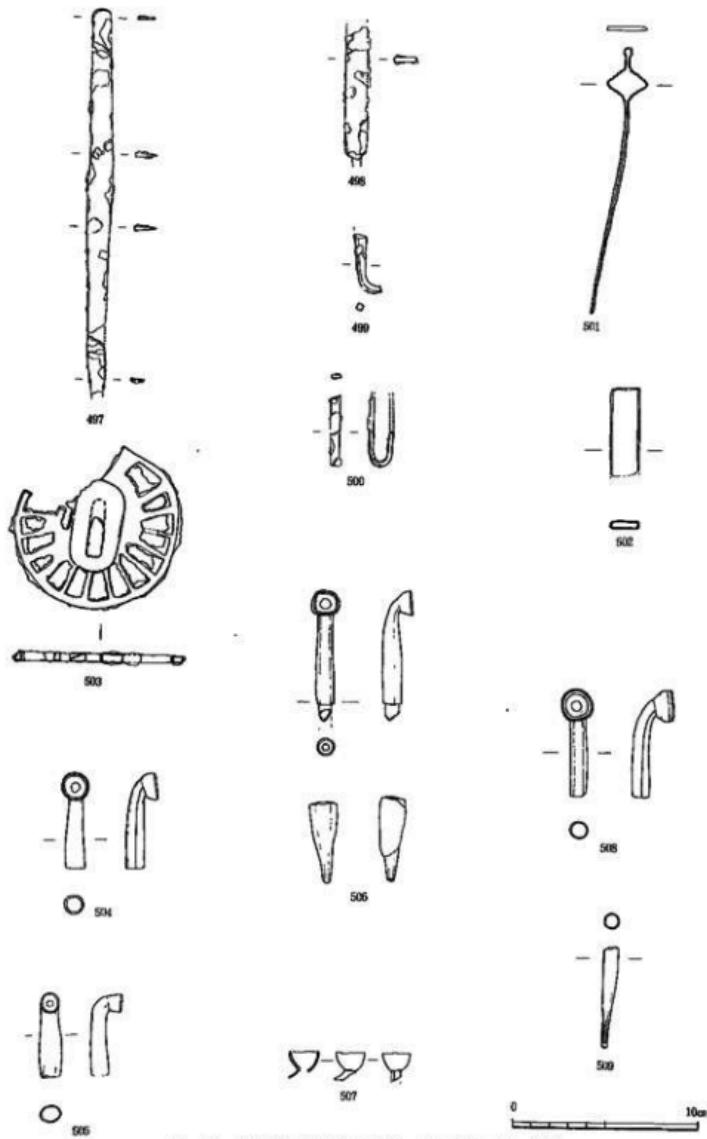
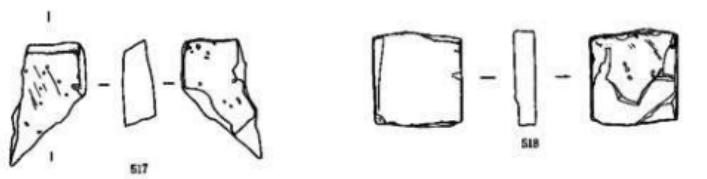
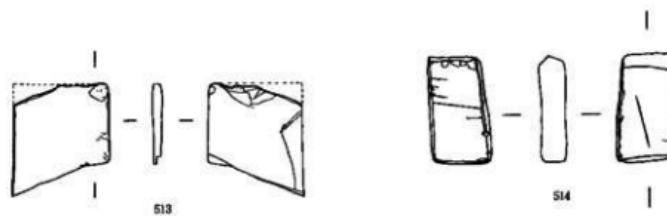
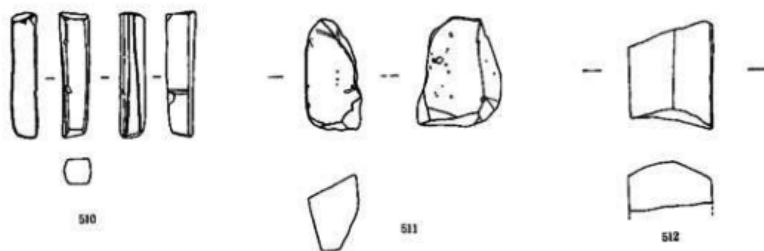


Fig. 76 松原第 I 遺跡出土遺物—金属製品 (1 / 3)



0 10cm

Fig. 77 松原第 I 遺跡出土遺物—石製品 1 (1 / 3)

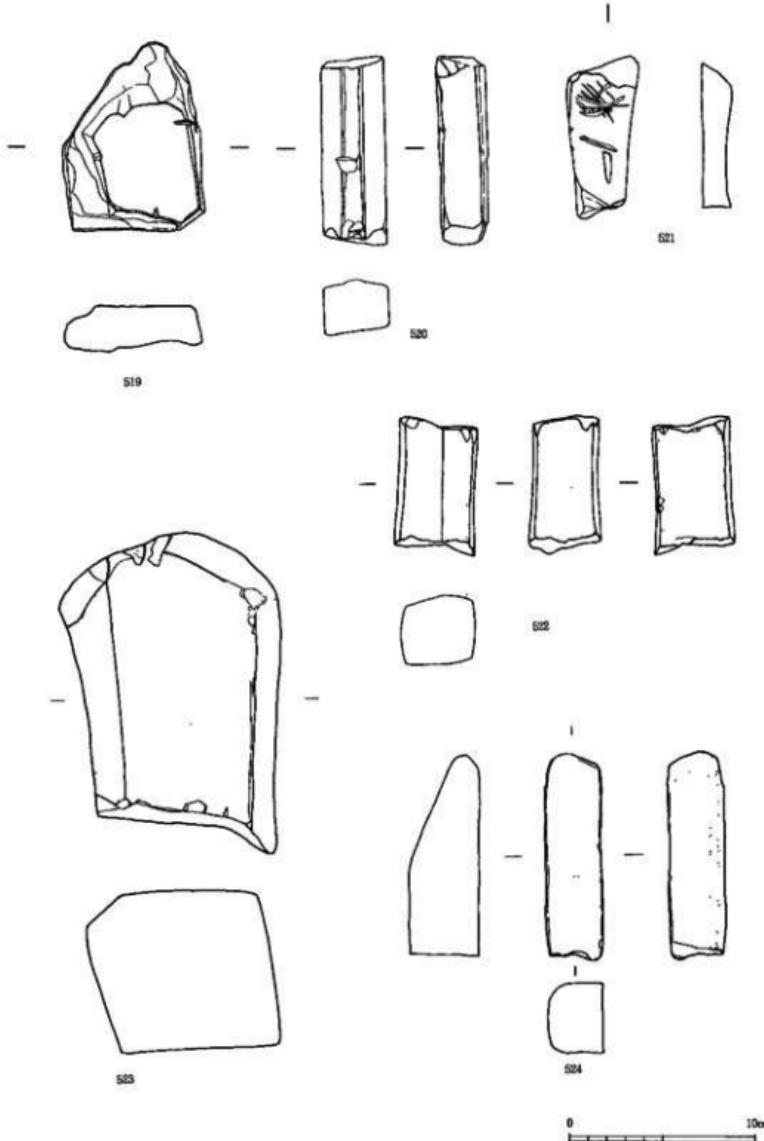
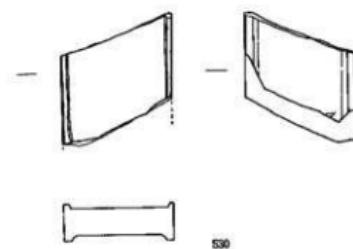
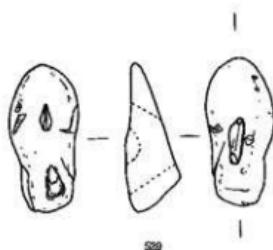
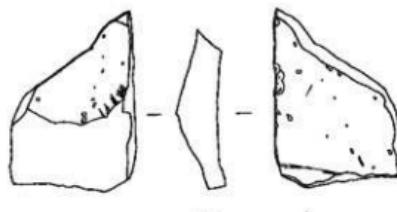
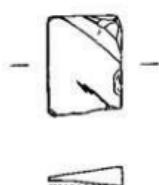
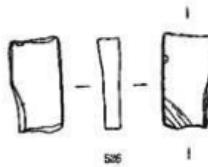
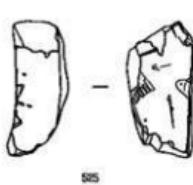
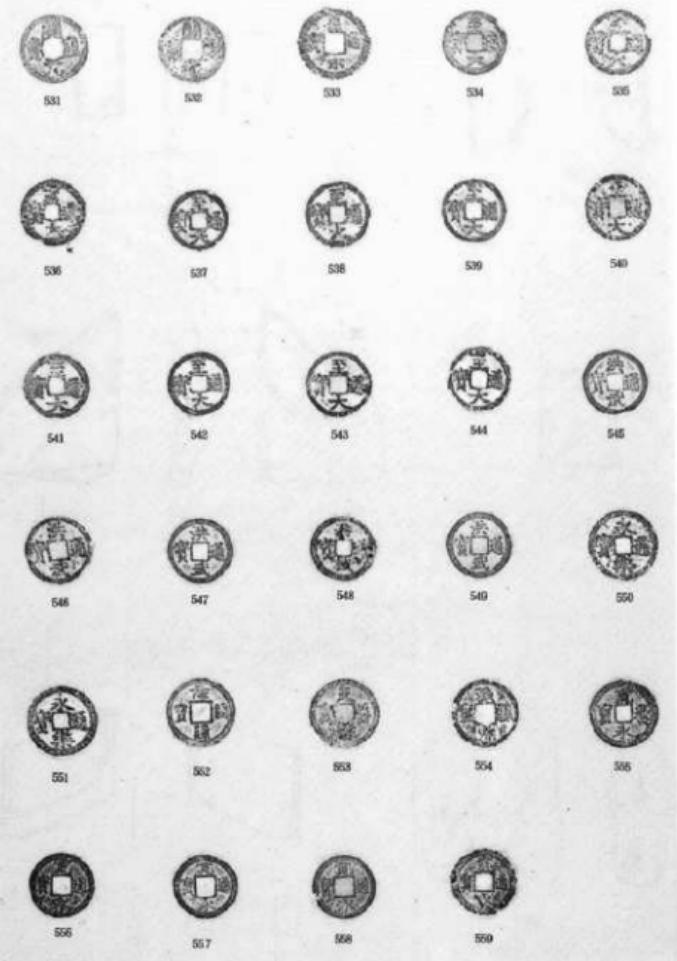


Fig. 78 松原第I遺跡出土遺物一石製品2 (1/3)



0 10cm

Fig. 79 松原第Ⅰ遺跡出土遺物—石製品3 (1/3)



0 5 cm

Fig 80 松原第I遺跡出土古錢

(8) 出土遺物觀察表

( ) は推定

測量 番号	測量 部別	測量 部別	底面積 (m)			特 徴	備 考	底面積 (m)			特 徴	備 考		
			上底 面積	面積	高さ			底面積	高さ	底面積				
										口幅	側幅			
008	青 磁	瓶	24.5	-	-	◎ 滑文、青磁色 質入有		09	伊万里 青 磁	12.4	/	2.4	◎ 滑文	
009	x	x	9.4	-	-	◎ 滑文、青磁色		100	常 磁	-	-	-	◎ ナデ ◎ 青磁色	
010	x	x	8.6	-	-	◎ 滑文、青磁色 端丸口縁、質入有		101	x	-	-	-	◎ ナデ ◎ タキ、青磁色	
011	x	x	-	-	-	◎ 滑文、青磁色 質入有		102	x	24.8	-	-	◎ ナデ、青磁色 端丸	
012	x	x	-	-	-	◎ 滑文、青磁色		103	x	-	-	-	滑文	
013	x	x	-	-	-	◎ 透青文 (ヘラ)	二次の輪底	104	-	-	-	-	◎ ナデ、青磁色	
014	x	x	-	-	-	◎ 透青文 (ヘラ) 青磁色、質入有		105	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色	
015	x	x	17.2	-	-	端丸口縁		106	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色	
016	x	x	17.4	-	-	端丸口縁、青磁色 質入有		107	x	-	20.4?	-	◎ ナデ ◎ ケズリ、青磁色	
017	x	x	11.6	-	-	◎ 亂刷青文、青磁色	窓状窓	108	(?) 青 磁	20.0	-	-	◎ ナデ、青磁色 ◎ ナデ、瓦色	
018	x	(010)	22.8	8.4	4.4	◎ 球山に折枝花文 口縁丸	二次の輪底	109	x	-	-	-		
019	x	瓶	-	8.8	-	青磁色 質入有	高台輪底	110	x	28.6	15.2	11.7	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
020	x	x	-	5.6	-	◎ 見込み青磁文	高台輪底	111	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
021	x	瓶	-	6.4	-	白磁色	高台輪底	112	x	28.8	13.2	11.6	◎ ナデ、白磁色 青磁色	
022	x	瓶	-	7.8	-	◎ 扇形に花文 ◎ 亂刷青文、青磁色	窓状窓	113	x	-	-	-	◎ ナデ、白磁色 青磁色	
023	x	x	-	5.0	-	◎ 扇形に折枝花文 ◎ 亂刷青文、青磁色	高台輪底	114	x	27.6	-	-	◎ ナデ、白磁色 青磁色	
024	白 磁	x	-	-	-	玉頭口縁		115	x	-	-	-	◎ ナデ、白磁色 青磁色	
025	x	x	-	-	-	◎ 滑文、白色		116	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 ◎ ナデ、青磁色、青磁色	
026	x	x	-	-	-	玉頭口縁、青磁色 質入有		117	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
027	x	x	-	-	-	玉頭口縁、青磁色 質入有		118	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
028	x	x	-	-	-	玉頭口縁、青磁色		119	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
029	x	x	-	7.0	-	白磁色 青磁色		120	定期	31.8	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
030	x	x	-	6.4	-	白磁色 青磁色		121	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
031	x	x	-	3.8	-	◎ 塗込に切妻ハサ 青白地、青磁色		122	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
032	伊万里 天 目	x	-	-	-	◎ 滑青		123	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
033	象 村	x	-	-	-			124	x	-	-	-	◎ ナデ、青磁色 青磁色	
034	伊万里 金 付	瓶	-	5.6	-	◎ 山水文		125	在施	6.6	-	-		
035	伊万里 金 付	(010)	-	10.6	-	◎ ガラス文	有脚軸	126	x	-	-	-		

（ ）は推定

標目 番号	種別	品種	生 量 (kg)			特 性	備 考	周回 番号	結実	面積	生 量 (kg)			特 性	備 考
			口透	底透	裏高						口透	底透	裏高		
			—	—	—						—	—	—		
056	各地系	豊の 穂穂	—	—	—	◎ナデ ◎平行タキのちかキ日		063	東葉系	粗 糙	—	—	—	◎◎ナデ、褐色色 砂粒食	
057	石園品	石穂	—	—	—	白穂ケズリ スズメ掛	高田原	064	各地系	粗 (?)	—	82	—	◎◎ナデ 砂粒食	
058	+	+	—	—	—	白穂ケズリ スズメ掛	高田原	065	+	粗	34.0	—	—		
059	上田郡	耳	03.0	—	—	白穂ナデ 砂粒し不規		066	土師郡	坏	12.9	7.9-8	33	◎◎ナデ 砂粒のち粗粒丘陵	
060	+	+	04.0	08.0	2.5	白穂ナデ 系初り底		067	+	+	13.2	8.1	34	◎◎ナデ 三輪へシ切り底(底まわり)	
061	+	+	02.0	8.0	3.6			068	+	+	12.5	8.5	35	◎◎ナデ ヘラ切り底	
062	+	土穂	04.0	01.0	2.9	白穂丁寧なナデ 系初り底		069	+	+	02.0	—	—		
063	+	耳	—	03.0	—	系初り底		070	+	+	—	(8.0)	—	粗粒り底	
064	+	+	—	3.4	—	◎◎ナデ 系初り底		071	+	小	—	(7.0)	—	◎◎ナデ ヘラ切り底	
065	+	+	—	(7.0)	—	ヘラ切り底 (?)		072	+	+	7.0	6.8	15	◎◎ナデ 系初り底	
066	+	+	—	(7.0)	—	系初り底		073	青 種	粗	15.4	—	—	暗黒り口縁、褐黒色 寅人有	
067	+	+	—	(7.0)	—	系初りのち粗粒丘陵		074	+	粗	14.4	—	—	暗黒り口縁、褐黒色	
068	+	+	—	(7.0)	—	系初り底		075	+	粗	—	—	—	卷しのぎ葉文 青白色	
069	+	+	—	(7.0)	—	系初り底		076	+	筒(3)	—	5.0	—	淡褐色 寅人有	高台地帶
070	+	小耳	—	(7.0)	—	系初り底		077	白 種	粗	—	—	—	暗黒り口縁、乳白色	
071	+	+	—	(8.0)	(7.0)	12	切り離し不規	078	+	粗	—	—	—	暗黒り口縁、乳白色	
072	+	+	—	6.2	—	系初り底		079	+	青(3)	—	5.6	—	乳白色	高台地帶
073	+	+	—	(6.0)	—	石引の底 ◎底に白網斑有		080	蘿 戸 安村南	—	3.4	—	—	—	BC
074	+	+	—	(6.0)	—	系初り底		081	常 須 底	—	(6.4)	—	—	◎◎ナデ、褐黒色 砂粒食	
075	+	+	—	(6.0)	—	系初り底		082	+	+	—	(3.0)	—	◎◎ナデ、褐黒色 砂粒食	
076	+	+	—	(7.0)	—	系初り底		083	青 種	粗	—	—	—		
077	+	+	—	(8.0)	(7.0)	15	白穂ナデ 系初り底	084	+	+	—	—	—	◎◎ナデ、褐黒色 砂粒食	
078	青 里 種	3.8	—	—	—	◎口縁葉文・網状斑有(ヘラ) 青褐色		085	+	+	—	—	—	◎ナデ、暗黒葉文 寅人有	
079	+	+	—	—	—	◎葉文文、褐黒色 寅人有		086	各地系	粗	4.4	—	2.8	—	
080	白 里 種	—	—	—	—	玉筋口縁、浅乳白色		087	土師郡	坏	—	(7.0)	—	—	
081	+	目	—	—	—	暗黒り口縁、浅乳白色 寅人有		088	+	+	—	(7.0)	—	—	
082	紫穂系	2.8	—	—	—	◎◎ナデ、灰褐色 砂粒食		089	+	+	—	(3.0)	—	系初り底	

（ ）は推定

番号 番号	種別 種別	品種 品種	成 熟 (m)			行 数	収量 kg	特徴 特徴番号	熟期 熟期	成 熟 (m)			作 付 面	考 察	
			口徑 口径	直徑 直徑	高さ 高さ					口徑 口径	直徑 直徑	高さ 高さ			
			口徑 口径	直徑 直徑	高さ 高さ					口徑 口径	直徑 直徑	高さ 高さ			
110	土留苗	环	—	(2.0)	—	系切り底		137	土留苗	环	—	(2.0)	—	系切り底	
111	+	+	—	(7.0)	—	系切り底		138	+	+	—	7.4	—	◎ナデ 系切り底	
112	+	小 环	—	(6.0)	—	ヘラ切り底(?)		139	+	小環	8.0	6.3	1.3	◎ナデ 系切り底	
113	竹 箱	箱	12.6	—	—	竹母相隨文、青白色		140	+	+	—	6.0	—	ヘラ切り底	
114	新 序	+	9.2	—	—			141	新序系	基脚	33.0	—	—		古口有
115	土留苗	环	—	7.3	—	◎ナデ、内側不正方形のナ デ、ヘラ切り底		142	青 箱	箱	—	—	—	◎相隨文、切脚	
116	青 箱	小 箱	19.2	5.0	2.35	口留底化、青緑色 ◎足元に花紋、直入有	高台地盤	143	+	小環	—	—	—	◎相隨文、切脚	
117	+	著	—	5.2	—	口留底化、青緑色 ◎足元に文字	高台地盤	144	白 箱	箱	—	—	—	玉ねぎ形、白色	
118	桑 叶	小 环	5.3	2.7	2.3	◎土留村	145	+	+	—	—	—	—	玉ねぎ形、白色	
119	+	著	—	—	—		146	伊豆里 桑 叶	人頭	21.6	11.0	2.6	◎芙蓉手		
120	桑 叶	+	—	—	—	1周葉中～ 1周葉半	147	+	目	—	—	—		1bc 前半	
121	桑 茎	茎 枝	—	—	—	◎ナデ、青緑色 砂粒有	148	伊豆里 桑 叶	虫	8.9	—	—	◎口留底方導文等	西有田山 山風景	
122	+	+	—	—	—	◎ナデ青緑色 砂粒有	149	伊豆里 桑 叶	虫	15.4	4.2	3.5	◎刻字による二重網目文 足元に花紋有	赤坂庭園	
123	吉原系 土留苗	土留苗	—	—	—		150	+	+	14.0	7.8	3.2	◎先心に刻物・ギ 幾筋に五葉花コニニガワ	—	
124	毛留系 桑 苗	桑 (?) 桑苗	—	—	—	系切り底		151	+	虫	11.6	—	—	◎毒蛇文	1bc 来
125	+	裏	24.0	—	—			152	+	+	—	4.2	—	◎丸文 透竹「大柄手鏡」	和田東系
126	青 箱	箱	—	—	—	◎相隨文、青緑色		153	+	小環	5.0	3.6	4.5	◎矢羽根文	1bc 来
127	+	+	—	—	—	◎相隨文、青緑色		154	店 事	虫	15.6	4.4	4.4	◎相隨文、丸心刻印ハンド ◎山吹	内野山
128	+	+	—	—	—	◎相隨文、青緑色 直入有		155	青 箱	基脚	—	—	—	◎ナデ、茶色 砂粒有	
129	+	+	—	6.2	—	◎先心に青緑文 低頭地盤 土壤化		156	+	+	—	—	—	◎ナデ、青緑色 砂粒有	
130	+	小 箱	—	5.2	—	口留底化、青緑色 ◎先心に青緑文、直入有	高台地盤	157	+	+	—	—	—	◎ナデ、青緑色 砂粒有	
131	白 箱	箱	—	—	—	繩底切り縫、乳白色		158	+	+	—	—	—	◎ナデ、青緑色 砂粒有	
132	桑 叶	小 环	4.9	1.4	2.7		159	新序系	虫	13.2	4.8	6.4			
133	桑 茎	茎 枝	—	—	—	◎ナデ、昭和初期 ◎乳白色、砂粒有		160	+	+	8.7	—	—	◎馬籠文/日輪ハンド 砂トノ格	
134	+	+	—	30.5	(8.0)	15.0	◎ナデ、青緑色 砂粒有	161	+	+	12.4	5.0	5.5		
135	吉原系	虫	上 29.4	下 16.2	2.2			162	+	+	12.0	4.8	4.8	◎馬籠文/日輪ハンド 砂トノ格	
136	土留苗	环	—	6.0	—	系切り底		163	+	+	—	5.7	—		

( ) は推定

番号	種別	形態	生長 (m)			特徴	備考	番号	種別	形態	生長 (m)			特徴	備考	
			口高	底高	底深						口高	底高	底深			
			(cm)	(cm)	(cm)						(cm)	(cm)	(cm)			
154	在地系	(原木) 乳突状	8.6	4.2	5.5			191	土壌	原	15.2	(15.5)	9.0	西巻ナデ 乳突状のちナデ		
155	*	葉	10.0	5.0	2.5	葉切り直		192	*	*	10.0	-	-	西巻ナデ		
156	*	*	10.2	4.3	2.1	葉切り直		193	*	*	--	-	-			
157	瓦工 土 壤	土壌野 (?)	10.6	-	-	灰白色		194	*	小	田	(17.0)	1.5	西巻ナデ 古巣不完全ナデ、乳突状		
158	在地系	葉 実	11.0	-	-			195	*	原	-	8.1	-	西巻ナデ 右側葉へ乳突状		
159	*	葉 実	5.0	-	-			196	*	小	田	-	(5.0)	-	乳突状	
170	*	*	7.2	-	-			197	在地系	各 家	5.8	-	-			
171	伊万里 安 村	小 不	5.6	3.8	3.9			198	*	葉	部	-	-	西ナデ 春平行タキ		
172	土壌系	土 線	16.7	13.0	2.7	地水 茎オサエのちナデ 春ナデ		199	青 線	原	-	-	-	暗灰り口緑、白葉色 葉入有		
173	在地系	青 線	-	-	-	◎ヨコ方向のナデ 春平行タキ		200	*	*	14.0	-	-	暗灰り口緑、淡葉色 葉入有		
174	*	葉	15.5	-	-			201	*	*	13.0	-	-	口緑本文(←↑)、浅葉色		
175	*	葉 枝	19.0	-	-			202	*	*	13.0	-	-	浅葉色 葉入有		
176	*	葉 (?)	21.2	-	-			203	*	小	葉	10.5	-			
177	*	葉	20.0	13.8	9.6			204	*	*	9.0	-	-			
178	*	葉 枝	-	9.4	-			205	青 線	日	-	-	-	◎複葉文、淡葉色		
179	青 線	葉	-	-	-	◎複葉文、淡葉色		206	*	*	-	-	-	◎複葉文、淡葉色 葉入有	二次的微試	
180	白 線	*	-	-	-	玉緑口緑、白色 葉入有	無底不規	207	*	葉	17.0	-	-	暗灰り口緑、明葉色 葉入有	無底不規	
181	唐 梅	*	13.2	-	-			208	*	*	14.0	-	-	暗灰り口緑、淡葉色 葉入有		
182	(原木) 在地系	葉 実	-	-	-			209	*	*	10.0	-	-			
183	青 花	葉	-	5.2	-	青白色	紅葉、褐色 葉入有	210	*	*	13.4	-	-			
184	在地系	葉	-	4.2	-			211	*	*	12.0	-	-			
185	*	變また はな	-	17.2	-			212	*	*	12.0	4.8	8.2			
186	青 花	葉	-	-	-	◎◎複葉文、淡葉色 葉入有		213	*	日	-	-	-			
187	土壌系	小 田	(5.0)	(6.0)	1.3	◎◎ナデ 乳突状		214	*	葉	-	-	-			
188	*	*	(5.0)	(5.0)	1.5	◎◎丁寧なナデ 乳突状		215	*	小 田	-	-	-			
189	*	*	(8.0)	(6.0)	1.2	◎◎ナデ 乳突状のち乳突状		216	*	葉	-	-	-			
190	*	*	(7.0)	(5.0)	1.7	◎◎ナデ 乳突状の處し不明		217	*	*	14.3	-	-			

( ) は推定

標号	種別	基準	法 尺 (m)			特 復	被考	法 尺 (m)			特 復	被考	
			口徑	底径	高さ			口徑	底径	高さ			
210	青 瓶	瓶	12.0	—	—	④ 口部黒文 (ヘラ) 腹部地、真人有		245	石垣島	石 岡	—	13.6	—
211	—	—	—	—	—	④ 頭部黒文 腹部地		246	上原郡	环	—	—	—
220	—	—	—	—	—	④ 背部黒文 腹部地		247	—	小 嶋	8.9	6.4	1.5
221	—	—	—	5.6	—	④ 背部黒文 腹部地、真人有	高台樹洞	248	竹 嶋	鹿	16.2	—	—
222	白 瓶	—	—	—	—	白褐色		249	伊万里 佐賀	村	周辺礁	7.8	—
223	—	瓶	—	—	—	腹底引口環 白色		250	常 沖	鹿	周辺	15.0	—
224	—	小 环	7.8	—	—	八角形口環 腹部黒文、白色		251	東郷郡	鹿 路	—	—	—
225	—	瓶	12.1	6.4	2.7	腹底引口環 白色	留出部	252	土屋郡	环	14.0	—	—
226	—	小 环	—	4.6	—	腹底引口環 白色		253	—	—	0.2.0	—	—
227	—	(?) 瓶	—	4.0	—	白色		254	—	—	—	(8.2)	—
228	伊万里 佐賀	瓶	—	5.2	—	④ 丸足引口環黒文		255	—	—	—	(6.8)	—
229	青 瓶	瓶	10.4	—	—	口部黒文 ④ 山水文		256	—	—	—	(7.4)	—
230	伊万里 青 瓶	瓶	—	4.4	—	④ 丸足引口環 (子器) ④ 高台中心黒文		257	—	—	—	(8.2)	—
231	染 片	瓶	—	—	—			19C	258	—	小 嶋	—	(6.2)
232	—	—	10.8	—	—			259	—	—	—	(6.0)	—
233	伊万里 青 瓶	瓶	—	—	—			260	—	—	(8.8)	(7.0)	1.9
234	伊万里 佐賀	小 环	—	3.6	—			261	—	—	(8.8)	(5.8)	1.7
235	青 才	瓶	11.4	5.1	—	④ 口部黒 ④ 腹部地	内側樹洞	262	—	—	9.1	6.3	1.3
236	青 瓶	瓶	—	—	—	④ ナゲ 腹部黒文、白色		263	青 瓶	鹿	—	—	—
237	—	—	—	—	—	④ ナゲ 腹部黒文、白色		264	—	—	—	4.8	—
238	—	—	—	—	—	④ ナゲ ④ 黑地、白色		265	白 瓶	—	—	—	—
239	—	—	—	—	—	④ ナゲ ④ 黑地、白色		266	土屋郡	小 嶋	(11.0)	(7.0)	2.4
240	—	—	—	—	—	④ ナゲ、浅赤褐色 ④ ナゲ、深赤褐色、白色		267	—	环	—	(9.0)	—
241	土屋郡	小 嶋	—	5.6	—	高脚引底		268	—	小 嶋	(9.0)	(7.0)	1.5
242	在地系	青 瓶	—	—	—			269	木 片		—	—	—
243	—	瓶	5.0	—	—			270	青 瓶	小 嶋	—	—	—
244	—	瓶	10.0	4.6	2.9	高脚引底		271	青 瓶	—	—	5.0	—
								272	青 瓶	小 嶋	—	—	—

() は推定

標識 番号	種類	形態	成 熟 (a)			性 別	標 考	成 熟 (a)			性 別	標 考	
			口頭	直徑	高さ			口頭	直徑	高さ			
272	青 花	薺	—	—	—			299	青 花	薺	—	4.0	—
273	青 薺	*	10.8	—	—	◎ 植物部分 虫食い、直入有	直切込	300	土師器	小 茶	7.5	6.2	1.7
274	*	圓盤 (G)	11.6	—	—	◎ 植物部分 虫食い有、虫食色 ◎ 亂文 (ヘク)、直入有		301	*	耳	13.6	9.0	4.5
275	*	瓶	—	—	—	◎ 植物部分 虫食い、直入有	直切込	302	青 薺	薺	—	4.4	—
276	*	小 茶	—	—	—	◎ 植物部分 虫食い、直入有		303	土師器	耳	13.6	5.8	3.1
277	*	瓶	—	—	—	綠色 直入有		304	*	*	—	7.1	—
278	伊万里 染付	蓋	19.6	—	—	◎ 西洋文	西南面 五瓣山河系	305	*	*	—	8.0	—
279	えびす	*	—	—	—			306	*	小 茶	8.2	7.0	1.6
280	白 薺	薺	—	5.8	—	灰白色	高台(?) 直切	307	*	*	7.6	6.0	1.5
281	*	*	—	7.4	—	灰白色	高台(?) 直切	308	(?) 直 直	直 切	—	—	—
282	石瓢口	石 瓢	—	—	—	◎ 用に穿孔 スズ付	赤石瓢	309	(?)	*	—	11.8	—
283	土師器	耳	15.2	5.8	3.8	肉棒 ナデ 直切込		310	土師器	小 茶	8.0	6.4	1.8
284	*	*	(14.7)	9.1	2.9 ~ 2.0	◎ ハナ ナデ 直切込		311	*	*	8.0	7.6	1.3
285	*	*	(12.6)	8.2	2.8	直切込		312	*	耳	—	8.8	—
286	*	*	—	0.90	—	直切込		313	青 薺	薺	—	—	—
287	*	*	—	0.90	—	直切込		314	*	*	—	—	—
288	*	*	—	(1.6)	—	◎ ハナ ナデ 直切込		315	*	*	—	—	—
289	*	*	—	(1.6)	—	直切込		316	*	*	—	—	—
290	*	小 茶 (G)	5.8	1.45	—	青棒 ナデ 直切込のち板抜直		317	*	*	—	—	—
291	*	*	—	(1.6)	—	—	—	318	*	*	14.2	—	—
292	*	*	—	8.8	5.5	1.13	◎ ハナ ナデ 直切込のち板抜直	319	*	*	—	—	—
293	*	*	—	8.7	—	直切込のち板抜直		320	*	*	—	—	—
294	常 甫	要	—	—	—			321	*	小 茶	8.4	—	—
295	古 沃	ちら し皿	—	8.0	—	◎ ナデ、虫食斑點 直切込	直切込	322	*	直 (直)	13.0	—	—
296	*	*	—	14.0	—			323	*	*	—	—	—
297	植 木	盆	30.0	—	—			324	*	*	12.0	—	—
298	常 甫	要	—	—	—	◎ ナデ、虫食斑點 ◎ ナデ、虫食色、砂粒有		325	*	*	9.5	—	—

## （ ）は推定

番号	種類	器種	点量 (m)			特徴	参考	測定番号	相	面積	高さ	点量 (m)			特徴	参考	
			口径	底径	高さ							口径	底径	高さ			
325	舟	縁(?)	14.2	—	—	縁取り口縁 内側凹、直人有		353	青 磁	縁	—	5.9	—	④ 青磁灰、直人有 ⑤ 色褪し化文	直人灰系 内側凹輪郭		
327	+	+(?)	15.2	—	—	縁取り口縁 直人有		354	+	+	—	4.2	—	特古繪色	高台灰系 底土不規		
328	+	+(?)	14.0	—	—	縁取り口縁 直人有		355	+	+	—	—	—	舟	青磁灰 直人有		
329	+	+	14.0	—	—	直人有		356	+	+	—	—	—	舟	青磁灰 直人有		
330	+	+	11.8	—	—	直人有		357	+	+	—	—	—	舟	青磁灰 直人有		
331	+	+	—	—	—	直人有		358	+	(底) 底	—	11.0	—	縁取り口縁、直人有 ④ 高台へ→直人有	直人灰系		
332	+	+	10.2	—	—	④ 口縁直火(へ) 内側凹、直人有		359	+	底(?)	—	10.2	—	—	口縁直火 直人有		
333	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	360	+	小 里	7.8	4.2	2.7	舟	灰系に青火文 直人有	高台灰系	
334	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	361	+	+	—	10.0	4.8	3.0	舟	足に青火文 直人有	高台灰系
335	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	362	+	+	—	11.8	6.6	3.5	直人有		
336	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	363	+	+	—	11.4	5.6	3.0	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
337	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	364	+	+	—	11.2	5.8	3.1	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
338	+	+	11.0	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	365	+	+	—	12.6	—	—	口縁直火 直人有	直人灰系	
339	+	+	13.6	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	366	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
340	+	+	13.8	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	367	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
341	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	368	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
342	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	369	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
343	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	370	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
344	+	+	—	—	—	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	371	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系 八寸	
345	+	+	14.6	5.4	7.7	直人有	高台内 輪郭	372	+	+	—	—	—	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	二重輪郭 内輪郭	
346	+	+	13.6	5.2	7.5	④ 青磁灰 直人有	盤足灰系	373	+	+	—	—	5.6	—	口縁直火、直人有 ④ 青火文、直人有	高台灰系	
347	+	+	—	5.4	—	直人有	青灰色 高台内輪郭	374	白 磁	直	—	—	—	④ 青火文、灰白色 高台内輪郭			
348	+	+	—	—	—	④ 口縁直火 直人有		375	+	+	—	—	—	—	縁取り口縁 ④ 青火文、灰白色		
349	+	+	—	—	—	縁取り口縁 直人有		376	+	+	—	—	—	—	縁取り口縁 ④ 青火文、灰白色		
350	+	+	13.6	—	—	④ 青磁灰 直人有		377	+	+	—	—	—	—	工輪口縁 灰白色		
351	+	+	—	5.4	—	直人有	高台内輪郭	378	+	+	—	—	—	—	工輪口縁 灰白色		
352	+	+	—	5.0	—	直人有	高台内輪郭	379	+	+	—	—	—	—	五輪口縁 灰白色		

() は推定

標題 番号	種別	基準	成 熟 (a)			性 別	年 齢	被 害	死 熟 (a)			性 別	年 齢	考 察		
			口頭	直正	高齢				口頭	直正	高齢					
260	白 鳥	三	-	-	-	鷹形		407	雄	竹		-	-	-	ISG (雄)	
301	*	*	-	-	-	嘴突り口膜 白色		408	-		10.0	-	-	-	ISG (雄)	
302	*	雌	-	-	-	嘴突り口膜 灰褐色		409	-		9.6	-	-	-	ISG (雄)	
303	* 小 鳥	10.2	3.6	2.6	白色	高齢(?) 初期	410	-		-	4.2	-	-	-	ISG (雄)	
304	*	*	7.8	3.4	2.1	嘴突り、白色 ◎ 口辺に黒跡	高齢(?) 初期	411	雄	尾 雄 竹	小 鳥	9.4	4.8	2.1	伊藤家文 抄	ISG
305	*	黄	-	8.4	-	灰褐色	高齢(?) 初期	412	雄	竹	-	11.4	7.8	2.5	口輪口膜	ISG (雄)
306	*	*	-	6.2	-	灰褐色	高齢(?) 初期	413	-		-	8.0	-	-	-	ISG (雄)
307	*	*	-	4.4	-	淡灰褐色	高齢(?) 初期	414	雄	尾 雄 竹	8.0	2.8	4.2	-	-	ISG (雄)
308	* 小 鳥	-	3.4	-	-	弱弱、灰褐色 ◎ 口辺に黒跡	高齢(?) 初期	415	雄	尾 雄 竹	-	-	-	-	◎ ナデ、暗褐色 ◎ 黄褐色、砂粒	
309	*	翠	-	2.6	-	是走蛇形いわ 白色	高齢(?) 初期	416	雌	尾 雄 竹	-	-	-	-	◎◎ナデ 白色、砂粒	
310	*	小 鳥	-	-	-	弱弱、灰褐色 ◎ 口辺に黒跡		417	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	
311	*	鶲	-	-	-		高齢(?) 初期不規	418	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	
312	青 色	目	10.2	5.4	2.5	弱弱翼。◎ 旗垂文 ◎ 白色に黒跡(十字模様)		419	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 白色、砂粒	
313	(伊刀) 雄 或葉竹	尾(?)	-	-	-			420	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 白色	
314	*	*	[?]	-	-	-		421	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 灰褐色	伊刀-相 (日本)
315	伊刀深 或葉竹	小 鳥	6.8	-	-	◎ 旗垂文	高齢初期 100-150	422	雄	尾 雄 竹	-	-	-	-	-	
316	*	*	6.9	2.2	4.1		ITC後半	423	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 灰褐色、砂粒	伊刀-相 (日本)
317	*	三	14.0	-	-		ITC前半	424	-	-	-	-	-	-	◎ ナデ、點状 ◎ ナデ、暗褐色	伊刀
318	*	小 鳥	11.8	-	-	◎ 旗垂文	ITC後半	425	-	-	-	-	-	-	◎ ナデ、點状 ◎ ナデ、暗褐色	伊刀
319	*	三	-	-	-		ITC後半 ～HCG	426	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 灰褐色、砂粒	
320	*	*	-	-	-	◎ 旗垂文	高齢 ITC後 ～HCG	427	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	伊刀-相 (日本)
321	*	*	-	5.8	-	◎ 口辺に正羽毛 弱弱「人判甲斐」	ISG	428	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	
322	*	*	-	3.0	-		ISG後半 ～ISG前半	429	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 灰褐色、砂粒	
323	*	*	-	9.2	-	鷹頭大型頭骨 (ハリセイ) ◎ 白点斑化	ISG	430	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 灰褐色、砂粒	
324	*	*	30.2	-	-		ISG半 ～ISG半	431	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	
325	*	青 色	-	-	-		ISG(?)	432	-	-	-	-	-	-	◎ ナデ、灰褐色 ◎ ナデ、灰色、砂粒	伊刀-相 (日本)
326	*	*	5.5	-	-	口輪口膜	ISG(?)	433	-	-	-	-	-	-	◎◎ナデ 暗褐色、砂粒	

## （ ）は推定

番号 番号	種別	留置	生 長 (m)			竹 名	備考	生 長 (m)			竹 名	備考		
			口径	成長	最高			口径	成長	最高				
434	留 置	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合	留置一組 (8本)	461	土留置	环	- (7.6)	-	不明のち切出直植	
435	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合		462	-	-	-	-	ヘラ切り直	
436	-	-	-	-	-	西ナデ、毛白色 西ナデ、黄褐色、砂粒合		463	-	小 环	- (6.0)	-	茎切り直	
437	-	-	-	-	-	西野ナデ、砂粒色	留置 8.0m	464	-	-	(8.0) (7.0)	14	西野丁寧なナデ 茎切り直	
438	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合		465	-	-	(8.0) (7.0)	15		
439	-	-	-	-	-			466	-	-	(8.0) (6.0)	15	西野ナデ 茎切り直	
440	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合	留置 (8本)	467	-	-	(8.0) (6.0)	13	西野ナデ 茎切り直	
441	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合		468	-	-	(7.0) (5.0)	13	西野ナデ 切り離し直	
442	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色化、砂粒合		469	-	-	- (6.0)	-	西野ナデ 茎切り直	
443	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色化、砂粒合		470	-	不明	18.4	-		
444	-	-	-	-	-	西ナデ、黄褐色 西黄褐色、砂粒合		471	-	-	7.0	-		
445	-	-	-	-	-	西野ナデ 黄褐色、砂粒合	留置 8.0m	472	-	-	-	-		
446	-	-	-	-	-	西ナデ、黄褐色 西ナデ、黄褐色、砂粒合		473	各留置 留 环	4.8	5.3	0.1	茎切り直	
447	土留置	环	13.0	8.0	5.0 3.2	西野丁寧なナデ ヘラ切りのち留置直植		474	-	-	9.4	5.2	0.5	茎切り直
448	-	-	0.10	-	-	内区、同心円の2重の留植 茎切り直		475	-	高 环 1.5m	6.1	2.9	0.0	
449	-	-	1.50	-	-	内区 不適方向のナデ 茎切り直		476	-	直	-	4.8	-	
450	-	-	1.70	-	-	西野ナデ 茎切り直		477	-	-	-	-		
451	-	-	1.90	-	-	西野ナデ 茎切り直		478	-	直	-	5.4	-	
452	-	-	1.80	-	-	西野ナデ		479	-	直	-	4.7	-	
453	-	-	0.10	-	-	西野ナデ 茎切り直		480	-	直	5.7	/	3.6	
454	-	-	1.90	-	-	ヘラ切り直		481	-	直	9.2	3.6	3.7	西野直の留植+直
455	-	-	1.80	-	-	西野ナデ 茎切り直		482	-	直	11.3	4.8	2.7	
456	-	-	1.80	-	-	西野ナデ 茎切り直		483	-	直	5.3	/	2.6	
457	-	-	8.5	-	-	西野マツナ 茎切り直		484	-	直	-	-	◎ ハコバシのち月 ◎ 千行タキ	
458	-	-	1.70	-	-	茎切り直		485	-	直	-	-	◎ 桂オモエのちナデ ◎ 千行タキ	
459	-	-	1.80	-	-	ヘラ切り直		486	-	直	-	-	◎ ナデ ◎ 千行タキ	
460	-	-	1.80	-	-	茎切り直		487	-	直	-	-		

() は推定

番号 番号	層別 層別	高さ 高さ	底 高 (m)			特 徴	備考	番号 番号	層別 層別	高さ 高さ	底 高 (m)			特 徴	備考
			0.00	0.50	1.00						0.00	0.50	1.00		
401	石塊	變の 層	-	-	-	白ナメ ②平行タキ		404	石塊	灰 鉛	39.5	-	-		
402	-	變の 層	-	-	-	(2)ナナメ平行のナメ ②平行タキ		405	-	-	31.0	-	-		
403	-							406	-	-	-	12.4	-		

番号 番号	層別 層別	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ	底 高さ
407	灰	F+10	ピット内					519	石	E+10	ピット(2)					
408	-	F+10	ピット(3)					520	-	E+1	2号鋼筋内					
409	-	E+5	土壌(6.2)					521	-	F+10	3層					
500	-	F+10	ピット(6)					522	-	C+15	粘土層(6.4)					
501	灰	C+9	大湧と3号層の切替点	かんさし				523	-	D+8	3層					
502	-	G+11	ピット(6)	小油脂				524	-	D+4	ピット(1)					
503	-	E+11	ピット内					525	-	C+2	11号筋					
504	灰	D+12		セメント(底)				526	-	B+C+11	3号柱内					
505	-	H+7	大湧(4号層トレンチC)	セメント(底)				527	-	E+11						
506	-	D+11		セメント(底)と堆積				528	-	E+12						
507								529	-	E+8						
508	灰	D+11		セメント(底)				530	-	I+7	大湧(4号層トレンチD)	灰				
509		D+10	7号筋	セメント(底)												
510	石	D+11	7号筋	灰 石												
511	-	D+11	ピット(6)	灰 石												
512	-	D+9	大 湧	灰 石												
513	-	D+11	7号筋	灰 石												
514	-	E+8	ピット内	灰 石												
515	-	D+10	8号筋	灰 石				520	層別 番号	層別 番号	タック	底 高	底 高 (m)	底 高 (m)	底 高 (m)	底 高 (m)
516	-	C+11	4号筋	灰 石				473	上鉛	E+12	ピット内	4.0	1.1	0.3	3.76	
517	-	C+11	5層	灰 石				474	上鉛	E+10	ピット内	5.2	1.6	0.56		雨樋に 露出面有
518	-	G+11	3層	灰 石				475	上鉛	F+10		2.8	0.9	0.36		

番号	出 土 地 点	時 代	名 称	初 程 志 年 西 間	径(cm)	高 (cm)	備 考
531	E-9 2号墳穴	唐	開元通宝	武德4年 621年	2.48	2.08	
532	F-10 内		開〇〇〇		2.43	2.06	
533	R-11 Pit内		〇宋通宝		2.60	2.61	
534	E-9 Pit内	元	至大通宝	至大3年 1310年	2.34	2.07	
535	E-9 Ⅲ層	元	至大通宝		2.39	2.73	
536	E-10 Pit内	元	至大通宝		2.36	3.40	
537	R-10 Pit 内	元	至大通宝		2.16	2.11	
538	E-10 P 内	元	至大通宝		2.36	1.93	
539	E-11	元	至大通宝		2.33	2.95	
540	F-10 Pit	元	至大通宝		2.35	2.84	
541	F-10 Pit	元	至大通宝		2.31	1.69	
542	F-10 Pit	元	至大通宝		2.27	2.37	
543	F-10 P	元	至大通宝		2.36	2.47	
544	G-7 大系、井下白木中	元	至大通宝		2.33	3.63	
545	E-2 黒褐色磨	明	洪武通宝	洪武元年 1368年	2.33	2.36	
546	E-8 大系Dの内	明	洪武通宝	洪武元年 1368年	2.45	2.53	
547	E-12 Pit内	明	洪武通宝		2.33	2.87	
548	F-9 カマト内	明	洪武通宝		2.32	2.63	
549	F-10 Pit 内	明	洪武通宝		2.36	3.29	
550	E-9 2号墳穴	明	永乐通宝	永乐8年 1408年	2.51	2.67	
551	E-9 2号 壁穴	明	永乐通宝		2.52	2.29	
552	D-8 井 1 大系、芦褐色磨				2.47	2.05	
553	F-9 1号墳穴		天〇〇宝		2.48	2.20	
554	F-9 1号墳穴		洪〇通〇		2.44		
555	D-10	△ 戸	寛永通宝		2.45		
556	D-11	△ 戸	寛永通宝		2.32	1.77	
557	D-13 P 28	△ 戸	寛永通宝		2.28	1.83	
558	E-8 Pit 内	△ 戸	寛永通宝		2.25	2.10	
559	E-12	△ 戸	寛永通宝		2.37	2.38	

## V. まとめ

### 遺構・遺物について

松原第1遺跡は中世から近世にかけての集落遺跡で遺構は多様であるが、遺構そのものの時期（時代）や遺構相互の相対的な関係を決定し遺跡の性格を少しでも把握したい。まず、松原地区第1遺跡の第II層（白ボラ）は文明期（1469～87）に桜島から噴出した降下軽石であると比定されている。遺構埋土中の白ボラの有無により次の3グループ（3時期）に分けられる。

グループA：埋土中に白ボラを含むもので、埋土が第III層黒褐色砂質土。

大溝・2号溝・4号溝

グループB：埋土中に白ボラを含まないで、埋土が第III層黒褐色砂質土。

1号溝・4号溝・5号溝・13号溝・1号竪穴・2号竪穴・3号竪穴・特殊土壤  
1号土壤

（グループBは白ボラ降灰前に遺構が埋積した場合と白ボラ降灰後遺構が構築された場合が考えられる。）

グループC：埋土中に白ボラを含まないで、埋土が第III層黒褐色砂質土と第I層灰黒褐色土の混土。

3号溝・6号溝・7号溝・8号溝・9号溝・11号溝・14号溝・15号溝。

次に遺構相互の相対関係は切り合い状態から、2号溝が1号溝を3号溝が2号溝を5号溝が4号溝を12号溝が1号溝を9号溝が13号溝を31号土壤が1号溝をそれぞれ切っている。また、埋土の色調は1・2・4・6・13号溝が第III層黒褐色砂質土で、3・5（-10号溝）・7・8・9・11・15号溝が第III層黒褐色砂質土と第I層灰黒褐色土の混土に近い埋土を呈している。これらを古い順に並べると1号溝-2号溝-4号溝-6号溝-13号溝-3号溝-5号溝-7号溝-8号溝-9号溝-11号溝（12号溝不明）となる。

これらを基に遺跡の全体像を考えると、まず自然地形を利用して大溝を「」型に組らした館跡がある。これに付随したものとして1号溝と掘立柱建物跡等があり、1号溝は大溝から5～10mの間隔で並行して内走している。他、館跡内の掘立柱建物・1・2号井戸・1号井戸がある。この館跡の下限は大溝の埋土である白ボラ（堆積部位は上位から1/3程度である）の堆積状況から15世紀後半よりかなり古いことがうかがえる。次に2号溝であるが、これは松原地区第III遺跡発掘調査の1号溝と同一のもので6・7区を南北方向にほぼ直線的に走行し、北側C・7区で分岐し一方は北進し崖に達し他方は東へ屈曲し、またJ・6区でも東へ折れ両方ともそのまま東走し現在残っている道路に達する。つまり、2号溝は東側の道路を利用し長方形（平行四辺形）に土地を区画している。この区画された面積は約5,000m<sup>2</sup>程度である。さらに北側崖と2号溝と道路によって長方形に区画された約1,000m<sup>2</sup>強の敷地がある。ここは調査では2/3程が

表3. 大溝內出土

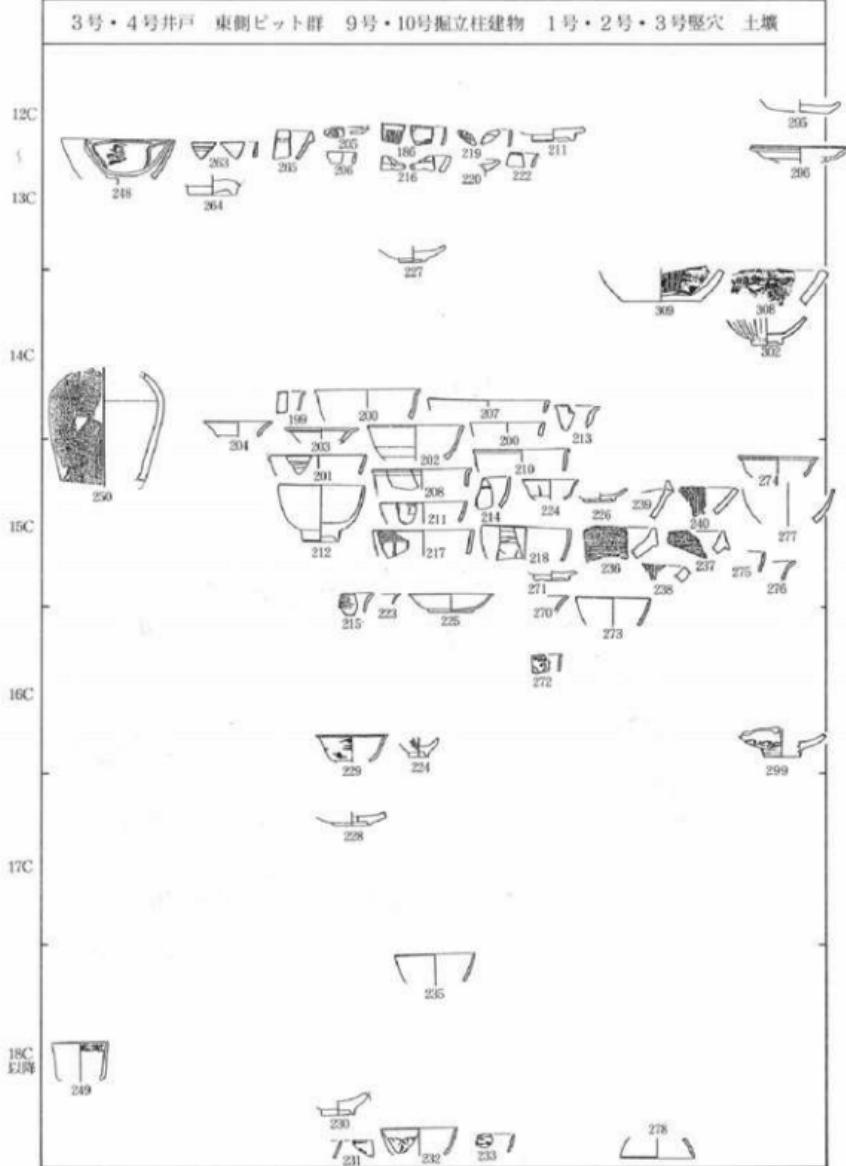
表4

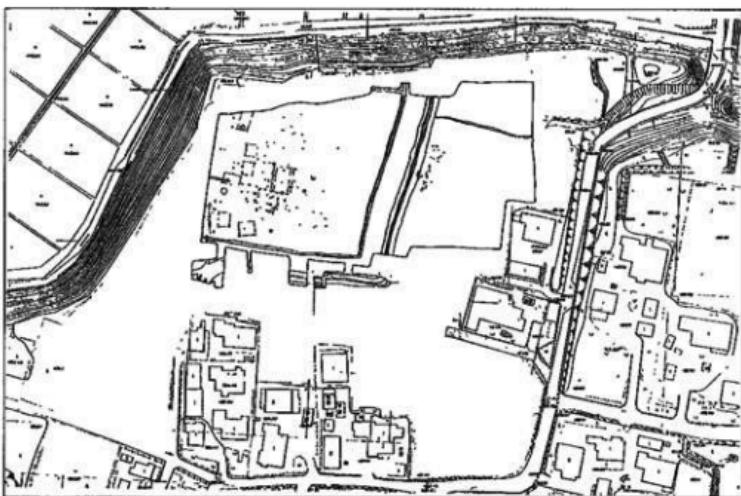
This figure is a detailed archaeological plan of the Tomb of the Marquis of Zeng, specifically Pit 5. The plan is organized into five vertical columns representing different pits (1号坑, 2号坑, 3号坑, 4号坑, 5号坑) and three horizontal rows representing different levels (12C, 13C, 14C, 15C, 16C, 17C, 18C).

- 1号坑:** Located on the far left, containing fragments of vessel 079 and 080.
- 2号坑:** Located next to 1号坑, containing fragments of vessel 068, 097, 099, 122, 131, and 127.
- 3号坑:** Located next to 2号坑, containing fragments of vessel 120, 113, 144, 145, 142, 179, and 180.
- 4号坑:** Located at the top right, containing fragments of vessel 113, 144, 145, 142, 179, and 180.
- 5号坑:** The main pit, containing numerous fragments of vessels, including:
  - 12C:** Vessel 082 and 083.
  - 13C:** Vessel 085.
  - 14C:** Vessel 094, 095, 096, 101, 102, 116, 117, and 103.
  - 15C:** Vessel 081 and 078.
  - 16C:** Vessel 104, 100, 105, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 113, 114, 115, 116, 117, 118, 119, 120, 121, 122, 123, 124, 125, 126, 127, 128, 129, 130, 131, 132, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 148, 149, 150, 151, 152, 153, 154, 155, 156, 157, 158, 159, 160, 161, 162, 163, 164, 165, 166, 167, 168, 169, 170, 171, 172, 173, 174, 175, 176, 177, 178, 179, 180, 181, 182, 183, 184, 185, 186, 187, 188, 189, 190, 191, 192, 193, 194, 195, 196, 197, 198, 199, 200, 201, 202, 203, 204, 205, 206, 207, 208, 209, 210, 211, 212, 213, 214, 215, 216, 217, 218, 219, 220, 221, 222, 223, 224, 225, 226, 227, 228, 229, 230, 231, 232, 233, 234, 235, 236, 237, 238, 239, 240, 241, 242, 243, 244, 245, 246, 247, 248, 249, 250, 251, 252, 253, 254, 255, 256, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 263, 264, 265, 266, 267, 268, 269, 270, 271, 272, 273, 274, 275, 276, 277, 278, 279, 280, 281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296, 297, 298, 299, 300, 301, 302, 303, 304, 305, 306, 307, 308, 309, 310, 311, 312, 313, 314, 315, 316, 317, 318, 319, 320, 321, 322, 323, 324, 325, 326, 327, 328, 329, 330, 331, 332, 333, 334, 335, 336, 337, 338, 339, 340, 341, 342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350, 351, 352, 353, 354, 355, 356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364, 365, 366, 367, 368, 369, 370, 371, 372, 373, 374, 375, 376, 377, 378, 379, 380, 381, 382, 383, 384, 385, 386, 387, 388, 389, 390, 391, 392, 393, 394, 395, 396, 397, 398, 399, 400, 401, 402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413, 414, 415, 416, 417, 418, 419, 420, 421, 422, 423, 424, 425, 426, 427, 428, 429, 430, 431, 432, 433, 434, 435, 436, 437, 438, 439, 440, 441, 442, 443, 444, 445, 446, 447, 448, 449, 450, 451, 452, 453, 454, 455, 456, 457, 458, 459, 460, 461, 462, 463, 464, 465, 466, 467, 468, 469, 470, 471, 472, 473, 474, 475, 476, 477, 478, 479, 480, 481, 482, 483, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, 503, 504, 505, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514, 515, 516, 517, 518, 519, 520, 521, 522, 523, 524, 525, 526, 527, 528, 529, 530, 531, 532, 533, 534, 535, 536, 537, 538, 539, 540, 541, 542, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549, 550, 551, 552, 553, 554, 555, 556, 557, 558, 559, 560, 561, 562, 563, 564, 565, 566, 567, 568, 569, 5610, 5611, 5612, 5613, 5614, 5615, 5616, 5617, 5618, 5619, 5620, 5621, 5622, 5623, 5624, 5625, 5626, 5627, 5628, 5629, 5630, 5631, 5632, 5633, 5634, 5635, 5636, 5637, 5638, 5639, 5640, 5641, 5642, 5643, 5644, 5645, 5646, 5647, 5648, 5649, 56410, 56411, 56412, 56413, 56414, 56415, 56416, 56417, 56418, 56419, 56420, 56421, 56422, 56423, 56424, 56425, 56426, 56427, 56428, 56429, 56430, 56431, 56432, 56433, 56434, 56435, 56436, 56437, 56438, 56439, 56440, 56441, 56442, 56443, 56444, 56445, 56446, 56447, 56448, 56449, 56450, 56451, 56452, 56453, 56454, 56455, 56456, 56457, 56458, 56459, 56460, 56461, 56462, 56463, 56464, 56465, 56466, 56467, 56468, 56469, 56470, 56471, 56472, 56473, 56474, 56475, 56476, 56477, 56478, 56479, 56480, 56481, 56482, 56483, 56484, 56485, 56486, 56487, 56488, 56489, 56490, 56491, 56492, 56493, 56494, 56495, 56496, 56497, 56498, 56499, 564100, 564101, 564102, 564103, 564104, 564105, 564106, 564107, 564108, 564109, 564110, 564111, 564112, 564113, 564114, 564115, 564116, 564117, 564118, 564119, 564120, 564121, 564122, 564123, 564124, 564125, 564126, 564127, 564128, 564129, 564130, 564131, 564132, 564133, 564134, 564135, 564136, 564137, 564138, 564139, 564140, 564141, 564142, 564143, 564144, 564145, 564146, 564147, 564148, 564149, 564150, 564151, 564152, 564153, 564154, 564155, 564156, 564157, 564158, 564159, 564160, 564161, 564162, 564163, 564164, 564165, 564166, 564167, 564168, 564169, 564170, 564171, 564172, 564173, 564174, 564175, 564176, 564177, 564178, 564179, 564180, 564181, 564182, 564183, 564184, 564185, 564186, 564187, 564188, 564189, 564190, 564191, 564192, 564193, 564194, 564195, 564196, 564197, 564198, 564199, 564200, 564201, 564202, 564203, 564204, 564205, 564206, 564207, 564208, 564209, 564210, 564211, 564212, 564213, 564214, 564215, 564216, 564217, 564218, 564219, 564220, 564221, 564222, 564223, 564224, 564225, 564226, 564227, 564228, 564229, 5642200, 5642201, 5642202, 5642203, 5642204, 5642205, 5642206, 5642207, 5642208, 5642209, 5642210, 5642211, 5642212, 5642213, 5642214, 5642215, 5642216, 5642217, 5642218, 5642219, 56422100, 56422101, 56422102, 56422103, 56422104, 56422105, 56422106, 56422107, 56422108, 56422109, 56422110, 56422111, 56422112, 56422113, 56422114, 56422115, 56422116, 56422117, 56422118, 56422119, 56422120, 56422121, 56422122, 56422123, 56422124, 56422125, 56422126, 56422127, 56422128, 56422129, 564221200, 564221201, 564221202, 564221203, 564221204, 564221205, 564221206, 564221207, 564221208, 564221209, 564221210, 564221211, 564221212, 564221213, 564221214, 564221215, 564221216, 564221217, 564221218, 564221219, 564221220, 564221221, 564221222, 564221223, 564221224, 564221225, 564221226, 564221227, 564221228, 564221229, 564221230, 564221231, 564221232, 564221233, 564221234, 564221235, 564221236, 564221237, 564221238, 564221239, 564221240, 564221241, 564221242, 564221243, 564221244, 564221245, 564221246, 564221247, 564221248, 564221249, 564221250, 564221251, 564221252, 564221253, 564221254, 564221255, 564221256, 564221257, 564221258, 564221259, 564221260, 564221261, 564221262, 564221263, 564221264, 564221265, 564221266, 564221267, 564221268, 564221269, 564221270, 564221271, 564221272, 564221273, 564221274, 564221275, 564221276, 564221277, 564221278, 564221279, 564221280, 564221281, 564221282, 564221283, 564221284, 564221285, 564221286, 564221287, 564221288, 564221289, 564221290, 564221291, 564221292, 564221293, 564221294, 564221295, 564221296, 564221297, 564221298, 564221299, 5642212000, 5642212001, 5642212002, 5642212003, 5642212004, 5642212005, 5642212006, 5642212007, 5642212008, 5642212009, 5642212010, 5642212011, 5642212012, 5642212013, 5642212014, 5642212015, 5642212016, 5642212017, 5642212018, 5642212019, 5642212020, 5642212021, 5642212022, 5642212023, 5642212024, 5642212025, 5642212026, 5642212027, 5642212028, 5642212029, 5642212030, 5642212031, 5642212032, 5642212033, 5642212034, 5642212035, 5642212036, 5642212037, 5642212038, 5642212039, 5642212040, 5642212041, 5642212042, 5642212043, 5642212044, 5642212045, 5642212046, 5642212047, 5642212048, 5642212049, 5642212050, 5642212051, 5642212052, 5642212053, 5642212054, 5642212055, 5642212056, 5642212057, 5642212058, 5642212059, 5642212060, 5642212061, 5642212062, 5642212063, 5642212064, 5642212065, 5642212066, 5642212067, 5642212068, 5642212069, 5642212070, 5642212071, 5642212072, 5642212073, 5642212074, 5642212075, 5642212076, 5642212077, 5642212078, 5642212079, 5642212080, 5642212081, 5642212082, 5642212083, 5642212084, 5642212085, 5642212086, 5642212087, 5642212088, 5642212089, 5642212090, 5642212091, 5642212092, 5642212093, 5642212094, 5642212095, 5642212096, 5642212097, 5642212098, 5642212099, 5642212100, 5642212101, 5642212102, 5642212103, 5642212104, 5642212105, 5642212106, 5642212107, 5642212108, 5642212109, 5642212110, 5642212111, 5642212112, 5642212113, 5642212114, 5642212115, 5642212116, 5642212117, 5642212118, 5642212119, 5642212120, 5642212121, 5642212122, 5642212123, 5642212124, 5642212125, 5642212126, 5642212127, 5642212128, 5642212129, 5642212130, 5642212131, 5642212132, 5642212133, 5642212134, 5642212135, 5642212136, 5642212137, 5642212138, 5642212139, 5642212140, 5642212141, 5642212142, 5642212143, 5642212144, 5642212145, 5642212146, 5642212147, 5642212148, 5642212149, 5642212150, 5642212151, 5642212152, 5642212153, 5642212154, 5642212155, 5642212156, 5642212157, 5642212158, 5642212159, 5642212160, 5642212161, 5642212162, 5642212163, 5642212164, 5642212165, 5642212166, 5642212167, 5642212168, 5642212169, 5642212170, 5642212171, 5642212172, 5642212173, 5642212174, 5642212175, 5642212176, 5642212177, 5642212178, 5642212179, 5642212180, 5642212181, 5642212182, 5642212183, 5642212184, 5642212185, 5642212186, 5642212187, 5642212188, 5642212189, 5642212190, 5642212191, 5642212192, 5642212193, 5642212194, 5642212195, 5642212196, 5642212197, 5642212198, 5642212199, 5642212200, 5642212201, 5642212202, 5642212203, 5642212204, 5642212205, 5642212206, 5642212207, 5642212208, 5642212209, 5642212210, 5642212211, 5642212212, 5642212213, 5642212214, 5642212215, 5642212216, 5642212217, 5642212218, 5642212219, 5642212220, 5642212221, 5642212222, 5642212223, 5642212224, 5642212225, 5642212226, 5642212227, 5642212228, 5642212229, 56422122200, 56422122201, 56422122202, 56422122203, 56422122204, 56422122205, 56422122206, 56422122207, 56422122208, 56422122209, 56422122210, 56422122211, 56422122212, 56422122213, 56422122214, 56422122215, 56422122216, 56422122217, 56422122218, 56422122219, 56422122220, 56422122221, 56422122222, 56422122223, 56422122224, 56422122225, 56422122226, 56422122227, 56422122228, 56422122229, 564221222200, 564221222201, 564221222202, 564221222203, 564221222204, 564221222205, 564221222206, 564221222207, 564221222208, 564221222209, 564221222210, 564221222211, 564221222212, 564221222213, 564221222214, 564221222215, 564221222216, 564221222217, 564221222218, 564221222219, 564221222220, 564221222221, 564221222222, 564221222223, 564221222224, 564221222225, 564221222226, 564221222227, 564221222228, 564221222229, 5642212222200, 5642212222201, 5642212222202, 5642212222203, 5642212222204, 5642212222205, 5642212222206, 5642212222207, 5642212222208, 5642212222209, 5642212222210, 5642212222211, 5642212222212, 5642212222213, 5642212222214, 5642212222215, 5642212222216, 5642212222217, 5642212222218, 5642212222219, 5642212222220, 5642212222221, 5642212222222, 5642212222223, 5642212222224, 5642212222225, 5642212222226, 5642212222227, 5642212222228, 5642212222229, 56422122222200, 56422122222201, 56422122222202, 56422122222203, 56422122222204, 56422122222205, 56422122222206, 56422122222207, 56422122222208, 56422122222209, 56422122222210, 56422122222211, 56422122222212, 56422122222213, 56422122222214, 56422122222215, 56422122222216, 56422122222217, 56422122222218, 56422122222219, 56422122222220, 56422122222221, 56422122222222, 56422122222223, 56422122222224, 56422122222225, 56422122222226, 56422122222227, 56422122222228, 56422122222229, 564221222222200, 564221222222201, 564221222222202, 564221222222203, 564221222222204, 564221222222205, 564221222222206, 564221222222207, 564221222222208, 564221222222209, 564221222222210, 564221222222211, 564221222222212, 564221222222213, 564221222222214, 564221222222215, 564221222222216, 564221222222217, 564221222222218, 564221222222219, 564221222222220, 564221222222221, 564221222222222, 564221222222223, 564221222222224, 564221222222225, 564221222222226, 564221222222227, 564221222222228, 564221222222229, 5642212222222200, 5642212222222201, 5642212222222202, 5642212222222203, 5642212222222204, 5642212222222205, 5642212222222206, 5642212222222207, 5642212222222208, 5642212222222209, 5642212222222210, 5642212222222211, 5642212222222212, 5642212222222213, 5642212222222214, 5642212222222215, 5642212222222216, 5642212222222217, 5642212222222218, 5642212222222219, 5642212222222220, 5642212222222221, 5642212222222222, 5642212222222223, 5642212222222224, 5642212222222225, 5642212222222226, 5642212222222227, 5642212222222228, 5642212222222229, 56422122222222200, 56422122222222201, 56422122222222202, 56422122222222203, 56422122222222204, 56422122222222205, 56422122222222206, 56422122222222207, 56422122222222208, 56422122222222209, 56422122222222210, 56422122222222211, 56422122222222212, 56422122222222213, 56422122222222214, 56422122222222215, 56422122222222216, 56422122222222217, 56422122222222218, 56422122222222219, 56422122222222220, 56422122222222221, 56422122222222222, 56422122222222223, 56422122222

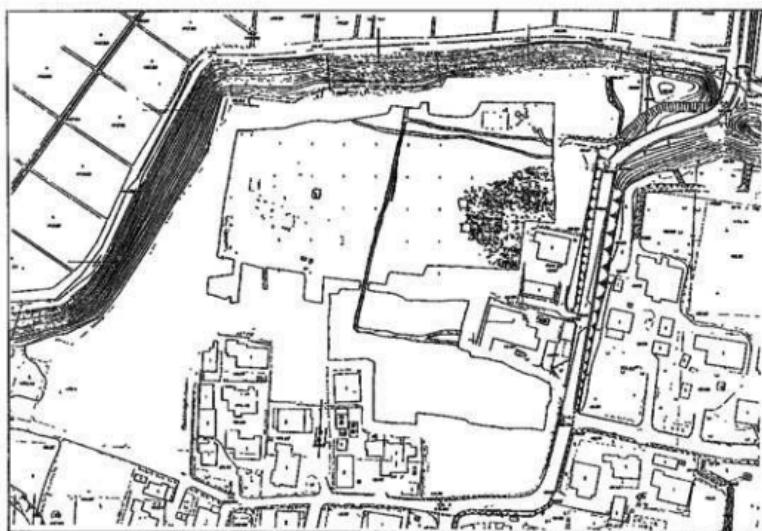
表5

3号・4号井戸 東側ピット群 9号・10号掘立柱建物 1号・2号・3号堅穴 土壌

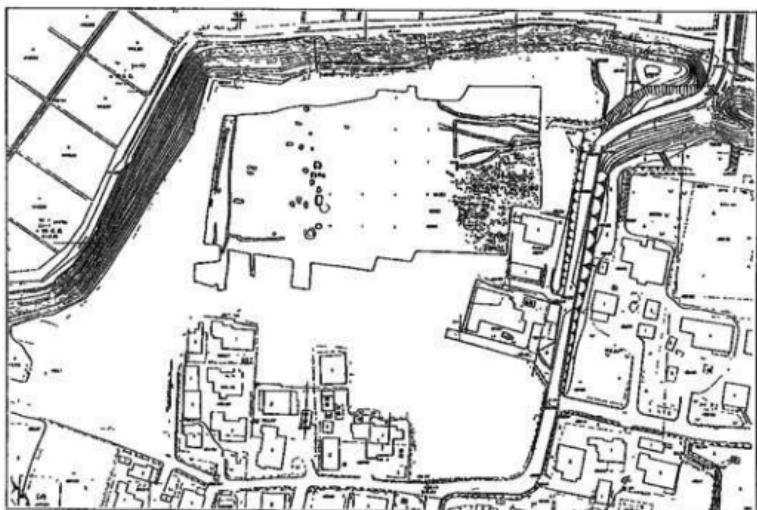




第1図：第Ⅰ期（大溝を廻らす館跡）



第2図：第Ⅱ期（2号溝に区画された館跡）



第3図：第III期（グループCを中心とした掘立柱建物跡）

排土置場となり完掘していないが、調査範囲内に9号掘立柱建物と3号井戸が検出されている。これらも2号溝に白ボラが堆積していることから存在下限は15世紀後半まで下らない。さらに前述したとおり2号溝は1号溝より新しいため上限も館址存続時期以後であることがわかる。また、2号溝と同時期の遺構は出土遺物から10号掘立柱建物・1号竪穴・2号竪穴・3号竪穴（？）3号井戸・4号井戸等が考えられる。次に3号・6号・7号・8号・11号・14号・15号溝・5号井戸とそれらの周囲にある東側ピット群そして館址内にある土壤群である。これらは埋土から近世と思われる。

以上大まかな位置づけから今度は各々遺構内出土遺物からさらに細かな年代決定を試みたい。大溝内遺物（表3参照）をみると青・白磁から国内陶磁器・土師器などが出土し、遺物の年代は12~13世紀から16世紀前半までのものである。出土レベルは1/3程の部位までに多く集中しており廃棄後かなり時間が経過した後流れ込んだものと考えられる。しかし若干深いレベルのものもある。049（東播系捏鉢）は13世紀前半で大溝床面より30cmほどで出土していることから遺棄直後堆積したものだと考えられる。また、1号溝からも12世紀末~13世紀前半の東播系捏鉢（082・083）が出土している。他006（青磁：画文花）018（白磁：玉縁口縁）や東播系捏鉢が中位より下層で出土している。これらの出土状況より大溝の存続期間（年代）を13世紀後半と位置づけたい。次に2号溝を主体として区画された5,000m<sup>2</sup>と1,000m<sup>2</sup>の各々の遺構内より出土した遺物をみてみる。（表4・5参照）まず、5,000m<sup>2</sup>の方は10号掘立柱建物及び東側ピット群（並ばなかった柱穴）からの遺物は12~13世紀と14~15世紀の青・白磁と14~15世紀の備前

等で下限は14～15世紀である。1,000mlの方では3号井戸内の遺物は検出面から12～13世紀の青磁碗(248)が、最深部から14～15世紀の常滑壺(250)・土師器(262)が出土している。9号掘立柱建物からは12～13世紀の青磁碗(186)が1点、14～15世紀の青・白磁が多数出土している。2号溝からは12～13世紀や14～15世紀の青・白磁や14～15世紀の備前・常滑等が出土している。以上から2号溝等により構成された造構の存続期間14世紀後半から15世紀前半に比定されるとと思われる。(表4・5参照)次にグループCでは、12～13世紀の青・白磁が3・7・8号溝から、15世紀後半～16世紀前半の青磁・15世紀の備前・16世紀の青花が3号溝から出土し、15世紀～16世紀前半の備前、17世紀以降の伊万里染付が7号溝から出土している。また、東側ピット群からは17世紀以降の染付も出土していることから、中世から近世にかけて断続的に生活が営まれていたようだ。以上からグループCは17世紀以降19世紀末まで存続していたと思われる。

簡潔に述べると、

第Ⅰ期(13世紀後半) : 大溝を廻らす館跡

第Ⅱ期(14世紀後半～15世紀前半) : 2号溝によって区画された館跡

第Ⅲ期(16・17世紀～19世紀) : グループCを中心とした掘立柱建物跡

となる。これら第Ⅰ期～第Ⅲ期に具体的に都城盆地を舞台に活躍した勢力を明らかにすることはできない。若干の史料や昭和63年度遺跡詳細分布調査(市内北東部)から高木屋敷跡(高木町)の周辺から60基ほどの軽石製の五輪塔が出土していることなどから、鎌倉時代には寺院等の活動が営まれていたようだ。また、児玉屋敷跡(野々美谷町)は「四方掘有…」とあり、岩満屋敷跡(岩満町)は水田を見下ろす台地縁辺に立地しているようで、松原地区第Ⅰ遺跡のⅠ期に類似している。第Ⅰ期は大溝を廻らしたり青・白磁等の舶載陶磁器の出土をみるとそれ相当の勢力を有した居館跡と思われる。第Ⅱ期は敷地の規模や出土遺物から在地領主の屋敷跡ではないかと推定される。また、第Ⅰ期は大溝(空掘)・溝・掘立柱建物・井戸から、第Ⅱ期は溝・掘立柱建物・壁穴造構(倉庫)・井戸から館が構成されている。

(矢部)

注1) 山田 渉『都城市城の歴史的環境の概要』都城市文化財調査報告書第6集 1987

#### 参考文献

中井 均『中世城館の発生展開』「物質文化」48号物質文化研究所

小和田哲男『戦国考古学の視点』「季刊考古学」26号雄山閣

「宮崎県学園都市遺跡発掘調査報告書」第2集 宮崎県教育委員会 1985

「城郭研究特集号」帝京大学山梨文化財研究所報 1988

宇野隆夫「後半期の須恵器」

## 土師器について

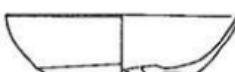
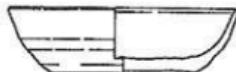
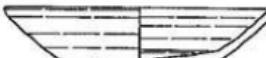
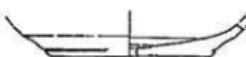
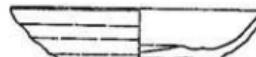
松原地区第Ⅰ遺跡では土師器片約300点が出土し、その中で実測可能な破片は108点である。実測分の遺構別出土数、実測分の壺と小皿の数、実測分のヘラ切り底と糸切り底の数は表6のとおりである。

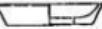
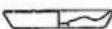
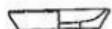
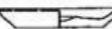
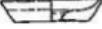
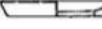
以下実測可能な壺と小皿を大まかではあるが次のとおり壺を6分類7細分、小皿を6分類9細分した。まず、壺をI類、小皿をII類とし底部の切り離しの違いによってヘラ切り底(A)糸切り底(B)とした。そして、壺(I)はヘラ切り底(A)を3形態に糸切り底(B)を3形態に分類した。I・A・1類は底部から口縁部へ直線的に立ち上がるるもの。I・A・2類は底部から体部への立ち上がりに段を有するもの。I・A・3類は底部から体部へ内湾ぎみに立ち上がるものの。I・B・1類は底部から口縁部へ直線的に立ち上がるもので、a類は器高が高く器壁が薄い(一様)もの、b類は器高が低いわりには口径が大きい大型のものである。I・B・2類は底部から体部への立ち上がりに段を有するもの。I・B・3類は底部から体部へ内湾ぎみに広がりながら立ち上がり、体

遺構名	実測分	器種		底部切り離し		
		壺	小皿	ヘラ切り	糸切り	不明
大溝	18	10	8	1	15	2
1号溝	7	5	2	3	3	1
2号溝	6	5	1	1	5	0
3号溝	5	3	2	1	4	0
13号溝	1	1	0	1	0	0
荆崎ピット内	1	0	1	0	1	0
西畠ピット内	5	3	2	3	1	1
9号掘立	5	1	4	0	4	1
1号井戸	2	1	1	1	0	1
3号井戸	11	6	5	0	8	3
4号井戸	3	1	2	0	3	0
特殊土壤	11	7	4	1	10	0
9号土壤	1	0	1	0	1	0
11号土壤	1	1	0	0	0	1
14号土壤	5	3	2	2	3	0
16号土壤	1	0	1	1	0	0
20号土壤	1	0	1	0	1	0
22号土壤	1	1	0	1	0	0
一般(包含層)	23	16	7	4	16	3
計	108	64	44	20	75	13

表6 土師器実測分出土状況

部内外に稜線を有するものである。小皿はヘラ切り底を3分類し、II・A・1類は体部から口縁にかけて直線的に急峻に立ち上がるもの。II・A・2類は体部から口縁にかけて外反し口縁が先細りする。II・A・3類は底部から口縁にかけて内湾ぎみに立ち上がるもの。糸切り底も同様で、II・B・1類は体部から口縁にかけて直線的に立ち上がるもので、a類は立ち上がりが急峻なもので底が凹凸なもの、b類は立ち上がりが急峻なもので底が平坦なもの、c類は口が広がるものである。II・B・2類は底部から外反し口縁が先細りで底が厚手がa類、薄手がb類である。II・B・3類は底部から口縁にかけて内湾ぎみに立ち上がり器壁が厚手のものに分類した。

種別	底	分類	特徴	形態	
I	A	1	底部から口縁部へかけて直線的に立ち上がるるもの		
		2	底部から体部への立ち上がりに段を有するもの		
		3	底部から体部へ内湾ぎみに立ち上がるるもの		
	B	1	底部から口縁部へかけて直線的に立ち上がるるもの	a 器高が高い 器壁が薄く 一様	
				b 器高が低い 口径が大き く大型	
		2	底部から体部への立ち上がりに段を有するもの		
		3	底部から体部へ内湾ぎみに立ち上がり、口径が大きいもの		

種別	底	分類	特 徹	細 分	特 徵	形 態
II	A	1	直線的に立ち上がり急峻なもの			
		2	体部から口縁にかけて外反し、口縁が先細りする			
		3	底部から口縁にかけて内湾ぎみに立ち上かるもの			
	B	1	直線的に立ち上がるるもの	a	立ち上がり が急峻底が 凹凸	
				b	立ち上がり が急峻底が 平坦	
				c	口が広がるもの	
	2	2	体部から口縁にかけて外反し、口縁が先細りするもの	a	底が厚手	
				b	底が薄手	
	3	3	体部から口縁にかけて内湾ぎみに立ち上り厚手			

土師器・小皿分類表

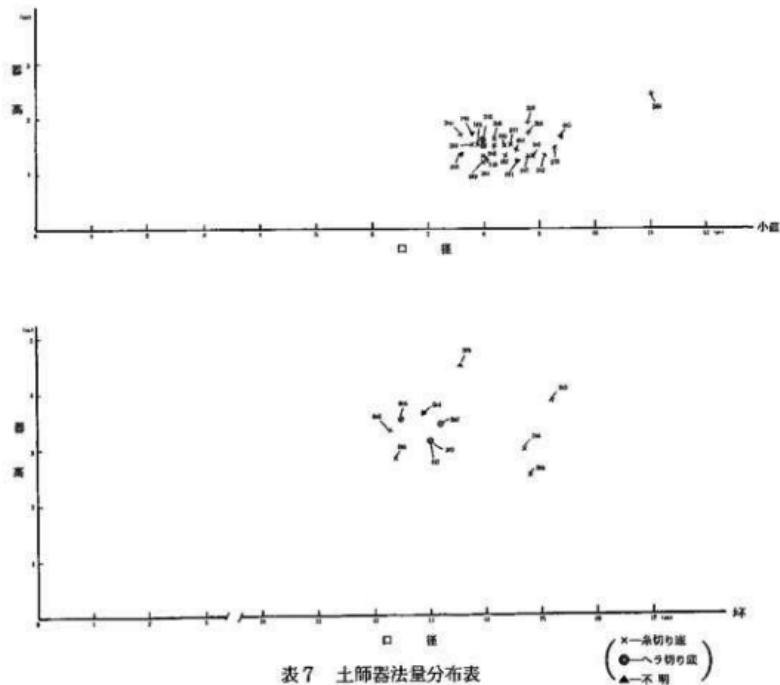


表7 土器法量分布表

坏について、I・A・1類とI・B・1a類、I・A・2類とI・B・2類の違いは基本的には底部の切り離しの相違によるもので器形は酷似している。I・A・1類の出土は086・087(1号溝)、435(C・6区)、190(E・4区土壤)、312(F・5区土壤)、115(13号溝)で大きく言えば435.190.312.115は館址内からの出土とみることができる。I・B・1a類の出土は085(1号溝)、060(大溝)である。また、I・A・2類の出土は065(大溝)、140(3号溝)、195(E・4区ピット)、455(D・3区)、462(C・6区)で、I・B・2類の出土は192(E・4区土壤)で、これらも館址内からの出土とみることができる。次に、I・B・3類は146(1号溝)、283.284.285(特殊土壤)、436(C・9区)、452・456(C・11区)で、I・B・1b類の出土は059(大溝)、191(C・10区ピット)で、出土遺構は特殊土壤が最も多く、他大溝、1号溝、2号溝及び3号井戸からと調査区東側C・9区、C・11区である。これらI・B・3類とI・B・1b類の特徴は底部の切り離しが糸切りでロクロ成形痕と思われる器面内外の稜と底部に同心

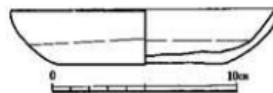
円状の凹凸を有していること。相違点は立ち上がりの違いによるものである。

小皿について、II・B・1c類の出土は187(9号掘立柱建物)、262(3号井戸)、290・292(特殊土壌)である。262は3号井戸最深部より250(常滑窯)と共に共伴している。I・B・3類とII・B・1c類は特殊土壤内出土、成形痕等の類似によりセット関係(一括資料)として捉えることができると思われる。また、II・A・1類(256)やII・B・1a類(187・194・306)のように立ち上がりが急峻になる方がII・B・1c類より古いと考えられる。

ところで、1号溝は館を構成する遺構の1つであるが埋土に白ボラは堆積していない。しかし、大溝・2号溝に白ボラの堆積がみられることは、1号溝は排泄後白ボラの降下前にはすでに埋積している。言い換えれば、検出面を除けば流れ込みなどを考える必要がなく1号溝からの出土遺物はある程度時間的に限定することができると言える。

まず、具体的年代を限定できるものとして250(常滑窯)は14世紀後半から15世紀前半に位置づけられている。このことからI・B・3類とII・B・1c類は同時期に比定でき特殊土壤も14世紀後半から15世紀前半ごろに、つまり2号溝の時期に存在した可能性がある。次に、I・A・1類とI・B・1a類及びI・A・2類とI・B・2類の坏とII・A・1類とII・B・1a類及びII・A・2類とII・B・1a類の小皿は出土遺構から13世紀後半に比定でき、ヘラ切りから糸切りへの転換も13世紀後半に漸移的に移行したのではないかと思われる。また、松原地区第IV遺跡の2号溝から右記の土師器坏が出土している。2号溝は規則性をもち埋土は第III層黒褐色土で、共伴遺物は櫛描文の青磁碗や内面見込みにヘラによる片彫りの花文を有する龍泉窯系の青磁小皿などである。この坏は第I遺跡の分類ではI・A・3類の器形と同じく内湾ぎみに立ち上がり、底部の切り離しは糸切りである。このことから、I・A・3類にもヘラ切りと糸切りが存在し、松原地区第IV遺跡2号溝の共伴遺物からI・A・3類も13世紀代の後半に編年することができると思われる。

(矢部)



松原第IV遺跡出土土師器

注1) 松原地区第IV遺跡は昭和62年度発掘調査を実施し、調査担当である柴畠光博氏の許可を得て土師器坏を掲載した。

#### 参考文献

「宮崎学園都市発掘調査報告書」第2集 宮崎県教育委員会 1985

『山内石塔群』宮崎学園都市発掘調査報告書 第1集 宮崎県教育委員会 1984

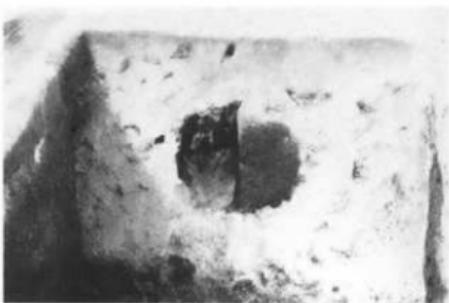
『伐株山城跡』大分県玖珠町教育委員会 1984



P.L. 3 松原第I・II遺跡航空写真 (1/3,000)



P L . 4 松原第1遺跡航空写真 (1/750)



PL. 5 松原第1遺跡大溝全景及び削壁落込み



PL. 6 松原第 I 遺跡大溝内遺物出土状況



PL. 7 松原第 I 遗跡大溝・1号・2号溝全景



Pl. 8 松原第1遺跡大溝・溝検出状況



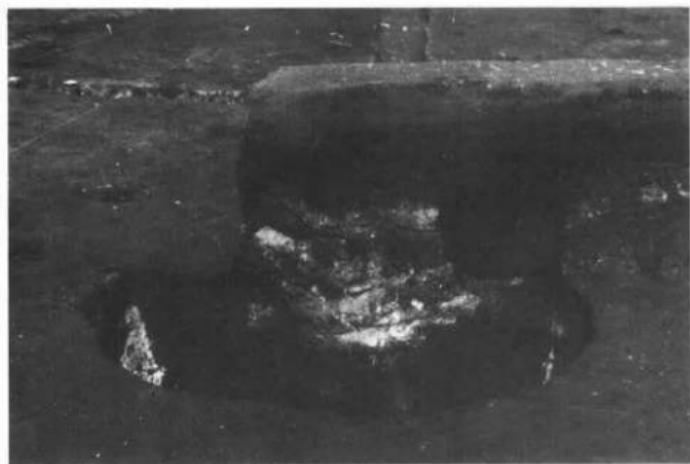
PL. 9 松原第1遺跡西側地区溝検出及び完掘状況



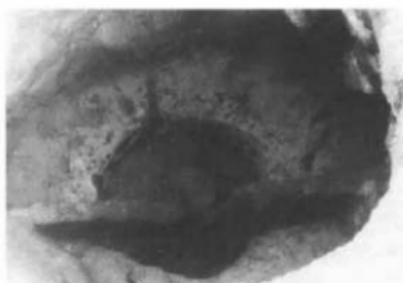
PL. 10 松原第1遺跡西側地区土壤及び柱穴出土状況



PL. 11 松原第1遺跡東側地区柱穴出土状況



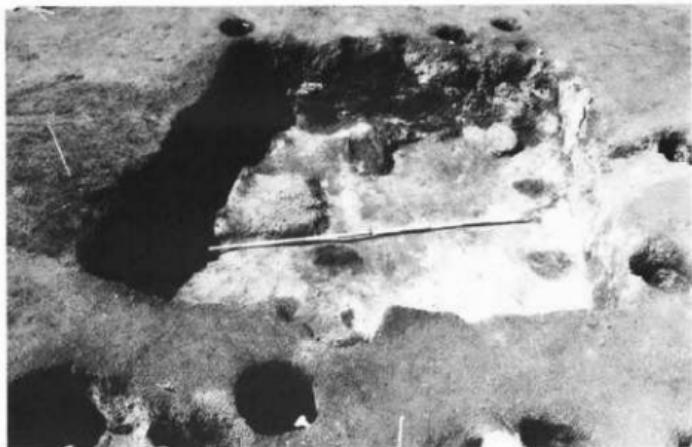
PL. 12 松原第1遺跡 2号井戸



PL. 13 松原第1遺跡3号井戸



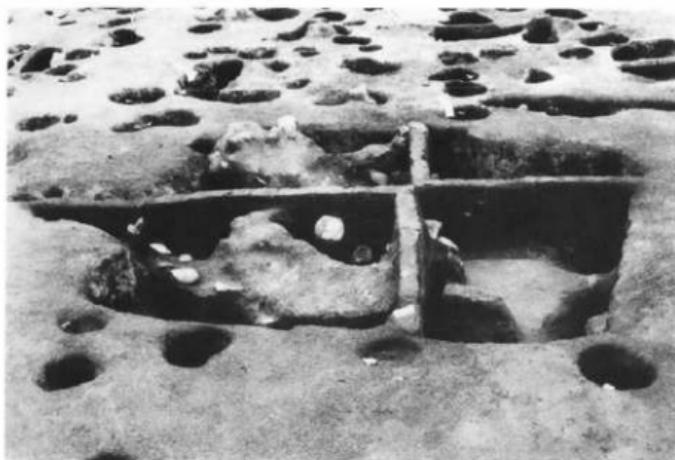
PL. 14 松原第 I 遺跡 4 号井戸



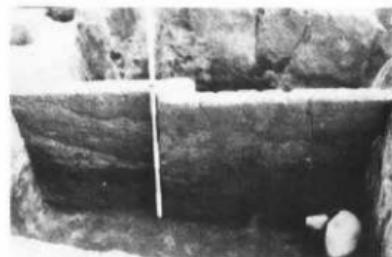
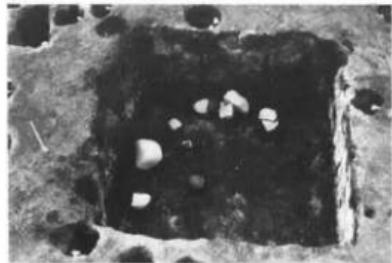
炭化物出土状况



PL. 15 松原第1遺跡1号堅穴遺構



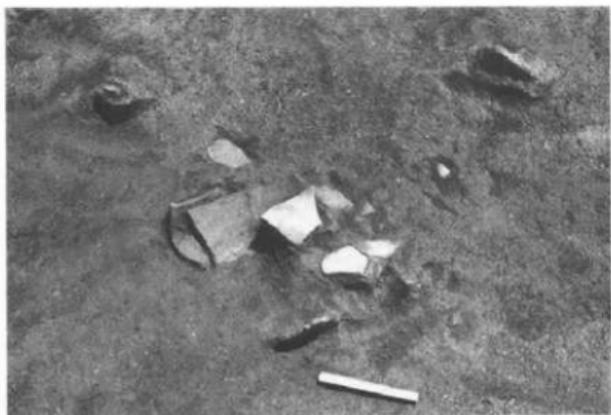
PL. 16 松原第1遺跡 2号堅穴遺構



PL. 17 松原第 I 遺跡 3号竪穴遺構



PL. 18 松原第1遺跡特殊土壤



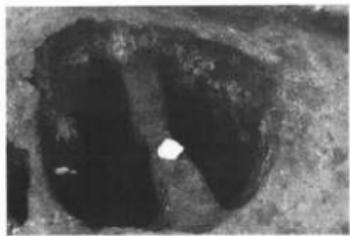
Pl. 19 松原第1遺跡1号土壙及び遺物出土状況



No.20土壤



No.24土壤

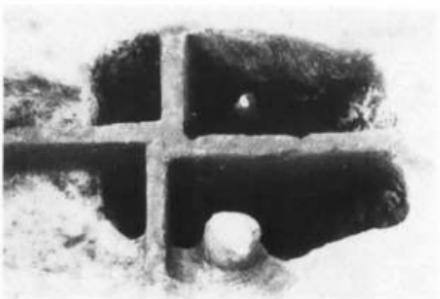


PL. 20 松原第I遺跡22号・20号・23号・24号土壤

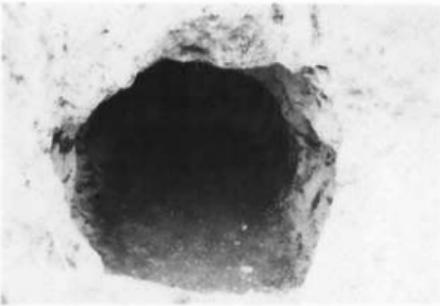
No.23土壤



No.24土壤



No.18土壤

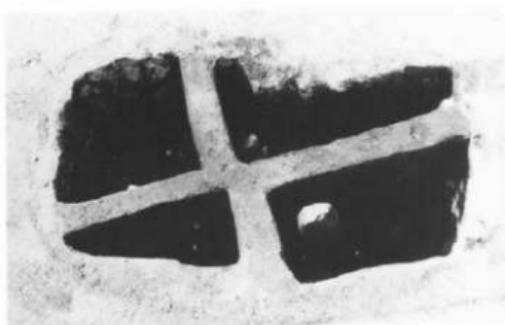


PL. 21 松原第I 遺跡土壤23号・24号・18号



No.30土壤

No.31土壤

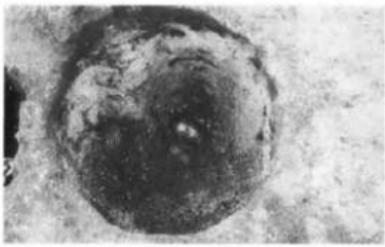
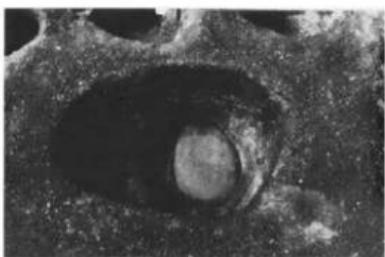


No.30土壤



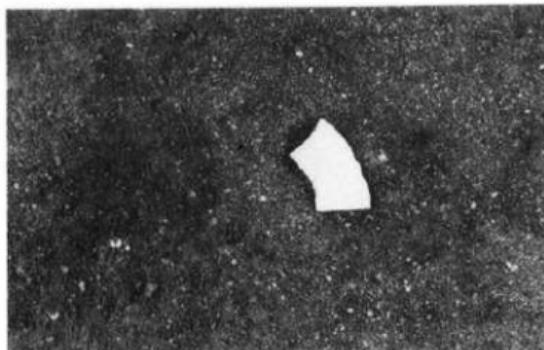
No.32土壤

PL. 22 松原第I遺跡土壤30号・31号・32号



PL. 23 松原第 I 遗迹西侧地区柱穴出土状况

大溝・白ボラ上



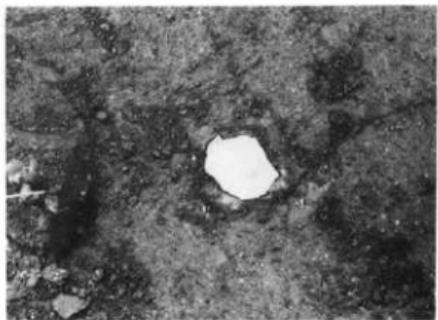
大溝・白ボラ上



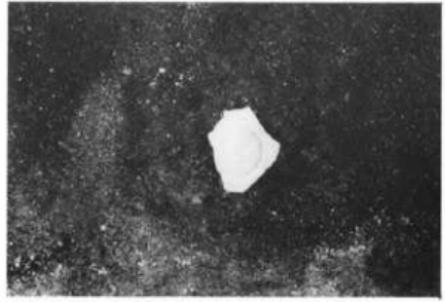
大溝・床面直上



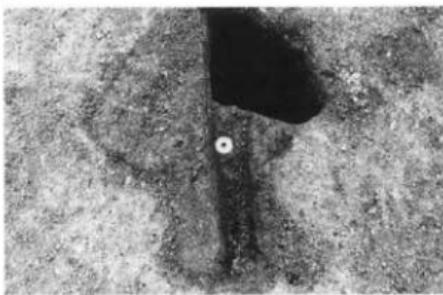
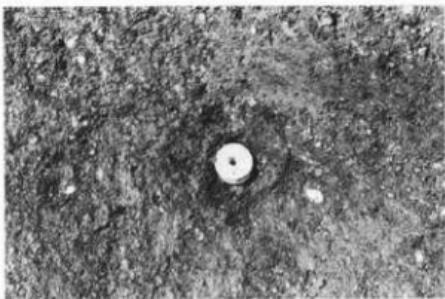
PL. 24 松原第 I 遺跡遺物出土状況—1



PL. 25 松原第 I 遺跡遺物出土狀況—2

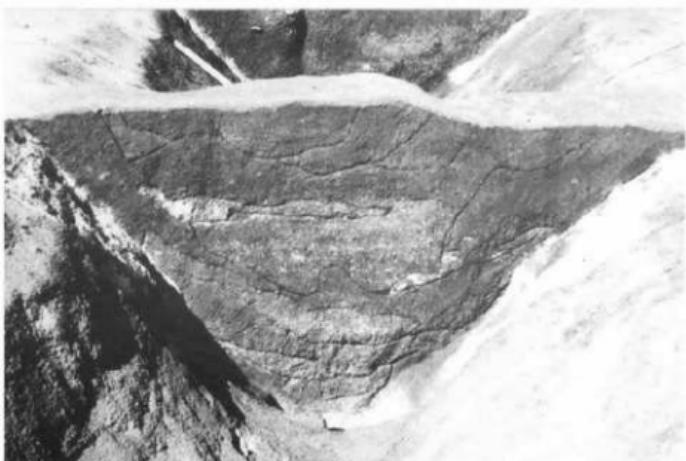


PL. 26 松原第 I 遺跡遺物出土狀況—3



PL. 27 松原第 I 遺跡遺物出土状況—4

白ホウ堆積状況

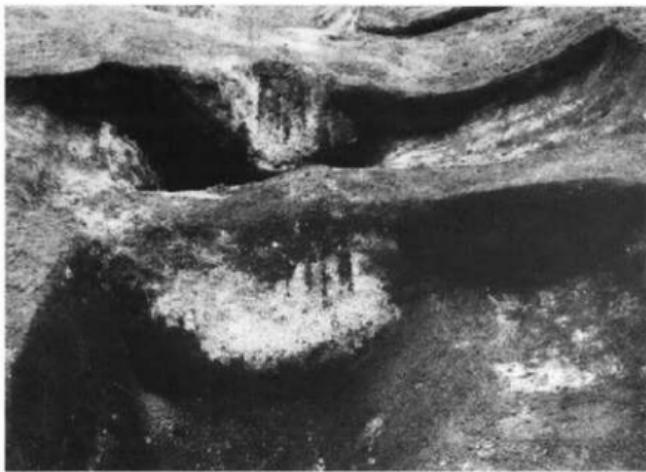


PL. 28 松原第Ⅰ遺跡遺物大溝セクション



PL. 29 松原第 I 遺跡遺物 2 号溝セクション

2号溝白ボラ堆積状況

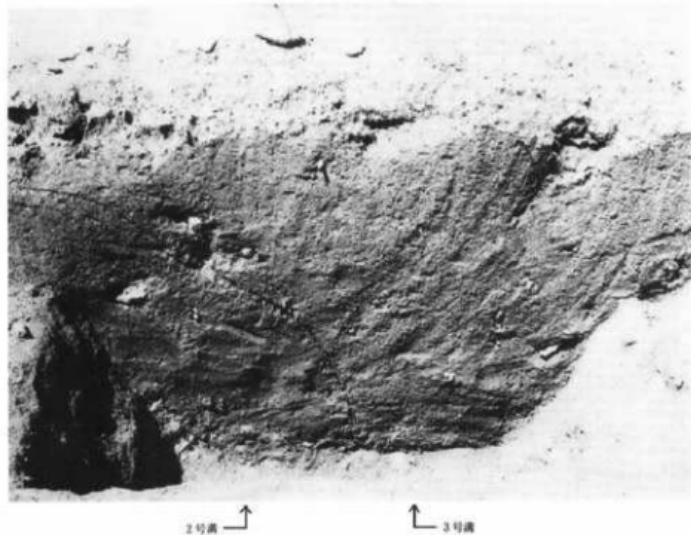


鹿棗石群と  
2号溝出土状況

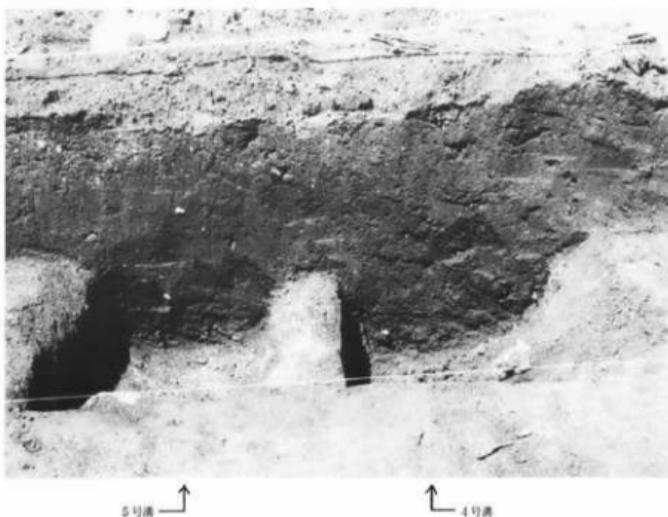


PL. 30 松原第1遺跡遺物 2号溝

C-9区  
2・3号溝切り  
合ひ状況



C-9区  
4・5号溝切り  
合ひ状況



PL. 31 松原第I遺跡遺物 2号・3号溝及び4号・5号溝切り合ひ状況

大溝内 2号溝(東より)



大溝内 3号溝(東より)



PL. 32 松原第I遺跡遺物 2号・3号溝



002



003



004



005



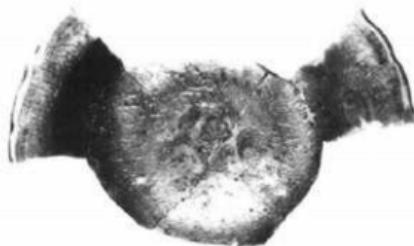
006



007



008



009



012

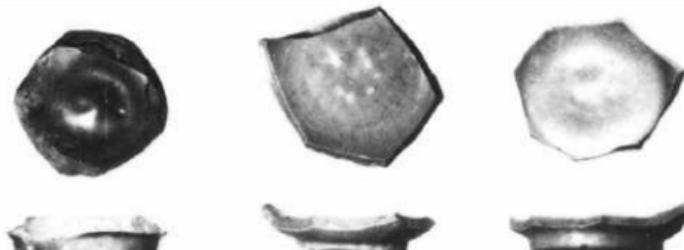


010

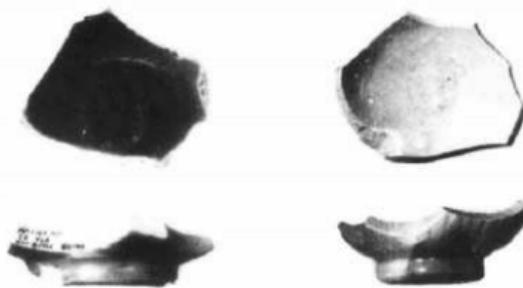


011

P L . 33 松原第 I 大溝内出土遺物-1



013 014 015



016 017 018



019 020 021



022 023 024



025



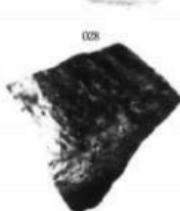
027



028



029



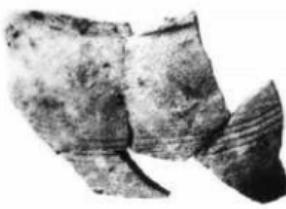
030



031



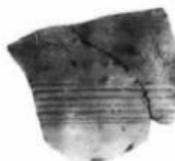
032



033



034



035

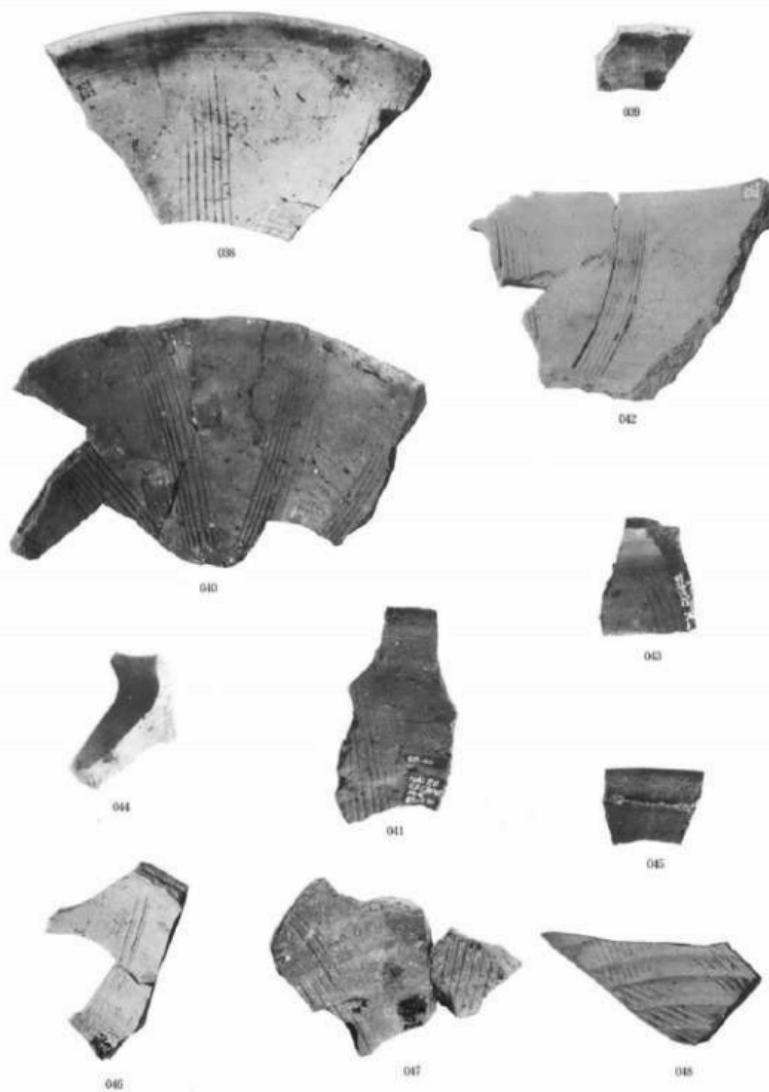


036



037

PL. 35 松原第 I 遺跡大溝内出土遺物-3・4



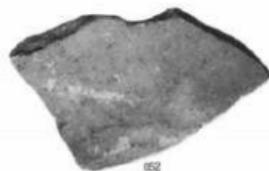
P.L. 36 松原第 I 遺跡大溝内出土遺物-5



050



051



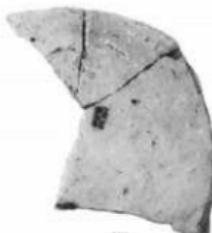
052



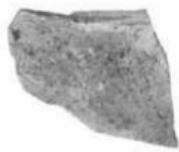
053



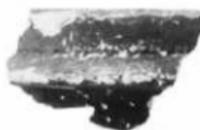
054



055



056



057



058

PL. 37 松原第 I 遺跡大溝内出土遺物—6



Pl. 38 松原第1遺跡大溝内出土遺物—7



078



079



080



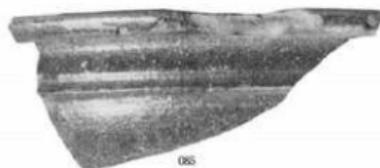
082



083



081



085



084



086



087



088



089



090



091

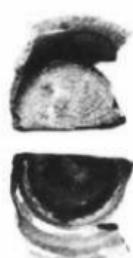


092

PL. 39 松原第 I 遗迹 1 号沟内出土遗物



P L . 40 松原第 I 遺跡 2 号溝内出土遺物



116



117



118



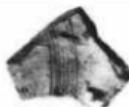
121



119



120



122



123

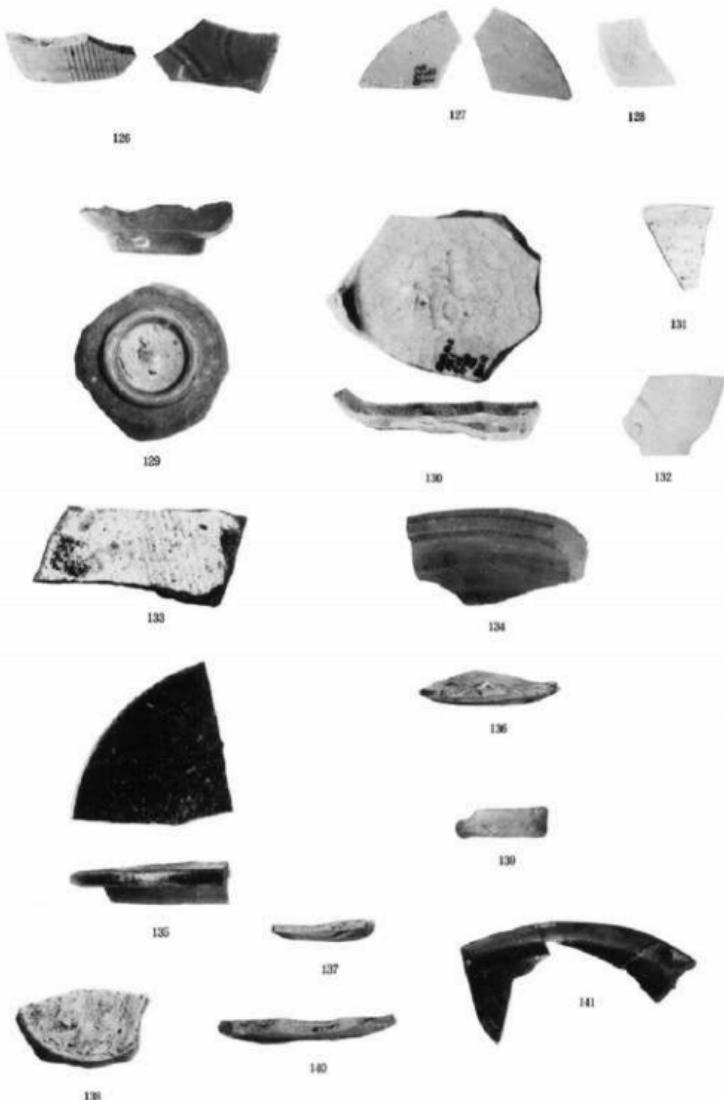


124

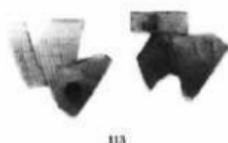


125

P L . 41 松原第 I 遗踪 4 号溝内出土遺物



PL. 42 松原第1遺跡溝3号・5号溝内出土遺物



113



114



115



192



193



194



195



196



197



198



199



200



205



206



209

P.L. 43 松原第1遺跡6・13号溝、5号井戸、21号、26号土壙及び西側ピット群内出土遺物



142



143



144



145



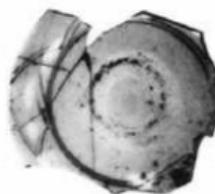
146



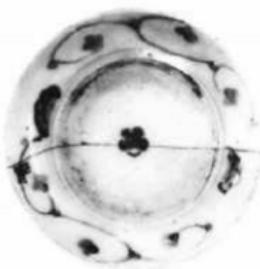
147



148



149



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170

P L . 45. 松原第1遺跡7号溝内出土遺物-2



171



172



174



173



175



176



177



178

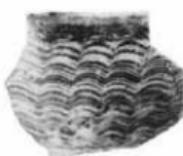
PL. 46 松原第 I 遺跡 7 号溝内出土遺物-3



179



180



181



182



183



184



185

PL. 47 松原第 I 遗迹 8 号・9 号・11 号溝内出土遺物



186



187



188



189



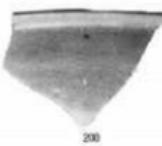
190



191



199



200



201



202



203



204



247



246

PL. 48 松原第1遺跡掘立柱建物柱穴及び1号井戸内出土遺物



205



206



207



208



209



210



211



212



213



214



215

215



216



217



218



219



220



221

PL. 49 松原第1遺跡東側ビット内出土遺物—1



222



223



224



225



227



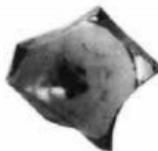
228



228



229



231



232



233



234

230

P.L. 50 松原第Ⅰ遺跡東側ピット内出土遺物-2



235



236



237



238



239



240



241



242



243



244

PL. 51 松原第Ⅰ遺跡東側ヒット内出土遺物—3



248



249



250



251



252



253



254



255



256



257



258



259



260



261



262

PL. 52 松原第Ⅰ遺跡3号井戸内出土遺物



263



264



265



266



267



268



279



271



272



273



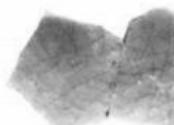
276



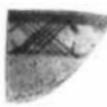
275



274



277



278



279



PL. 54 松原第 I 道砾 1 号・2 号・3 号竖穴道構内出土遺物



280



281



282



283



284



285



286



287



288



289



290



291

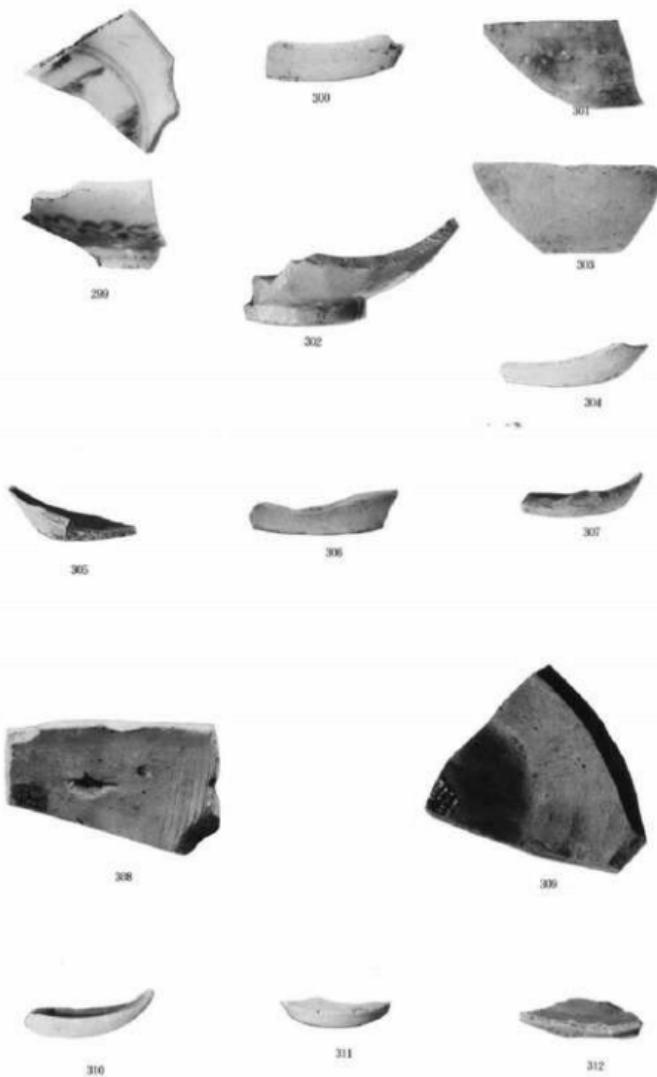


292



293

Pl. 55 松原第 I 遗迹特殊土壤内出土遗物



PL. 56 松原第 I 遺跡土壤内出土遺物



313



314



315



316



317



318



319



320



321



322



323



324



325



326



327



328

PL. 57 松原第 I 遗跡出土遺物—青磁 I